

平成19年度
自己点検・評価報告書

平成20年6月
常葉学園短期大学

**平成 19 年度
自己点検・評価報告書**

常葉学園短期大学

平成 19 年度 第三者評価「適格」認定をいただいた

学 長 山本 伸晴

常葉学園短期大学は、平成 19 年度短期大学基準協会による第三者評価を受け、「適格」認定をいただいた。

その基礎になった自己点検・評価報告書の作成は、4 科についてそれぞれ記載しなければならず、指定されたページ数以内にまとめるのが大変だった。自己評価委員会で何度も推敲し、ようやく完成をみた。

第三者評価導入の初期には、なぜいまさらという感があったことは否定できない。しかし 10 領域にわたる点検は非常に重要な作業であり、全ての教職員の意識改革化にすばらしい効果をもたらしたと思っている。また第三者評価員の方々に客観的に評価、指摘して頂いたことも私たちにとって大きな収穫であった。改善策についてはこの 4 月から実行した。

本学への訪問調査は 10 月初旬であったが、私は 9 月中旬に他の短期大学の訪問調査があり、そのための準備と重なりかなりきつかったが、常に比較しながらできることは良かったと思っている。21 年度には相互評価を実施する予定で進行中である。これから時代は常に点検と改革が必要であろう。そしてその結果は私たちが進む羅針盤となることを再確認したい。

最後に第三者評価員としてお出かけいただいた方々と、ALO として評価にかかわる全てを統括した尾崎自己評価委員会委員長と、各委員の皆さんに感謝したい。

平成 19 年度 自己点検・評価報告書 目次

《短期大学の特色等》の記述について	1
《 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標》の記述及び資料等について	
【建学の精神、教育理念について】	6
【教育目的、教育目標について】	7
【定期的な点検等について】	9
《 教育の内容》の記述及び資料等について	
【教育課程について】	9
【授業内容・教育方法について】	26
【教育改善への努力について】	27
【特記事項について】	29
《 教育の実施体制》の記述及び資料等について	
【教員組織について】	32
【教育環境について】	35
【図書館・学習資源センター等（以下「図書館等」という。）について】	38
【特記事項について】	42
《 教育目標の達成度と教育の効果》の記述及び資料等について	
【単位認定について】	42
【授業に対する学生の満足度について】	54
【退学、休学、留年等の状況について】	56
【資格取得の取組みについて】	60
【学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価について】	62
【特記事項について】	66
《 学生支援》の記述及び資料等について	
【入学に関する支援について】	66
【学習支援について】	68
【学生生活支援体制について】	69
【進路支援について】	75
【多様な学生に対する支援について】	81
【特記事項について】	82

《 研究》の記述及び資料等について	
【教員の研究活動全般について】	83
【研究のための条件について】	84
【特記事項について】	86
《 社会的活動》の記述及び資料等について	
【社会的活動（国際的活動は別項で記述）への取組みについて】	86
【学生の社会的活動について】	88
【国際交流・協力への取組みについて】	89
【特記事項について】	89
《 管理運営》の記述及び資料等について	
【法人組織の管理運営体制について】	90
【教授会等の運営体制について】	97
【事務組織について】	102
【人事管理について】	106
《 財務》の記述及び資料等について	
【財務運営について】	109
【財務体質の健全性と教育研究経費について】	112
【施設設備の管理について】	112
《 改革・改善》の記述及び資料等について	
【自己点検・評価について】	114
【自己点検・評価の教職員の関与と活用について】	115
【相互評価や外部評価について】	116
【第三者評価（認証評価）について】	116
【特記事項について】	117
《将来計画の策定（自由記述）》の記述について	118
《付編 1》平成 18 年度カリキュラム	119
《付編 2》参考資料一覧表	122
おわりに	123

《短期大学の特色等》の記述について

(1) 短期大学を設置する学校法人(以下「法人」という。)の沿革(概要)及び短期大学の沿革(概要)。

1) 設置の趣意

常葉学園の創立者木宮泰彦の創立趣意は、「女子の高等教育附与」にあり、昭和 21 年 6 月 8 日に創立した「静岡女子高等学院」は、そのあらわれであった。同学院は各種学校ともいるべきもので、その後昭和 25 年、財団法人から学校法人への組織変更の認可を受けた。

この高等教育への念願により昭和 41 年 4 月、常葉学園として初めての大学「常葉女子短期大学」が誕生し、創立者木宮泰彦が初代学長に就任した。当初の学生数は国文科 18 人、保育科 86 人の合計 104 人であった。その後、昭和 53 年 4 月に「常葉学園短期大学」と名称変更をし、現在に至っている。

この間、昭和 43 年 4 月に音楽科を、45 年 1 月に専攻科(保育専攻・音楽専攻)の設置認可、さらに 47 年に英文科、美術・デザイン科を増設した。このうち美術・デザイン科と同専攻科は平成 14 年 3 月に常葉学園大学造形学部に改組転換し、平成 16 年 3 月に廃止した。現在は、日本語日本文学科、英語英文科、保育科、音楽科の 4 科とともに、専攻科(国語国文専攻、保育専攻、音楽専攻)を擁する総合短期大学となり、平成 18 年度には創立 40 周年を迎えたところである。

2) 学園の沿革

年	月	
昭和 21	6	木宮泰彦、静岡女子高等学院を浅間神社北回廊で開校
昭和 23	2	財団法人 常葉学園設置認可
昭和 23	4	五島秀次、初代理事長に就任 常葉中学校開校
昭和 25	12	財団法人常葉学園を学校法人に組織変更認可
昭和 26	10	静岡女子高等学院を常葉高等学校と改称・認可
昭和 34	3	木宮泰彦、第 2 代理事長に就任
昭和 38	4	橘高等学校開校
昭和 40	4	橘中学校開校
昭和 41	4	常葉女子短期大学開学 短大付属とこは幼稚園開園
昭和 44	10	創立者木宮泰彦逝去
昭和 44	11	木宮和彦、第 3 代理事長に就任
昭和 45	4	短大附属たちはな幼稚園開園
昭和 47	4	常葉学園菊川高等学校開校
昭和 53	4	常葉学園橘小学校開校
昭和 53	4	常葉学園傘下の各校(園)の名称変更
昭和 55	4	常葉学園大学開学
昭和 63	4	常葉学園浜松大学開学
平成 2	4	常葉学園富士短期大学開学
平成 8	4	常葉学園医療専門学校開学
平成 10	4	常葉学園浜松大学を浜松大学と名称変更
平成 12	4	富士常葉大学開学
平成 14	4	木宮健二、第 4 代理事長に就任
平成 15	4	菊川中学校開校
平成 17	4	常葉学園静岡リハビリテーション専門学校開校

3) 短大の沿革

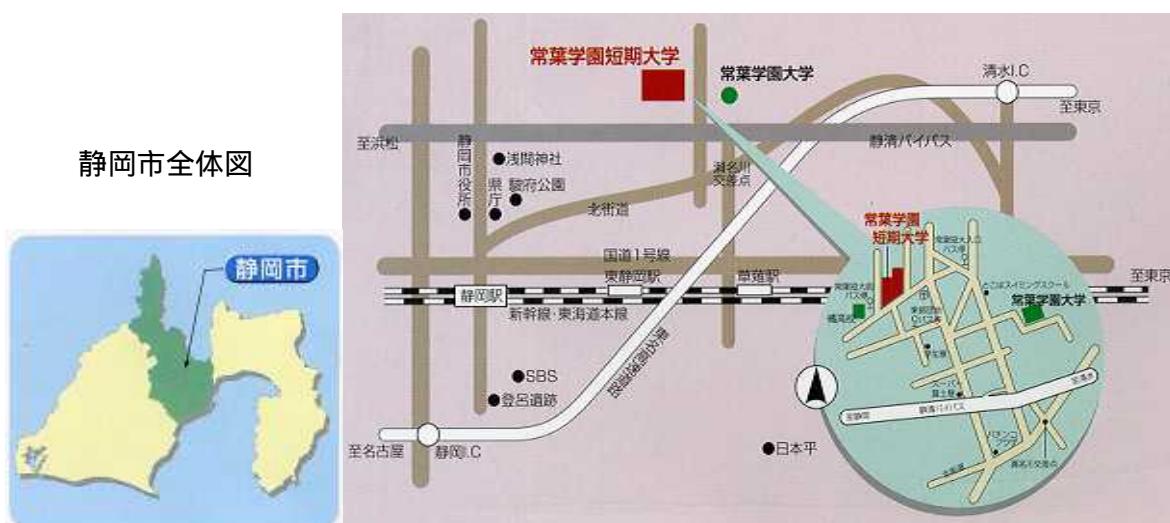
年	月	
昭和 40	4	常葉女子短期大学創立事務所を橘高校に設置 所長に木宮乾峰就任
昭和 40	6	校舎建築着工
昭和 41	1	文部省より短期大学（国文科・保育科）及び附属とこは幼稚園設置認可
昭和 41	4	木宮泰彦、初代学長に就任 第1回入学式挙行
昭和 43	3	音楽科増設申請認可
昭和 44	11	木宮乾峰、第2代学長に就任
昭和 45	1	専攻科保育専攻・同音楽専攻設置認可
昭和 45	2	附属たちはな幼稚園設置認可
昭和 46	6	菊川校舎起工式
昭和 47	1	英文科、美術・デザイン科（菊川校舎）増設申請認可
昭和 53	4	常葉学園短期大学と名称変更
昭和 61	4	斎藤達雄、第3代学長に就任
平成 3	4	木宮一邦、第4代学長に就任
平成 5	1	附属環境システム研究所設置
平成 5	4	専攻科保育専攻・音楽専攻が学位授与機構の認定専攻科となる
平成 5	5	学生会館完成 「シトラスホール」と命名
平成 6	2	専攻科美術・デザイン専攻が学位授与機構の認定専攻科となる
平成 7	1	国文科を国語国文科に、英文科を英語英文科に科名変更
平成 7	2	専攻科国語国文専攻が学位授与機構の認定専攻科となる
平成 7	4	菊川キャンパスに学生会館完成 「グリーンホール」と命名
平成 9	4	丹治智義、第5代学長に就任
平成 12	4	英語英文科、菊川校舎より静岡校舎に移転
平成 13	4	国語国文科を日本語日本文学科に科名変更
平成 13	4	附属環境システム研究所を富士常葉大学へ移管
平成 14	4	奥村浩之、第6代学長に就任
平成 16	3	美術・デザイン科、専攻科美術・デザイン専攻廃止
平成 16	4	ライフデザインセンター開設、こども総合研究センター開設
平成 16	4	保育科に初の男子学生受け入れ
平成 17	10	平成17年度卒業生から「短期大学士」の学位を授与
平成 18	4	山本伸晴、第7代学長に就任

（『創立二十年誌』・『創立40周年誌』参照）

（2）短期大学の所在地、位置（市・区・町・村の全体図）、周囲の状況（産業、人口等）等。

所在地：静岡県静岡市葵区瀬名二丁目2番1号

周囲の状況：静岡市は、平成17年4月、全国14番目の政令都市となったところであり、首都圏と中京圏のほぼ中間、また、静岡県の中央にあり、政治、経済、情報、文化等の中核管理機能の集中した都市である。人口は約72万人で、産業面から見ると商業都市であり、貿易港でもある清水港を擁する等、駿河湾工業地帯の中心ともなっている。校舎は、静岡市葵区瀬名二丁目の位置にあり、JR静岡駅からは7km、また、JR草薙駅からは3.5kmで、今は住宅街となっている地区に立地している。



交通：J R 静岡駅・新静岡センターからバス約 25 分

J R 草薙駅・静鉄草薙駅からバス約 15 分

(3) 法人理事長、学長の氏名、連絡先及びその略歴、A L Oの氏名、連絡先及びその略歴。
なお、連絡先としては、T E L、F A X、E - M a i l 等を記載して下さい。

【法人理事長】

氏 名 木宮 健二(きみや けんじ)
 連絡先 〒420-0911 静岡県静岡市葵区瀬名一丁目 22 番 1 号
 Tel 054-261-1356 Fax 054-261-5601
 略 歴 昭和 25 年 9 月 18 日生まれ
 京都大学大学院 (農学博士)
 静岡大学農学部 助手 (昭和 54 年 6 月)
 同 教授 (平成 4 年 4 月～平成 14 年 3 月)
 学校法人常葉学園 理事長 (平成 14 年 4 月～現在に至る)
 静岡県農山漁村男女共同参画推進委員会委員長 (平成 13 年 4 月～)
 静岡県私学協会 理事 (平成 14 年 4 月～)

【学 長】

氏 名 山本 伸晴(やまもと のぶはる)
 連絡先 〒420-0911 静岡県静岡市葵区瀬名二丁目 2 番 1 号
 Tel 054-261-1313 Fax 054-263-4818
 E mail yamamoto@tokoha-jc.ac.jp
 略 歴 昭和 23 年 11 月 15 日生まれ
 東洋大学大学院 (社会学修士)
 常葉女子短期大学 専任講師 (昭和 49 年 4 月)
 常葉学園短期大学 学長 (平成 18 年 4 月～)
 第 24 期静岡県青少年問題協議会副会長
 静岡市保健福祉介護総合政策懇話会会长

【 A L O 】

氏名 尾崎 富義(おざき とみよし)
 連絡先 〒420-0911 静岡県静岡市葵区瀬名二丁目2番1号
 Tel 054-261-1313 Fax 054-263-4818
 E mail ozaki@tokoha-jc.ac.jp
 略歴 昭和22年5月5日生まれ
 国学院大学大学院(文学修士)
 常葉女子短期大学 専任講師(昭和51年4月)
 常葉学園短期大学 副学長(平成18年4月~)

(4) 平成13年度から19年度までの学科・専攻ごとの入学定員、収容定員、在籍者数、定員充足率を作成して下さい。廃止、募集停止等の学科を含む該当する期間内に設置されたすべての学科について作成して下さい。なお、在籍者数は毎年度5月1日時点とします。

平成13年度～19年度の設置学科・入学定員数 (毎年度5月1日時点)

学科名・専攻名	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	備考
日本語 日本文学科 (国語国文科)	入学定員	110	110	110	80	80	80	13年度 名称変更
	収容定員	220	220	220	160	160	160	
	在籍者数	227	160	156	166	160	155	
	充足率(%)	103%	73%	71%	104%	100%	97%	
英語英文科	入学定員	100	100	100	80	80	80	
	収容定員	200	200	200	160	160	160	
	在籍者数	243	196	210	198	175	164	148
	充足率(%)	122%	98%	105%	124%	109%	103%	93%
保育科	入学定員	150	150	150	200	200	200	
	収容定員	300	300	300	400	400	400	
	在籍者数	405	402	414	465	506	469	448
	充足率(%)	135%	134%	138%	116%	127%	117%	112%
音楽科	入学定員	55	55	55	55	55	55	
	収容定員	110	110	110	110	110	110	
	在籍者数	101	113	105	99	98	96	105
	充足率(%)	92%	103%	95%	90%	89%	87%	95%
美術・ デザイン科	入学定員	80	募集停止					
	収容定員	160	80					
	在籍者数	129	59					
	充足率(%)	81%	74%					

専攻科 学科名		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	備考
国語国文専攻	入学定員	20	20	20	20	20	20	20	
	収容定員	40	40	40	40	40	40	40	
	在籍者数	15	16	13	11	10	12	11	
	充足率(%)	38%	40%	33%	28%	25%	30%	28%	
保育専攻	入学定員	20	20	20	20	20	20	20	
	収容定員	40	40	40	40	40	40	40	
	在籍者数	17	20	32	28	23	27	29	
	充足率(%)	43%	50%	80%	70%	58%	68%	73%	
音楽専攻	入学定員	20	20	20	20	20	20	20	
	収容定員	40	40	40	40	40	40	40	
	在籍者数	35	38	52	53	34	38	44	
	充足率(%)	88%	95%	130%	133%	85%	95%	110%	
美術・デザイン専攻	入学定員	20	20	募集停止					
	収容定員	40	40	20					
	在籍者数	36	43	18					
	充足率(%)	90%	108%	90%					

「学科・専攻」欄には7年間に設置された学科・専攻をすべて記載し、設置以前の年度については、入学定員以下は空欄として下さい。

7年間のうちに学科・専攻の名称変更を行ったことのある場合は、最新の学科名で記載し、直下の()に旧学科名を記載して下さい。

募集停止を行った学科・専攻は、募集を停止した年度の入学定員欄に「募集停止」と記載して下さい。

新たに学科を新設した場合は、募集年度の入学定員欄に「新設」と記載して下さい。

(5) 平成16年度～18年度に入学した学生の出身地別人数及び割合(10程度の区分)を毎年 度5月1日時点で作成して下さい。なお、短期大学の実態に沿って地域を区分して下さい。

出身地別学生数(平成16年度～18年度) (毎年度5月1日時点)

地域	平成16年度		平成17年度		平成18年度	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
静岡	460	96.2	454	97.8	411	96.7
宮城	1	0.2	1	0.2	0	0.0
東京	1	0.2	0	0.0	0	0.0
神奈川	0	0.0	0	0.0	1	0.2
千葉	1	0.2	0	0.0	0	0.0
茨城	1	0.2	0	0.0	0	0.0
山梨	2	0.4	1	0.2	5	1.2
長野	1	0.2	1	0.2	2	0.5
愛知	4	0.8	4	0.9	0	0.0
岐阜	1	0.2	1	0.2	1	0.2
福岡	0	0.0	1	0.2	0	0.0
その他	6	1.3	1	0.2	5	1.2
合計	478	100	464	100	425	100

(6) 法人が設置する他の教育機関の所在地、入学定員、収容定員とそれぞれの在籍者数を平成 19 年 5 月 1 日時点で作成して下さい。

法人が設置する他の教育機関の現状

(平成 19 年 5 月 1 日現在)

教育機関名	所在地	入学定員 (人)	収容定員 (人)	在籍者数 (人)
常葉学園大学	静岡市葵区瀬名一丁目 22 番 1 号	480	1,920	2,135
浜松大学	浜松市北区都田町 1230 番地	550	2,200	1,929
富士常葉大学	富士市大渕 325	380	1,520	1,360
常葉学園医療専門学校	浜松市北区都田町 1490 番地	200	800	489
常葉学園静岡 リハビリテーション専門学校	静岡市葵区鷹匠三丁目 7 番 23 号	80	240	233
常葉学園中・高等学校	静岡市葵区水落町 1 番 30 号	320	960	739
常葉学園橋中・高等学校	静岡市葵区瀬名二丁目 1 番 1 号	600	1,800	1,320
常葉学園菊川中・高等学校	菊川市半済 1550	435	1,305	1,201
常葉学園大学教育学部附属 橋小学校	静岡市葵区瀬名一丁目 22 番 1 号	60	360	378
常葉学園短期大学附属 とこは幼稚園	静岡市葵区北安東五丁目 34 番 9 号	80	240	239
常葉学園短期大学附属 たしばな幼稚園	静岡市葵区瀬名中央三丁目 18 番 1 号	80	240	251

《 建学の精神・教育理念・教育目的・教育目標》の記述及び資料等について

【建学の精神、教育理念について】

(1) 建学の精神・教育理念を記述し、その意味するところ及び建学の精神・教育理念が生まれた事情や背景をできるだけ簡潔に記述して下さい。

本学は概要で既に述べたとおり、常葉学園として初めての大学である。創立者木宮泰彦が昭和 21 年に常葉学園を創立した時、「戦後の混沌とした日本を再び立ち上がらしめ、光輝ある平和な文化国家を建設するためには、先ず教育の力にまたなければならない」とのゆるぎない信念のもとに、敢えて困難をも顧みず常葉学園の創設に尽力した。この「教育の力」に対する創立者の信頼と確信が、常葉学園に共通した建学の精神の根本である。

昭和 41 年に常葉女子短期大学として創立され、その後、昭和 53 年 4 月に常葉学園短期大学と名称を変更したが、創立 40 周年を迎えた現在も建学の精神は脈々と継承されている。

本学の教育理念は「人間教育」にある。「美しい心情を持って、国家・社会・隣人を愛し、堅固な意志と健康な身体を持っていかなる苦難にも打ち克ち、より高きを目指して学び続ける人間」を育成することが目標である。具体的には、授業はもとより、学園・大学行事やクラブ活動等さまざまな場面で「人間の交際」(社会) 性を高めるように育成している。平成 16 年には、ライフデザインという考え方を全学共通の目標とし、従来の就職進路指導室をライフデザインセンターと名称を変更した。短期大学の 2 年 (専攻科を含めて 4 年) を点としてとらえるのではなく、長い人生の中のこの 2 年間を生涯という線の中でとらえることにしている。就職はその一つの現れであり、より高きを目指してステップアップしていく資質を養成することである。

<添付資料 1 > 「建学の精神」(「ハーモニー、そして豊かな未来へ」 創立 40 周年誌 PP6 ~ 7) 、及び < 添付資料 2 > 「学生生活ハンドブック」 (PP5 ~ 6) 参照

(2) 現在は建学の精神・教育理念をどのような形や方法で学生や教職員に知らせているかを記述して下さい。

建学の精神、教育理念は本学園、短期大学が発行する刊行物（入学時に配布する『ここは物語』）や冊子等には必ず掲載している。特に「学生生活ハンドブック」（PP5～6）には必ず記載され、学生教職員ともにいつでも読める状態になっている。また2年間の中で、入学式、フレッシュマン・キャンプ（入学当初、新入生を対象とする2泊3日の研修）、創立記念日式典、之山忌（しざんき・創立者の忌日）式典、卒業式等において周知する体制をとっている。また各科のガイダンス等においては、さらにそれぞれの科の教育目標と併せて周知する機会を設けている。

【教育目的、教育目標について】

(1) 多くの短期大学が複数の学科・専攻（専攻科を含む。以下「学科等」という。）を設置しています。その場合、それぞれの学科等では建学の精神や教育理念から導き出された、より具体的な教育目的や教育目標を掲げているものと思います。（例えば、学科・専攻の設置認可の際に「設置の趣旨」等で示されたもの等）。ここではそれぞれの学科等が設定している具体的な教育目的や教育目標を記述して下さい。

1) 日本語日本文学科

本学科では教育の基本理念を「自主独行」とし、学生の自発的な学習意欲が醸し出される環境を作り上げることに目標を置いている。学習を通じて、「学ぶ楽しさ」「学ぶ面白さ」を発見しつつ、そこから得られる一人一人のものの見方がより確固たるものになるようしている。学生がそれぞれの人生設計と夢を持ち、その実現への道を歩みだせるヒントを見つけることができる学習成果全体を具現するために、卒業研究を必修科目として設け、論文作成の過程で自己発見するように助言している。さらに、豊かな人生を享受するために日本のよき伝統や文化を学ぶカリキュラムも構築している。

2) 英語英文科

本学科では、建学の精神に基づき、より良き自己実現を目指し学び続ける人間を創るために、「英語でライフデザイン」を教育目的の基本としている。この基本目的は「コミュニケーションの手段としての英語を学習し、さらに英語と密接に結びついた文化や文芸を学ぶことにより、将来の職業選択や生き方に関するライフデザインができる」と定義付け、さらに2つの目標として「国際性」及び「コミュニケーション能力」の育成も掲げている。

教育課程においては、卒業後に留学や進学などを通じキャリアアップを目指す群、子どもへの早期英語教育にかかる基礎知識や技能を学習する群、観光関連の職種を含む多様な就職に役立つ研修や学習をする群の3つの選択科目群を立て、学生のライフデザイン力を養うための方向付けとしている。

3) 保育科

本学園の理想とする「人間教育」（6P【建学の精神、教育理念について】参照）を基盤として、保育科としては以下のようない力をもった学生を育て社会に送り出すことを目標としている。

- ・保育に情熱を抱き、子ども観、保育觀がもてる学生

- ・柔軟性があり、感性が豊かな学生
- ・知識と知恵の両方をもつ学生

4) 音楽科

本学科は音楽の専門教育はもとより、幅広い教養教育や総合的な人間教育に力を注ぎ、知的感性を養うことを教育目的・教育目標とする。音楽の学習をとおして豊かな人間性を養うこと、さらに実社会にも役立つ人材を育成することを目標とする。その実現のために演奏コース 専門コース 総合音楽コースを設定している。

5) 専攻科

国語国文専攻は、国語と国文学及び文化全般にわたる学問を教授し、専門分野における高度な能力を養うとともに、人間性豊かな女性を育成することを目的としている。保育専攻は、広い視野と高い見識を備え、子どもの保育・教育だけではなく、保護者の保育をも援助できる保育者の養成、及び後継者教育を目標としている。音楽専攻は、深い総合的な知識の修得と演奏表現技法をより一層向上させ、より豊かな音楽体験をとおして情緒ある人間性を育み、社会の中で音楽教育及び実技指導のできる人材育成を目指している(以上、各科・各専攻の教育理念については、「学生生活ハンドブック」PP7～16 参照)。

(2) それぞれの学科等の教育目的や教育目標を、現在はどのような方法で学生や教職員に周知しているかを記述して下さい。

全学共通の方法として、まず刊行物では「学生生活ハンドブック」「専攻科ガイド」「大学案内」「シトラス短大通信」がある。口頭による機会としては、入学ガイダンスの他、建学の精神・理念を実践的に学習するために開設された総合セミナー（教養教育の必修科目、31P「総合セミナー」参照）のうち特にフレッシュマン・キャンプ、研修センターゼミ（学園研修センターにて2月～3月に、1年生を対象に行う1泊2日のゼミ。「学生生活ハンドブック」8P 参照）等で周知徹底している。

1) 日本語日本文学科

入学時に行われる一連のガイダンスのみでなく、随時刊行する情報紙（「日文ニュース」）を用いて、授業、教員、行事などの紹介を伝える。本ニュースでは科の理念のみでなく、教育内容のさまざまな疑問を汲み取って説明を行うとともに、資格の取得方法、就職成果、卒業生の活躍についても知らせる。また、科に併設される日本語日本文学会の会誌・会報で学生の現在の活動、及び学習成果を卒業生、県内高校や全国大学に公表している。

2) 英語英文科

年度当初に学科長から学生に説明する。特に新入生には、入学当初のフレッシュマン・キャンプで講話の時間を設け周知に努める。学科所属の全専任教員から成る科内会議で毎年必要な見直しを行っている。

3) 保育科

入学当初のフレッシュマン・キャンプで説明したり、また「学生生活ハンドブック」に明記し、いつでも確認できる方法をとっている。さらに実習に出かける折にも、各教員が具体的な内容を示しながら、保育科生としての姿勢を啓発している。

4) 音楽科

学生に対しては、各学期ごとに、専攻別主任から目的・目標を徹底指導する。また、入学当初のフレッシュマン・キャンプや「スチューデントタイム」において周知徹底してい

る。教員には年度始めの「非常勤講師会」で、科長や専攻科主任から教育目的・教育目標を提示し、周知徹底を図っている。

5) 専攻科

各専攻とも、学生に対しては学士コースガイダンス・各科のガイダンスにおいて、学長講話・科長講話・主任講話・担任講話をとおして周知するように努めている。

【定期的な点検等について】

- (1) 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検が、定期的に行われている場合はその概要を記述して下さい。また点検を行う組織、手続き等についても記述して下さい。

建学の精神そのものについては先に述べたように全学園に共通するものであり、短期大学として個別に見直すことはしていない。教育目的も同様であるが、教育目標については各科のカリキュラム改定と連動して見直しを行うことがある。本学では短大運営協議会(117P 参照)を設置し、年度始めに当該年度の課題と目標をそれぞれのセクションから提起し、年度末にはその達成度について点検評価を行っている。また教授会の一週間前に開催する科長会でも不定期ながら議題にあげている。

- (2) 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検及びそれらを学生や教職員に周知する施策等の実施について、理事会または短期大学教授会がどのように関与しているかを記述して下さい。

学園全体にかかわることは理事会が決定する。短期大学の教育目的・目標については教授会に委ねられており、各科で審議されたものが科長会に報告され、さらに審議を経て教授会で審議する方法をとっている。

<添付資料2> 「教育理念、教育目的・教育目標について」(「学生生活ハンドブック」(PP7 ~16) 参照

【特記事項について】

- (1) この《 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標について努力していることがあれば記述して下さい。また短期大学で独自の使い方や別の語句を使っている場合はその旨記述して下さい。

特になし。

《 教育の内容》の記述及び資料等について

【教育課程について】

- (1) 学科等の現在の教育課程を表にして作成して下さい。なお学科等に複数の履修コースを設定し、学生に別の教育課程表として提示している場合はコースごとに記載して下さい。平成19年度に学科改組等を行った場合は、平成18年度の教育課程表を別途作成し、巻末に綴じて下さい。

日本語日本文学科 教育課程

(平成 19 年 5 月 1 日現在)

科目的種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
教養教育科目	総合セミナー				2						79 (2)	
	哲学と人生					2					49 (2)	
	文学と人間					2					50 (1)	
	行動と心理					2					51 (2)	
	現代社会と教育					2					17 (1)	
	芸術と人間					2					22 (1)	
	歴史と人間					2					19 (2)	
	社会環境と人間					2					37 (2)	
	社会参加と活動					2					9 (1)	
	職業と人生					2					58 (1)	
	現代社会と経済					2					17 (2)	
	日本の憲法					2					19 (1)	
	数学の世界					2					15 (2)	
	科学と文明					2					1 (1)	
	地球と環境					2					31 (1)	
	情報リテラシー					2					31 (2)	
	情報とコンピュータ					1					55 (1)	
	情報とコンピュータ					1					33 (1)	
	運動と健康					2					29 (1)	
	スポーツA					1					33 (1)	
	スポーツB					1					16 (2)	
	英語圏の文化と言葉A					2					25 (2)	
	英語圏の文化と言葉B					2					14 (2)	
	フランスの文化と言葉					2					0 (1)	
	フランスの文化と言葉					2					3 (1)	
	ドイツの文化と言葉					2					8 (1)	
	ドイツの文化と言葉					2					0 (1)	
	イタリアの文化と言葉					2					2 (1)	
	イタリアの文化と言葉					2						
	中国の文化と言葉					2					20 (1)	
	ブラジルの文化と言葉					2						
専門教育科目	卒業研究					2					79 (6)	
	現代文書A					1						
	現代文書B					1						
	日本文学概説					2					74 (1)	
	日本文学基礎演習					2					76 (5)	
	歌謡と詩歌					2					22 (1)	
	作家と時代					2					53 (1)	
	日本文学と世界					2					37 (1)	
	日本文学演習					2					21 (2)	
	漢文学					2					20 (1)	
	書道					2					34 (1)	
	日本語概説					2					72 (1)	
	日本文学史					2					27 (1)	
	シナリオと戯曲					2					59 (1)	
	創作の心理					2					45 (1)	
	文芸創作演習					2					11 (1)	
	文章と文体					2					50 (1)	
	インターネットとホームページ					2					29 (1)	
	メディア制作					2					49 (1)	
	映像と文化					2					69 (1)	
	絵本を作る					2					50 (1)	
	絵本の世界					2					49 (1)	
	言葉の発達					2					62 (1)	
	言葉遊び					2					68 (1)	
	読み聞かせ					2					47 (1)	
	言葉のきまり					2					42 (1)	
	子供と文字					2					45 (1)	
	子供の心理					2					44 (1)	
	児童文学					2					68 (1)	
	アナウンス入門					2					35 (1)	

科目的種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
専門教育科目	ルポルタージュ入門				2						26 (1)	
	言葉と生活				2						77 (1)	
	話す技術				2						49 (1)	
	異文化と言葉				2							
	福祉と言葉				2							
	比較文化				2						43 (1)	
	報道と言葉				2						59 (1)	
	プレゼンテーション論				2						37 (1)	
	プレゼンテーション演習				2						40 (1)	
	プレゼンテーション演習				2						20 (1)	
	情報機器利用によるプレゼンテーション演習				2						23 (1)	
	コミュニケーション論				2						39 (1)	
	データベース演習				2						39 (1)	
	ビジネス文書実務				2						54 (1)	
	情報概論				2						49 (1)	
	ライフデザイン研究				2							
	日本語表現法				2						63	
	接遇とマナー				2							
	インターンシップ				1						10 (1)	
	インターンシップ				1						4 (1)	
	きものと文化				2						11 (1)	
	食と文化				2							
	芸能と文化				2						57 (1)	
	書を楽しむ				2						9 (1)	
	言語学特講				2						60 (1)	
	日本語教育				2						19 (1)	
	日本語教育				2						5 (1)	
	日本語教育演習				2						2 (1)	
	国語科教育法				2						6 (1)	
	総合基礎講座				1						0 (1)	
	ワークショップA				1						79 (1)	
	ワークショップB				1						79 (1)	
	日本語会話				2						0 (1)	
	日本語基礎演習A				2						0 (1)	
	日本語基礎演習B				2						0 (1)	
	日本語能力				2						1 (1)	
	日本文化				2						1 (1)	

- (注) 1. 実習には実験、実技を含みます。
 2. 履修人員欄の括弧書き数字は、履修人員を幾つのクラスに分けているかを示します。
 3. 履修人員には、他学科生及び専攻科学生を含みます。
 4. は平成 19 年度開講しないことを示します。

英語英文科 教育課程

(平成 19 年 5 月 1 日現在)

科目的種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
教養教育科目	総合セミナー				2						81 (3)	
	哲学と人生				2						39 (2)	
	文学と人間				2						4 (1)	
	行動と心理				2						38 (2)	
	現代社会と教育				2						30 (1)	
	芸術と人間				2						13 (1)	
	歴史と人間				2						8 (2)	
	社会環境と人間				2						13 (2)	
	社会参加と活動				2						3 (1)	
	職業と人生				2						50 (1)	
	現代社会と経済				2						20 (2)	
	日本の憲法				2						24 (1)	
	数学の世界				2						4 (2)	
	科学と文明				2						5 (1)	
	地球と環境				2						13 (1)	

科目的種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
教養教育科目	情報リテラシー				2						35 (2)	
	情報とコンピュータ				1						58 (2)	
	情報とコンピュータ				1						42 (2)	
	運動と健康				2						41 (1)	
	スポーツA				1						64 (2)	
	スポーツB				1						25 (1)	
	英語圏の文化と言葉A				2						70 (2)	
	英語圏の文化と言葉B				2						12 (1)	
	フランスの文化と言葉				2						9 (1)	
	フランスの文化と言葉				2						6 (1)	
	ドイツの文化と言葉				2						14 (2)	
	ドイツの文化と言葉				2						11 (1)	
	イタリアの文化と言葉				2						1 (1)	
	イタリアの文化と言葉				2							
	中国の文化と言葉				2							
	ブラジルの文化と言葉				2						0 (2)	
専門教育科目	オーラルコミュニケーションA				1							
	オーラルコミュニケーションB				1							
	オーラルコミュニケーション C				1							
	オーラルコミュニケーション D	注1			1							
	アクティブコミュニケーションA				1						74 (5)	
	アクティブコミュニケーションB				1						74 (5)	
	アクティブコミュニケーション C				1							
	アクティブコミュニケーション D				1							
	リフレッシュ英語 A				1							
	リフレッシュ英語 B				1							
	カレッジ英語 A				1						73 (3)	
	カレッジ英語 B				1						74 (3)	
	ライフデザインセミナーA				1							
	ライフデザインセミナーB				1							
	研究セミナー				1						73 (5)	
	卒業研究				2						55 (5)	
	観光外国語 A				1							
	観光外国語 B				1							
	観光外国語 C				1							
	観光外国語 D				1							
	エアライン英語 A				1							
	エアライン英語 B				1							
	ツーリズム入門				2							
	ビジネス文書実務				2						36 (1)	
	エアラインビジネス論				2							
	地域観光研究				1							
	ホスピタリティ入門				1							
	ホテルサービス基礎実務				1							
	エアサービス基礎実務				1							
	接遇サービス				1						41 (1)	
	接遇実務実習				1							
	空港フィールドワーク				1							
	インターンシップ				1							
	ツアーコンダクター研修				1							
	子ども英語 A				2							
	子ども英語 B				2							
	キッズイングリッシュ A				2							
	キッズイングリッシュ B				2							
	早期英語教育事情				2						14 (1)	
	キッズコミュニケーション論				2							
	子ども言語概論				2							
	英語あそびワークショップ				1							
	ピアノと歌				2							
	ピアノと歌				2							
	子ども英語研修				1							
	音楽あそび				2						12 (2)	
	絵あそび				2						8 (3)	

科目的種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門教育科目	体育あそび					2					9 (3)	
	留学英語 A					1						
	留学英語 B					1						
	キャリアアップ英語 A					1						
	キャリアアップ英語 B					1						
	ライセンス英語 A					1						
	ライセンス英語 B					1						
	ライセンス英語 C					1						
	ライセンス英語 D					1						
	語学キャンプ					1						
	英語圏事情					1					37 (1)	
	海外語学研修					2						
	英語ボランティア活動					1						
	海外長期留学 A					3						
	海外長期留学 B					3						
	海外長期留学 C					6						
	Eメールダイアリー					1						
	Eメールレター					1						
	Eメールストーリー					1						
	ライフイングリッシュ A					2						
	ライフイングリッシュ B					2						
	ライフイングリッシュ C					2						
	ライフイングリッシュ D					2						
	英語学 A					2						
	英語学 B					2						
	英米文学					2						
	語源学					2						
	異文化コミュニケーション					2					54 (2)	
	英語科教育法入門					1						
	英語科教育法					2					3 (1)	
	比較文化					2					48 (1)	
	プレゼンテーション論					2					5 (1)	
	コミュニケーション論					2					18 (1)	
	アナウンス入門					2					22 (1)	
	日本語表現法					2					18 (2)	
	コンピュータ・スキル					2					21 (2)	
	コンピュータ・スキル					2					8 (2)	
	総合基礎講座					1					0 (1)	
	英語資格A					2					79 (1)	
	英語資格B					2					82 (1)	
	実務英語資格					1					69 (1)	
	一般実務資格					1					70 (1)	

11P の(注)に同じ。

注1「オーラルコミュニケーションC」「オーラルコミュニケーションD」のうち、いずれか1単位必修。英語英文科は平成19年度に大幅な科目変更を行った。「前年度の履修人員」欄に「」が多いのはそのためである。参考までに巻末に平成18年度の「教育課程表」を添付する。

保育科 教育課程

(平成19年5月1日現在)

科目的種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
教養教育科目	総合セミナー				2						239 (6)	
	哲学と人生				2						5 (2)	
	文学と人間				2						0 (1)	
	行動と心理				2						129 (1)	
	現代社会と教育				2						8 (2)	
	芸術と人間				2						8 (1)	
	歴史と人間				2						0 (1)	
	社会環境と人間				2						1 (2)	
	社会参加と活動				2						16 (1)	
	職業と人生				2						0 (1)	

科目的種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
教養教育科目	現代社会と経済					2					2 (1)	
	日本の憲法					2					234 (3)	
	数学の世界					2					66 (2)	
	科学と文明					2					53 (1)	
	地球と環境					2					11 (1)	
	情報リテラシー					2					99 (1)	
	情報とコンピュータ					1					225 (4)	
	情報とコンピュータ					1					227 (4)	
	運動と健康					2					238 (3)	
	スポーツA					1					226 (4)	
	スポーツB					1					110 (2)	
	英語圏の文化と言葉A					2					178 (4)	
	英語圏の文化と言葉B					2					8 (1)	
	フランスの文化と言葉					2						
	フランスの文化と言葉					2						
	ドイツの文化と言葉					2					9 (1)	
	ドイツの文化と言葉					2					0 (1)	
	イタリアの文化と言葉					2						
	イタリアの文化と言葉					2						
	中国の文化と言葉					2						
	ブラジルの文化と言葉					2					44 (2)	
専門教育科目	保育原理				4						228 (2)	
	保育と実践					2					215 (2)	
	養護原理					2					228 (2)	
	発達心理学					2					227 (2)	
	小児保健					4					228 (2)	
	精神保健					2					227 (1)	
	小児栄養					2					238 (6)	
	音楽					2					248 (8)	
	音楽と子ども					2					139 (3)	
	ピアノ技法					2					228 (24)	
	器楽					2					231 (24)	
	図画工作					2					247 (8)	
	子どもの造形					2					14 (3)	
	体育					2					240 (8)	
	子どもの運動あそび					2					153 (3)	
	国語					2					0 (1)	
	生活					2					22 (1)	
	児童文化演習					2					123 (2)	
	社会福祉				2						229 (2)	
	社会福祉援助技術					2					237 (6)	
	児童福祉					2					230 (3)	
	福祉政策と子ども					2					70 (2)	
	遊びと子どもの発達					2					40 (2)	
	年齢と子どもの発達					2					70 (2)	
	カウンセリング					2					265 (6)	
	小児保健実習					1					238 (3)	
	子どもの家庭と暮らし					2					53 (1)	
	家族援助論					2					238 (3)	
	養護内容					1					229 (4)	
	障害児保育					1					229 (4)	
	乳児保育					2					228 (4)	
	保育実習					5					239 (1)	
	保育実習					2					192 (1)	
	保育実習					2					46 (1)	
	保育総合演習					2					246 (12)	
	現代教職概論					2					262 (3)	
	教育原理					2					268 (3)	
	教育心理学					2					246 (3)	
	保育課程総論					2					245 (2)	
	教育実習					5					262 (1)	
	道徳教育					2						
	保育内容研究 (健康)					1					264 (3)	

科目的種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門教育科目	保育内容研究(人間関係)					1					267 (4)	
	保育内容研究(環境)					1					264 (4)	
	保育内容研究(ことは)					1					245 (5)	
	保育内容研究(表現)					2					247 (8)	
	保育内容研究(表現)					2					264 (6)	
	保育方法論					2					245 (2)	
	保育ゼミナール					2					79 (10)	
	子ども総合科学概論				2						232 (1)	
	健康科学論					2					4 (1)	
	子育て支援の理解と実際					2					4 (1)	
	保育者のための調査法					2						
	倉橋惣三論					2						
	こころの基礎実験					1						
	パーソナリティ検査法					2						
	モンテッソーリ教育概論					2					19 (1)	
	モンテッソーリ・メソード					1					23 (1)	
	モンテッソーリ・メソード					1					13 (1)	
	レクリエーション論					2					45 (1)	
	レクリエーション援助法					1					62 (1)	
	子どものフィールドワーク					1					61 (1)	
	地域福祉論					2					19 (1)	
	児童館の機能と運営					2					19 (1)	

11P の(注)に同じ。

音楽科 教育課程

(平成19年5月1日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
教養教育科目	総合セミナー				2						42 (2)	
	哲学と人生				2						6 (2)	
	文学と人間				2						1 (1)	
	行動と心理				2						14 (1)	
	現代社会と教育				2						9 (1)	
	芸術と人間				2						8 (1)	
	歴史と人間				2						5 (1)	
	社会環境と人間				2						9 (1)	
	社会参加と活動				2						14 (1)	
	職業と人生				2						11 (1)	
	現代社会と経済				2						5 (1)	
	日本の憲法				2						15 (1)	
	数学の世界				2						0 (1)	
	科学と文明				2						0 (1)	
	地球と環境				2						5 (2)	
	情報リテラシー				2						21 (2)	
	情報とコンピュータ				1						37 (1)	
	情報とコンピュータ				1						28 (1)	
	運動と健康				2						13 (1)	
	スポーツA				1						26 (1)	
	スポーツB				1						26 (2)	
	英語圏の文化と言葉A				2						37 (2)	
	英語圏の文化と言葉B				2						8 (1)	
	フランスの文化と言葉				2						9 (1)	
	フランスの文化と言葉				2						0 (1)	
	ドイツの文化と言葉				2						13 (1)	
	ドイツの文化と言葉				2						2 (1)	
	イタリアの文化と言葉				2						22 (1)	
	イタリアの文化と言葉				2						18 (1)	
	中国の文化と言葉				2							
	ブラジルの文化と言葉				2							

注1

科目的種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門教育科目	音楽理論A				2						52 (2)	
	音楽理論B				2						53 (2)	
	和声学A				2						52 (2)	
	和声学B				2						53 (2)	
	和声学C					2					17 (1)	
	和声学D					2					16 (1)	
	音楽史A					2					53 (1)	
	音楽史B					2					53 (1)	
	音楽史C(ポピュラー史含む)					2					17 (1)	
	民族・日本音楽概説					2					37 (1)	
	合唱A					2					44 (1)	
	合唱B					2					9 (1)	
	ソルフェ - ジュA				1						52 (4)	
	ソルフェ - ジュB				1						54 (4)	
	ソルフェ - ジュC					1					28 (4)	
	ソルフェ - ジュD					1					27 (4)	
	グレード準備講座A					1					19 (2)	
	グレード準備講座B					1					20 (2)	
	グレード準備講座C					1					11 (2)	
	グレード準備講座D					1					11 (2)	
	論文作成法					2					46 (1)	
	作品演奏研究論文A					1					36 (2)	
	作品演奏研究論文B					1					36 (2)	
	アンサンブル演習A					2					50 (8)	
	アンサンブル演習B					2					42 (10)	
	音楽実践A					2					53 (4)	
	音楽実践B					2					42 (4)	
	演奏会演習A					2					14 (1)	
	演奏会演習B					2					10 (1)	
	早期音楽教育法					3					15 (1)	
	リトミック					2					22 (1)	
	音楽科教育法					2					11 (1)	
	指揮法A					1					30 (1)	
	指揮法B					1					11 (1)	
	作曲・編曲法A					1					31 (1)	
	作曲・編曲法B					1					16 (1)	
	伴奏法A(弾き語り含む)					1					30 (1)	
	伴奏法B(即興演奏法含む)					1					27 (1)	
	器楽合奏					2					29 (1)	
	音楽心理学					2					6 (1)	
	音楽療法概論					1					11 (1)	
	音楽療法各論(基礎)					1					11 (1)	
	音楽療法各論(技法)					2					11 (1)	
	音楽療法各論(臨床)					2					6 (1)	
	音楽療法総合演習					2					6 (1)	
	教育方法論					1					10 (1)	
	教育相談					2					24 (1)	
	教育学概論					2					33 (1)	
	社会福祉(児童福祉含む)					2					8 (1)	
	保育課程総論					2					5 (1)	
	保育原理					4					5 (1)	
	レクリエーション援助法					1					8 (1)	
	ホームヘルプサービス論					2					8 (1)	
	介護概論					1					8 (1)	
	介護技術					2					8 (1)	
	医学概論					2					8 (1)	
	精神保健(幼児・成人・老人・障害者含む)					2					8 (1)	
	障害学・リハビリテーション論					2					8 (1)	
	発達心理学					2					13 (1)	
	カウンセリング					2					0 (1)	
	体験実習事前・事後指導					1					8 (1)	
	施設介護体験実習					1					8 (1)	
	音楽療法体験実習					2					6 (1)	

科目的種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
専門教育科目	声楽A				2						8 (9)	
	声楽B				2						8 (9)	
	声楽C				2						9 (8)	
	声楽D				2						9 (8)	
	器楽A				2						52 (18)	
	器楽B				2						52 (18)	
	器楽C				2						33 (18)	
	器楽D				2						33 (17)	
	作品制作A				2							
	作品制作B				2							
	作品制作C				2							
	作品制作D				2							
	基礎声楽A				1						30 (9)	
	基礎声楽B				1						30 (9)	
	基礎声楽C				1						22 (11)	
	基礎声楽D				1						22 (11)	
基礎教育科目	基礎器楽A				1						36 (11)	
	基礎器楽B				1						36 (11)	
	基礎器楽C				1						25 (8)	
	基礎器楽D				1						25 (11)	
	基礎電子オルガンA				1						6 (1)	
	基礎電子オルガンB				1						6 (1)	

11P の(注)に同じ。

注1.「英語圏の文化と言葉A」~「イタリアの文化と言葉」のうち2単位以上必修。

注2.「声楽A」~「作品制作D」のうち8単位以上必修。

注3.「基礎声楽A」~「基礎電子オルガンB」のうち2単位以上必修。

教職に関する科目（二種）

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
教職課程	教師論				2						25 (1)	
	教育学概論				2						0 (1)	
	教育史				2						6 (1)	
	教育心理学				2						25 (1)	
	国語科教育法				2						0 (1)	
	英語科教育法				2						0 (1)	
	音楽科教育法				2						0 (1)	
	道徳教育				2						19 (1)	
	特別活動				2						19 (1)	
	教育方法論				1						0 (1)	
	視聴覚教育メディア論				1						13 (1)	
	生徒指導				2						25 (1)	
	教育相談				2						0 (1)	
	総合演習				2						19 (1)	
	教育実習				5						20 (1)	

司書に関する科目

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
司書課程	生涯学習概論				2						41 (1)	
	図書館概論				2						41 (1)	
	図書館経営論				1						46 (1)	
	図書館サービス論				2						40 (1)	
	情報サービス概説				2						45 (1)	
	レファレンスサービス演習				1						43 (1)	
	情報検索演習				1						44 (1)	
	図書館資料論				2						41 (1)	
	専門資料論				2						42 (1)	

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
司書課程	資料組織概説				2						40 (1)	
	資料組織演習				2						44 (1)	
	児童サービス論				1						40 (1)	
	図書及び図書館史					2						
	資料特論					1					35 (1)	
	コミュニケーション論					2					0	
	情報機器論					2						
	図書館特論					1					46 (1)	

司書教諭に関する科目

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
司書教諭課程	学校経営と学校図書館				2							隔年開講
	学校図書館とメディアの構成				2							隔年開講
	学習指導と学校図書館				2							隔年開講
	読書と豊かな人間性				2						5 (1)	
	情報メディアの活用				2						3 (1)	

専攻科 国語国文専攻 教育課程

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門科目	日本文学論				4						7 (1)	
	国語表現論				2							
	国語学特論				4						7 (1)	
	国文学演習					2						
	国文学演習					2						
	国文学演習					2						
	言語学演習					2						
	言語情報演習					2						
	国文学講読					4						
	国文学講読					4						
	国語学講読					4						
	漢文学講読					4						
	日本古典芸能論					4						
	情報文化論					4						
	静岡の文化					2						
	言語文化論					4					5 (1)	
	日本文化論					4					6 (1)	
	日本民俗文化論					4					5 (1)	
	日中比較文学論					4					5 (1)	
	文化人類学					4						
	児童文学論					4						
	社会学特論					4						
	国語科教育研究					4						
	修了論文					4					5 (5)	

11P の（注）に同じ。

専攻科 国語国文専攻は平成 19 年度に大幅な科目変更を行った。「前年度の履修人員」欄に「」が多いのはそのためである。参考までに巻末に平成 18 年度の「教育課程表」を添付する。

専攻科 保育専攻 教育課程

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門科目	児童心理学特論					4					32 (1)	
	健康管理学特論					2					11 (1)	
	家庭管理学特論					2					12 (1)	
	社会福祉学特論					2					13 (1)	
	現代女性学					2					16 (1)	

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の 履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門科目	幼児体育演習					2					13 (1)	
	保育学演習					2					11 (1)	
	幼児音楽					2					10 (1)	
	图画工作演習					2					16 (1)	
	児童文化					2					15 (1)	
	音楽理論					2					12 (1)	
	絵画					2					16 (1)	
	教育史概論					2					28 (1)	
	保育学特論				4						11 (1)	
	発達と学習					2					13 (1)	
	幼児教育経営論					2					16 (1)	
	保育臨床学					2					11 (1)	
	臨床心理学特論					2					11 (1)	
	言語心理学					2					11 (1)	
	心理学方法論					4					11 (1)	
	保育内容研究(健康)					2					16 (1)	
	保育内容研究(人間関係)					2					16 (1)	
	保育内容研究(環境)					2					16 (1)	
	保育内容研究(ことば)					2					11 (1)	
	保育内容研究(音楽表現)					2					15 (1)	
	保育内容研究(造形表現)					2					14 (1)	
	保育研究実習				4						12 (1)	
	修了論文				4						16 (7)	

11P の（注）に同じ。

専攻科 音楽専攻 教育課程

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の 履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門科目	作品解釈A				2						24 (1)	
	作品解釈B				2						25 (1)	
	作品解釈C					2					14 (1)	
	作品解釈D					2					13 (1)	
	演奏表現法A				2						24 (1)	
	演奏表現法B				2						24 (1)	
	比較演奏論A				2						23 (1)	
	比較演奏論B					2					23 (1)	
	和声研究A					2					13 (2)	
	和声研究B					2					13 (2)	
	作曲技法A					2					20 (2)	
	作曲技法B					2					20 (2)	
	伴奏研究A				1						24 (1)	
	伴奏研究B				1						24 (1)	
	伴奏研究C					1					8 (1)	
	伴奏研究D					1					8 (1)	
	楽書講読A					2					24 (1)	
	楽書講読B					2					13 (1)	
	イタリア語研究					2					20 (1)	
	英語研究					2					20 (1)	
	コーラスA					2					24 (1)	
	コーラスB					2					14 (1)	
	アンサンブルA				2						24 (7)	
	アンサンブルB				2						14 (7)	
	スペシャルレッスンA					2					24 (1)	
	スペシャルレッスンB					2					14 (1)	
	主科声楽A					3					7 (2)	
	主科声楽B					3					7 (2)	
	主科声楽C					3					4 (3)	
	主科ピアノA					3					9 (10)	
	主科ピアノB					3					9 (10)	
	主科ピアノC					3					8 (7)	
	主科弦楽器A					3					2 (1)	

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の 履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門科目	主科弦楽器B				3						2 (1)	
	主科弦楽器C				3						0	
	主科管楽器A				3						4 (2)	
	主科管楽器B				3						4 (2)	
	主科管楽器C				3						1 (2)	
	主科打楽器A				3						1 (1)	
	主科打楽器B				3						1 (1)	
	主科打楽器C				3						0	
	主科電子オルガンA				3						1 (2)	
	主科電子オルガンB				3						1 (2)	
	主科電子オルガンC				3						1 (2)	
	主科電子楽器A				3						0 (1)	
	主科電子楽器B				3						0 (1)	
	主科電子楽器C				3						0	
	副科声楽A				3						11 (6)	
	副科声楽B				3						11 (6)	
	副科声楽C				3						7 (6)	
	副科声楽D				1						7 (6)	
	副科ピアノA				1						15 (6)	
	副科ピアノB				1						15 (6)	
	副科ピアノC				1						6 (4)	
	副科ピアノD				1						6 (4)	
	副科弦楽器A				1						0	
	副科弦楽器B				1						0	
	副科弦楽器C				1						0	
	副科弦楽器D				1						0	
	副科管楽器A				1						0	
	副科管楽器B				1						0	
	副科管楽器C				1						1 (1)	
	副科管楽器D				1						1 (1)	
	副科打楽器A				1						0	
	副科打楽器B				1						0	
	副科打楽器C				1						0	
	副科打楽器D				1						0	
	学内演奏				4						14 (11)	
	学内演奏論文				2						14 (1)	
	修了演奏				4						0	

11P の（注）に同じ。

教職に関する科目（一種）

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の 履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
教職課程	教育思想史				2							
	発達と学習				2						10 (1)	
	国語科教育研究				4						2 (1)	
	音楽科教育研究				4						8 (1)	
	道徳教育研究				2						9 (1)	
	教育課程の研究				2						9 (1)	
	特別活動研究				2						5 (1)	

音楽療法士に関する科目（一種）

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の 履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
音楽療法士	音楽療法各論（総合）				4						0 (1)	
	音楽療法各論（総合）				4						0 (1)	
	臨床医学特論				2							
	音楽療法体験実習				1						0 (1)	
	音楽療法体験実習				1						0 (1)	

(2) 教養教育の取組み、専門教育の内容、授業形態のバランス、必修・選択のバランス、専任教員の配置等について特に強調したいことがあれば記述して下さい。

本学における教養教育は、専門科目と一体となって専門を生かすための幅広い教養を身につける科目とすることが目標であり、「特色ある人間教育」ということを教養教育の柱に掲げている。科目名も親しみやすい名称にし、時代にあった情報を得るために科目の幅を広げ、バランス良く選択し、物ごとを総合的に判断する能力、生きる知恵と力（本学全体が目標として掲げるライフデザイン力）を身に付けることを目指している。特に建学の精神の実践・学習の場として、記念日式典（創立記念日・之山忌）に伴って行われる地域清掃や映画鑑賞、秋季講演会、芸術鑑賞会、研修センターゼミなどを実施し、これらの参加を2年間通した「総合セミナー」として教養科目に取り入れているのが大きな特徴である。

1) 日本語日本文学科

本学科は元来、教養的要素が強い学科であり、授業内容も文学や日本語だけでなく、その関連領域も含めた幅広い内容を設けている。ただ、教養教育で、より多くの内容が設定できるはずが、実際にはできていないという印象は否めない。文学の背景に歴史・芸術・地理・芸能があり、論理的に考える力の基本に哲学や数学が関連する。それらが充実すれば、学ぶことの経緯がより明確になると期待する。一般教養的授業科目はすべての教科の基本であり、バランスよく配当されていることが望まれる。

専門教育科目については1年次に基礎演習として、下調べ、資料作り、発表といった基礎訓練を行うことに重点を置く。必修の5科目以外はすべて選択科目として設定し、それらをグループ（キャスト）化することで学生の履修組み立ての指標に役立つようにしている。また、学生の関心や社会に出た場合の実学的科目も含め、より柔軟な体系化を目指してカリキュラムの見直しを常時実施している。

2) 英語英文科

卒業要件における教養教育科目からの必要修得単位数を12単位以上とし、専門教育のみに偏らないようにしている。専門教育の内容は、近年、短大教育に求める学生の志向への配慮から、学究的な科目から卒業後の就職等を念頭においた実践・実務的な科目へと移行している。そして、選択科目の一部に「コース」と称する3つの科目群をまとめ、卒業後のライフデザインの方向性を構築できるよう配慮している。専門教育科目は、前年度中にその内容について科内会議で点検・確認を行い、学生のニーズや英語力あるいは受講予定数・科目の特性などに適した授業展開を決める。

授業形態は、学内での授業だけでなく、学外での体験的学習（実地研修）も取り入れてきた。平成19年度導入のカリキュラムでは専門科目（89科目）中、講義28科目、演習61科目である。必修と選択のバランスについては、必修の単位数を8単位とし、選択の幅を広くしている。英語力の基礎を教える必修科目のあり方、科目群としてのコースのあり方など、今後も検討を続ける必要がある。

教員配置では、必修及びコース主要科目等に専任を配し、また、外国人兼任教員が担当する同一科目を複数クラスで開講しているものに対しては、必ず1名の専任がコーディネイトする体制をとっている。なお、全体的には専任教員が「コース主任」として兼任教員担当の科目も統括する役割を担っている。

3) 保育科

資格取得や保育の専門技術の修得が中心となる保育科では、ややもすると教養教育に対する関心が弱くなる傾向にあるが、例えば外国人の多い地域の保育現場を見据えた語学の選択など、保育資格との関連で教養教育の科目群を履修するよう指導している。

専門教育の内容については、保育者に必要な専門内容はおおむねバランスよく配置されている。しかし、授業形態については、演習科目と実技科目の受講者数が適正でないため、平成18年度より1クラス50名以下で実施できるように時間割りの工夫を行った。これからも専門教育のバランスや内容、必修・選択のバランスなどは、保育行政や子どもの成長発達をとりまく環境が大きく変化する現代社会において、常に検討・改善を行う必要があると感じている。

4) 音楽科

本学科では教養教育科目として特に、語学を選択必修としている。音楽を学ぶ上で語学の学習は欠かせない。そこで教養教育としてはドイツ語、イタリア語、フランス語、英語のいずれかを選択必修科目として履修するよう指導している。また、時代のニーズに応じ、コンピュータ関連科目の履修も勧めている。本学科では、声楽、ピアノ、管弦打、電子オルガンなど専門的に勉強することになるが、音楽の基礎となる音楽理論、音楽史、作曲・編曲法、伴奏法は必修としている。バランス面からみると音楽専門科目にかたよっているが、専門性の追求のために不可欠と考える。

<参考資料 -1>「シラバス」(「授業内容ガイドブック」)参照

5) 専攻科

国語国文専攻は、教育目標にあった専門教育の内容になっているが、さらに近年の社会的動向に合わせて、国語学・国文学と各種文化論をバランスよく教授する意図のもとに、平成19年度よりカリキュラムの改訂を行った。授業形態は少人数のため演習的になりやすい傾向があるために1・2年合同の授業を増やすという対策をとることとした。必修・選択のバランスは、必修4科目となるべく少なくして学生の興味に応じた選択ができるように配慮した。専任教員6名全員が専攻科の授業を持っている点が本専攻の特徴と言える。

保育専攻の専門教育の内容は、保育に対する理解を高め、保育者としての資質向上を目指すことを主とし、教育・保育系、心理系、福祉系、表現系、健康系、実習関係と保育者に必要な専門教育内容が配置されている。授業形態は、講義と演習の科目数が2対1であり、バランスは取れている。理論的学習を深めるとともに、実践面の力量を高められるように配慮してある。必修は4科目であり、学生のニーズに応じて自主的に選択できるカリキュラムとなっている。専任教員がほぼ半数の科目を担当し、他を兼任講師が担当している。

音楽専攻の専門教育の内容は、四年制の音楽大学に匹敵するカリキュラムを誇るもので、学位授与機構認定の専攻科として自負できるものである。授業形態は個人レッスンを主とするが、講義とのバランスは問題ない。必修・選択のバランスは専攻によってほとんど必修とならざるを得ない点が問題だが、音楽関係以外の科目を他専攻履修等によって履修し、教養を深めている。専任教員の配置は、ピアノ、管弦打、声楽、作曲、理論と、偏ることなく専任が配置されており、高いレベルを維持している。ただ論文作成・指導に関して、

実技の教員も含めて専任が分担する形になっているが、実技レッスン等の時間的な制約が大きいため、理論系の専任に負担が集中するきらいがある。

<参考資料 - 1>「シラバス」（「専攻科授業内容ガイドブック」）参照

(3) 当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格を示して下さい。また教育課程に関係なく免許・資格等を取得する機会を設けている場合は、その免許・資格名とどのような履修方法であるかを記述して下さい。

1) 日本語日本文学科

中学校教諭二種免許状（国語）・司書資格・司書教諭。他に認定資格として、プレゼンテーション実務士資格（全国大学実務教育協会認定）が取得でき、コミュニケーション能力の向上を目指し、一般企業への就職を目指す学生に取得するよう指導している。外部検定の単位認定として、漢字検定2級以上合格の単位化制度を設けている。

2) 英語英文科

中学校教諭二種免許状（英語）・司書資格・司書教諭・プレゼンテーション実務士資格の取得が可能である。また保育科における他学科専門教育科目履修により幼稚園教諭二種免許状を取ることができる。

その他、特定の検定試験等の受験対策としての専門教育科目を設置し、実用英語技能検定（準2級・2級）・TOEIC・TOEFL・観光英語検定（2級・3級）・ホテル実務技能認定試験（3級）・秘書技能検定（2級・3級）などの受験や取得を奨励している。さらに、上記の検定等で本学科指定の一定レベルに合格、到達した場合には、単位を認定する科目も設けている。

3) 保育科

保育士資格・幼稚園教諭二種免許状。その他「レクリエーション・インストラクター」「児童厚生二級指導員」「モンテッソーリ教師（本学認定）」「ネイチャーゲーム指導員」「小児救急救命法」の資格取得が可能。その履修方法は次の表のとおりである。

取得資格	修得に必要な科目
レクリエーション・インストラクター	現場実習（保育実習と事業参加及び「レクリエーション論」「レクリエーション援助法」「音楽と子ども」「子どもの運動あそび」を必修科目とする）
児童厚生二級指導員	保育士資格取得に必要な科目（保育実習は児童館で行う）及び「福祉政策と子ども」「児童館の機能と運営」「地域福祉論」を必修科目とする
モンテッソーリ教師（本学認定）	「小児保健」「モンテッソーリ教育概論」「モンテッソーリ・メソード」を必修科目とする
ネイチャーゲーム指導員	集中講義、現場実習及び検定試験
小児救急救命法	集中講義

4) 音楽科

中学校教諭二種免許状（音楽）・音楽療法士2種・訪問介護員（ホームヘルパー）2級の資格取得が可能。

なお音楽療法士や訪問介護員資格を取得するためには、卒業に要する64単位の他に、さらに30単位に相当する講義、実習科目及び施設における実習を必要とする。

5) 専攻科

国語国文専攻は中学校教諭一種免許状（国語）、保育専攻は幼稚園教諭一種免許状を取得できる。これは、本科で取得した幼稚園教諭二種免許状を基礎とし、本学専攻科の指定科目を履修し、学位授与機構の学士認定を受けることにより取得可能となる。音楽専攻は中学校教諭一種免許状、音楽療法士1種、訪問介護員2級の資格が取得できる。

<添付資料2> 「学生生活ハンドブック」(PP50~74) 参照

(4) 選択科目を学生が適切に判断して選択できるように、学生便覧やガイダンス等でどのように指導しているか、また学生が希望する選択科目を履修しやすいように、時間割上どのような工夫を施しているか等について記述して下さい。

1) 日本語日本文学科

必修科目(5科目8単位)以外はすべて選択科目として設定している。学生一人一人が「なりたい自分になる」ために科目間の整合性を考え、選択することを求めている。その配慮としていくつかの工夫をした。一つは、専門科目が同一学年では時間割上同時開講がないように考慮していること、もう一つは、内容の関連度からの科目的グループ化（これをキャストと呼ぶ）である。これらの工夫の結果として、学生には意図しない空き時間が生じる場合もあるが、それを有効に使うよう指導している。

授業履修学生の数については教室の容量、設備、効率から一部科目に定員制を設けるが、基本的には希望すれば受講できるようにしている。

2) 英語英文科

専門教育科目のうち、必修は8単位のみである。これ以外の選択科目は、3つの科目群に分けられた「コース科目」と3コース共通の共通選択科目となる。各コースには、約20~25単位分が開設され、時間割ではコース内の科目が自由に履修できるように可能な限り配慮している。時間割上可能ならば、他コース科目も履修してよい。

3) 保育科

「学生生活ハンドブック」（「保育科授業科目一覧」43P 参照）の注意書きにおいて、卒業単位・幼稚園教諭免許状取得・保育士資格取得のための内容を記している。免許、資格にかかる必修、選択必修科目を指定し、それ以外の科目については選択科目として扱っており、自由に選択できる内容となっている。

4) 音楽科

本学科では、声楽・ピアノ・菅弦打・電子オルガンの専攻があり、専攻ごとに選択科目が設けられている。専攻ごとのアンサンブルや副科専攻実技（声楽はピアノ、ピアノは声楽など）その他、ソルフェージュ科目などは、個々の能力によってクラス分けされる。時間割においては、非常に窮屈で5时限目まで開講している。従って選択科目を履修しやすい状態はない。今後改善に向けて検討すべきと考えている。

5) 専攻科

国語国文専攻の開講科目の単位数は平成19年度からの改訂で82単位開講しており、学位取得のためにも十分である。さらに他の専攻科目も履修ができ、常葉学園大学の科目等履修生として単位を取得することもできる。保育専攻は資格と密接に結びついた専攻であるため、自由度が高いとは言えないが、カリキュラムについては子育て支援や特別支援教

育という新しい課題に対応すべく検討中である。音楽専攻も自由度は高くないが、3 専攻あるので他専攻履修の制度を利用して他の専攻科の科目を履修できる。

(5) **卒業要件単位数及びその他の卒業要件（必修単位の修得、学生納付金の納付等）を示して下さい。**また学生にはどのような方法で卒業要件を周知させているかを記述して下さい。

卒業要件に必要な単位数は全科ともに、教養教育科目 12 単位、専門教育科目 40 単位、その他(教養教育科目及び専門教育科目の中から任意に選択)12 単位の計 64 単位である。教養教育科目 12 単位の内訳は、必修 2 単位、選択 10 単位を基本とするが、音楽科のみ外国語 1 科目 (2 単位) を選択必修としている。専門教育科目 40 単位の内訳は、日本語日本文学科・英語英文科・保育科の 3 学科は、必修 8 単位、選択 32 単位であるが、音楽科は専門性を重視することもあって、必修 24 単位、選択 16 単位としている。

専攻科の修了要件単位数は、国語国文・保育・音楽の 3 専攻ともに 50 単位である。専攻ごとの内訳は、国語国文専攻・必修 14 単位、選択 36 単位、保育専攻・必修 16 単位、選択 34 単位、音楽専攻・必修 31 単位、選択 19 単位である。ただ多くの専攻科生は学位の取得を希望するため、「学士」に必要な 62 単位を修得している。

その他の卒業要件としては、在学期間が 2 年以上であること、決められた期限内に授業料を納入することがある。

以上の卒業要件に関しては、「学生生活ハンドブック」(20P 参照) に記載しているが、学生には年度当初のガイダンス、各科のガイダンスで説明し、特に新入生に対してはフレッシュマン・キャンプを使って周知徹底を図っている。

(6) **教育課程の見直し、改善について、学科等の現状を記述して下さい。**なおこの項はできれば学科等の責任者（学科長、学科主任等。以下、「学科長等」という。）が記述して下さい。

1) 日本語日本文学科

授業の根幹を選択科目の充実に置いていていることもあり、選択の仕方や傾向については、毎年の履修学生実数を点検している。さまざまな要素を考える中で、その授業の必要性・需要度を点検し、科目間内容の体系的な見直しを行っている。

19 年度は選択度の低い科目を整理し、社会生活や表現力の向上を視野に入れた科目を補強することにした。将来的には、何かを作り発表する、プレゼンテーションを作品として残せるような科目・制作関連科目、あるいは授業形態を考えている。

授業評価作業の中から教員とのコミュニケーションを強化するためにも、学生の動きを把握できる体制作りを模索中である。

2) 英語英文科

本学科では、教育課程改善のために、通常の科内会議 (月 3 回) に加え「あすなろ会議」という名称で月一回程度の検討会を設けている。

平成 19 年度導入のカリキュラムにおいては、必修科目群を総点検した上で、低下傾向にある英語基礎力の涵養を一層継続的に実施するため 2 年次にも必修科目を置いた。コース科目群については、卒業後に数年の実社会経験を経た上で留学を希望する学生への対応、小学校での英語教育導入に伴う早期英語教育の普及、富士山静岡空港開港による県内観光産業の新展開などを念頭におき総括的な見直しを行い、コース名称も変更した。また、半期科目を増やし、同系科目間の連動性や学生への効果的な履修指導という観点から、原則

として半期4科目を1群とする「ユニット」と呼ぶ科目配列を明確にした。

3) 保育科

保育科の場合、教育課程は幼稚園教諭免許科目、保育士資格科目とも文部科学省・厚生労働省指定の科目を中心としているため、本学独自の科目設定が難しいが、平成15年度にカリキュラムの改定を行った際、保育科の特色を出すため「子ども総合科学概論」や、また保育士系科目をベースに児童厚生二級指導員、レクリエーション・インストラクター、モンテッソーリ教師等の資格にかかわる新規科目を立ち上げた。

4) 音楽科

本学科の教育課程の見直しは現在考えていない。ただし、本学科学生の約半数強が専攻科、または他大学へ進学・編入をしている現状を考えると、本学科の教育内容を体系的に見直す必要があると考える。

5) 専攻科

国語国文専攻は、平成19年度本科との連動性を考慮して科目の整理統合等カリキュラムの改訂を行った。保育専攻は、平成21年度にカリキュラムを改訂する予定で、特に子育て支援関係の科目及び特別支援教育関係の科目を新設し、現代の保育・教育の問題に対応していくこと準備中である。音楽専攻も毎年カリキュラムなど見直しするよう努めている。専攻科に進んだ学生が自分の専攻実技のレベルが高まるほど、練習時間を確保する必要に迫られる。そのため、他専攻履修でも、時間割の都合で科目を選択するので、音楽科内の専攻科の科目を増やすよう対策を検討している。

【授業内容・教育方法について】

(1) シラバスあるいは講義要項を作成する際に配慮していること等を記述して下さい。シラバスあるいは講義要項が作成されていない場合はその事由等を記述して下さい。

シラバスの作成については、毎年教務委員会において様式や掲載内容等について協議している。印刷・製本は本科生用と専攻科生用に分けており、記載分量は平成18年度から1科目1ページ(1600字程度)とした。記載項目は、主題と目標、授業計画、使用テキスト・教材等、評価方法、その他(参考文献、履修上の注意、注意事項等)の5項目である。評価方法では平成18年度から「受講状況(出席、授業中の態度、小レポート、発表、課題の提出等)」を評価の判断基準に盛込むこととした。

活用については、授業開始1週間前にシラバスを配布し、1年生は入学当初のフレッシュマン・キャンプや履修登録申請ガイダンス、2年生は4月の年度始めのガイダンスや履修登録申請ガイダンス時に持参させ、履修登録科目の決定資料としている。

今後は履修登録時の活用だけではなく、学生によるアンケート結果を踏まえ、製本の形式、実技系科目的授業計画記載方法、評価方法の判断基準の提示方法等を検討し、普段の学習活動にも十分活用されるものにしていきたい。

(2) 学生の履修態度、学業への意欲等について、学科長等はどのように把握し受け止めているか記述して下さい。

1) 日本語日本文学科

出席状況は良好であり、皆出席が基本となっている。欠席調査を学期ごとに実施しているが、欠席の多い学生の場合は履修を取りやめている例がほとんどである。また、授業で

の課題の提出はほぼ 100% となっている。科目選択の自由があり、履修には個々の確認が行われていることが参加意欲を高めているものと判断する。学生の資質は低くなっていることは事実であるが、学習意欲の減退にはつながらず、何を学ぶかを自分なりに描いている者が多く、創作に意欲を持つ者が多い。その芽を摘まないように配慮し、個別相談の必要性も高まっているので、「オフィスアワー」を毎月 1 回設定している。ここでは、学生の来室や相談を義務付けていないが、各教員の研究室を訪ねる学生は毎回 30 名程度(全学生の 2 割)であり、設定時間の長さ(50 分)や場所(教員研究室)を考えれば、盛況であると言えよう。このような機会を通じて、コミュニケーションが取れていることが学習意欲や学生生活へ結びついていると考える。

2) 英語英文科

多くの学生は自ら選んだ 3 つのコースにより、一定の方向性を持って学習している。観光関連の職業を目指し、実務系科目や学外研修科目などを履修する者、他学科履修で幼稚園教諭の免許課程を履修しながら児童英語教育を学ぶ者、在学中の認定留学や卒業後の編入・留学に向け学習する者などである。過去の「学生生活アンケート」によれば、約 6 割が本学科への入学理由として「学びたいことが学べる」「希望の免許・資格が取れる」と回答している。一方、同アンケートで不本意入学を理由とした者も少数であるが存在し、このような学生も含めて、目的意識や学習意欲を失いがちな学生に対する日頃の指導や激励が重要である。

3) 保育科

多くの学生は、幼稚園教諭二種免許状・保育士資格の 2 つの資格取得を目指し、卒業後は保育者になっていくのが現状であり、それが伝統でもある。そのため勉学への意識は高いものを感じている。しかし、一部の講義科目の中で時間割上(集中講義)、受講者数の多いものがあり、私語が気になるものもある。受講者数の多い科目については、今後、時間割を見直していく中で検討していきたいと考えている。

4) 音楽科

学生は舞台などの演奏という目的意識を持って日頃から努力している。コンクールやオーディションへの挑戦、アンサンブルによる協調性のある学習意欲も感じられる。またすべての科目で「単位修得」のみでなく、音楽を深く理解し、教員に対してさまざまな質問をするなど意欲が感じられる。

5) 専攻科

ほとんどの学生は学士取得を目指して、2 年間で 62 単位以上を修得している。出席状況もおおむね良く、平成 16 年～17 年度の学士取得率は、国語国文専攻が 100%、保育専攻が 96%、音楽専攻が 85% である。専攻科生は少人数であるため授業態度もよく、学業への意欲は高い。

【教育改善への努力について】

- (1) 学生による授業評価を行っている場合はその概要を記述して下さい。行っていない場合にはその事由等を記述して下さい。

本学では、毎学期末に専任・兼任教員を問わず、全教員を対象にアンケート方式での授業評価を行っている。匿名、マーク方式で質問は 5 分野 28 項目になる。

結果については教務課で取りまとめ、教員と事務局による「授業評価作業部会」の委員が集計処理を行い、授業担当者に評価結果を通知する。また、項目ごとの回答数と学科別での数値を「紀要」に掲載するとともにインターネット上でも公開している。

回数や時期に関する課題として、学生の回答するアンケートが平均 10 科目前後になり、短期間（2 週間）に集中する結果、同じ質問に同じような回答を行うことで、真摯な回答が得られない場面も予想されることがある。これについては質問数を減らすなど、負担感を減らすなどの処置を講じた。

なお、記入者が特定できるような科目の場合には、担当教員による回収でなく、教務課での回収とした。内容は授業の「内容」「進め方や方法」「教員の資質」「シラバス」などについての 5 段階評価である。授業評価を学内で公表し、問題点を明確にすることで授業の改善、あるいは学生の学習意欲の向上に役立たせるべく、結果に対する教員の報告を求めている。実施の意義についての疑念や質問内容についての疑義も出ているが、すべてを満足させる質問はありえないと考える。

以前には教員に対して学生をどう見るか、また、授業時での工夫についてアンケートを行ったが、その時点に比べれば、授業そのものへの工夫は格段に変化していると判断する。

＜参考資料 - 3 ＞「学生による授業評価票」（「学生による授業評価結果一覧」・「紀要」37 号、PP221～251）参照

(2) 短期大学全体の授業改善 (FD 活動及び SD 活動等) への組織的な取組み状況について記述して下さい。また学長は授業改善の現状について、どのように受け止めているかを記述して下さい。

昭和 57 年から本学では「短大教員研修会」(115P 参照) を実施してきた。平成 18 年で 27 回目を迎えた。短大教員研修会プロジェクトがテーマを決め、教授会で最終承認する。専任教員全員が参加し、2 日間かけて実施している。授業改善として、学生を集中させる授業法、さまざまな教材を用いる内容等について議論を重ねた。最近の授業ではパワーポイント等を利用し、視覚にも訴える配慮をしている。学生が授業に集中し、理解できているか、授業評価アンケートはそれを反映させる有効な手段と考えている。

(3) 担当授業について教員間の意思の疎通や協力体制、または兼任教員との意思の疎通について、学科長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

1) 日本語日本文学科

本学科の専任教員のうち 1 名が管理職であり、会議の時間が取れないことが多い。その分をメールで連絡しあうとともに、教員が共同研究室を訪れる必要な情報交換をしている。

授業内容については科目間で重なる部分は少ないが、キャスト内での科目内容についての連係は考えるべき問題だろう。パソコン利用授業では特に重なりが予想されるので、作業課題についての情報交換が望ましいと思われる。

科の会議は回数としては月に 1 ~ 2 回行うが、それ以上に共同研究室での情報交換とそこからの連絡網で生きた情報が交換されている。

また、兼任教員にはできるだけ、顔を合わせるようにし、情報交換を行っている。特に 1 年生前期については科長、主任が直接様子を尋ねる形をとっている。

2) 英語英文科

複数の集団を数名の外国人が担当するスピーキングの科目では、時間割において同じ曜日の同じ時間帯に授業を組み、共通テキストの使用により習熟度別授業や授業担当ローテーション制・一斉面接テストなどを実施している。担当者の内、1名の専任教員（外国人）がコーディネーターとしてほぼ毎週簡単な打ち合わせ会を主催している。また、基礎力充実を図る必修科目の「カレッジ英語AおよびB」は専任教員を主に担当とし、チームとして教科書選定から授業内容の連携、あるいは習熟度別クラス編成に当たっている。これも、同じ曜日の同じ時間帯に授業を組み、一斉テストなども可能にしている。さらに「研究セミナー」（前期）でも複数の専任が担当し、後期の「卒業研究」や卒業研究発表会の実施に向け協力体制をとっている。ほぼ毎週開かれる科内会議において、授業の開講や展開の様子について意見や情報の交換を行い、兼任教員についても学科主任またはコース担当者と必要な意思疎通を図る体制が確立されている。

3) 保育科

本学科は保育総合演習や実習の授業等複数の教員がかかわっている科目があり、共同研究室において日常的に授業について話し合い、教育効果を上げる工夫をしている。さらに科内会議においても情報を交換し、意思の疎通を図っている。

また、新年度が始まる前には「非常勤講師会」を開催し、専任教員も出席の上、教員全體に保育科の理念等について伝えたり、各専門領域に分かれて教育内容の確認や授業展開等について話し合う機会を設けている。

4) 音楽科

ピアノ・声楽等の各専攻や授業ごとの研究会を実施しながら、授業展開の研究をしているので、意思の疎通や協力体制はできている。特に教員間に年齢差もあり、若手の教員も含めて、教授法を研究しながら、指導上の協力体制をとっている。また全教員（専任・兼任教員）で試験後に授業の進め方や教授法について確認することにしている。その点では兼任教員とも意思の疎通は十分にとれているものと思う。

5) 専攻科

国語国文専攻は、専任教員間では科内会議の場や12月初旬の修了論文発表会などで専攻科のことを話題にし、意思疎通を図っている。兼任教員とは「非常勤講師会」の場で意思の疎通を図っている。保育専攻も保育科の科内会議において、毎回専攻科の状況を報告し、問題点があれば討議している。修了論文の中間発表、論文発表会には専任教員が必ず参加し、指導の学生以外の発表についても助言をしている。音楽専攻も同様であるが、音楽教育が個人レッスンを基本とするため、教員間の意思疎通と協力体制が重要で、評価の際など兼任教員を含めた集団評価をするなど、きめ細かい指導体制をとっている。

【特記事項について】

(1) この《 教育の内容》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、他の教育機関との単位互換制度、習熟度別授業、情報・メディア教育、国際理解教育、海外研修制度、インターンシップ、女子教育の伝統継承と発展への取組み等、学科等において努力していることがあれば記述して下さい。

1) 単位互換制度

平成11年に同一法人の大学間で作成された協定書に基づき単位互換を行っている。過去

3年間の利用者は地理的条件もあってか、わずかに3名に留まっている。今後は、活用の推進を図るための検討を行う予定である。

2) 習熟度別授業

英語英文科では、主に必修科目で時間割に一斉授業（同一科目複数コマ開講）を組み、実施している。学期はじめにTOEICや共通テストを実施し、クラス分けを行う。平成19年度の新カリキュラムでは、中学レベルの基礎英語からやり直す授業や科目も導入した。

保育科では、ピアノ実技の授業において習熟度別にクラスに分かれ対応している。

音楽科では、「音楽理論」「ソルフェージュ」「和声楽」において習熟度別のクラス編成を取り、効果的に授業を行っている。また、1年次の3月にはコース変更試験を実施して習熟度を確認している。

今後は、スキルアップを図るための授業（情報処理にかかる授業等）においては、学生個々の精確な実態を把握し、より一層教育効果を高めるために、適当なクラスサイズの維持・確保と習熟度別教育を推進していきたい。

3) 情報・メディア教育

高度情報化社会に対応できる基礎的な技能の修得を目的とした学習支援の取り組みとして、教養教育科目の中で、1年次にコンピュータ教育を行う科目が用意されている。選択科目にもかかわらず、82%の学生が受講している。学生はパソコン室やメディア自習室、ライフデザインセンター、日本語日本文学科・保育科の共同研究室等でいつでもコンピュータを利用することができる。その他平成16年にネットワークカフェテリアを導入し、ノートパソコン等のモバイル機器利用者にキャンパス内でインターネットの接続可能な環境を整えている。

また、インターネットを利用する上で、年度始めに「学内のコンピュータ利用について」を全員に配布し、ネチケット等を含め指導を行っている。平成18年度は外部からのインターネット回線を無線から有線に切り替え、アクセス時のトラブル解消を図った。

今後は、技能レベルや学習成果の確認の意味からもパソコン検定等の利用も含め、積極的な学習支援体制を整えていきたい。

4) 国際理解教育

日本語日本文学科では、「異文化コミュニケーション」「比較文化」「料理の言葉」等を開講している。

英語英文科では学科の教育目標の一つである「国際性」の涵養を目指し、授業科目に「英語圏事情」「海外語学研修」「海外長期留学A・BおよびC」（認定留学制度）「異文化コミュニケーション」「比較文化」等の授業を設置している。この他、外国人担当の授業の一部として行う「語学キャンプ」（1泊2日）やクリスマスパーティ等のイベントを通じて（英語圏の）異文化理解教育に努めている。平成19年度からは、今後の県内観光産業の新展開（富士山静岡空港開港）も視野に入れたアジア圏の文化理解教育も検討したい。

音楽科では、毎年2月に姉妹校提携を結んでいる国立モスクワ音楽院と合同セミナーを開催している。全学生がスタッフとしてイベントの運営に携わるとともに、モスクワ音楽院の学生との交流会を設けている。また、学校法人が3年に一度開催する「日本国際青少年音楽祭」では、ボランティアスタッフとして学生を参加させる一方、演奏会にも出席させている。

5) 海外研修制度

英語英文科に「海外語学研修」(1年次夏休みに約3週間)と「認定留学」(2年次4月当初から8月下旬まで約5ヶ月間)の2つの制度がある。「海外語学研修」は、英語圏の国でホームステイをしながら英語の授業を受ける。平成18年度は英国(参加者26名)であった。「認定留学」は、カールトン大学(カナダのオタワ市)との協定により、大学付属の語学クラスで学ぶ。参加者の選考は、筆記試験・小論文・面接・授業成績によって決定する。一部の学生には授業料半額免除や奨学金授与も行っている。平成18年度は11名であった。

6) インターンシップ

日本語日本文学科では公共サービス現場への研修を前提とした「インターンシップ」を1年次に開講している。司書資格を取得希望する学生を中心に行っているが、前半を応対や言葉遣い、職場の概要を学内で講義科目として行い、後半は現場に出て研修を行っている。

英語英文科では実習先に合わせた「子ども英語研修」(平成18年度カリキュラムでは「早期英語教育実践」)を2年次に、またホテルや企業での「インターンシップ」を1年次に開講している。

インターンシップ期間中は本学教員が巡回し情報交換をすることで、学生の職業観・勤労観を高めることにつなげている。

7) 他学科履修制度

平成6年に規定されたこの制度は、本科4学科が設置されているメリットを最大限に生かすものである。他学科の専門教育科目を履修するに当たり、12単位を限度とし卒業要件に算入できるので、平成18年度には76名が免許や資格取得等のために有効に活用している。特に英語英文科「子ども英語コース」においては、幼稚園教諭二種免許状取得のため、保育科で「教育に関する科目」を他学科履修する学生が多い。専攻科では、平成13年から他専攻科目履修を認めている。修了要件には算入できないが、平成18年度は21名が学士取得のために有効に活用した。

8) キャリア教育の導入

これまで就職進路指導室が放課後実施してきたキャリア教育を、平成13年度から授業科目として教養教育科目の中に「職業と人生」として開設した。日本語日本文学科では「ビジネス文書実務」の他に「ライフデザイン研究」「接遇とマナー」を開講し、英語英文科では必修の「ライフデザインセミナーAおよびB」を筆頭に、「ホスピタリティ入門」「接遇実務実習」「接遇サービス」「空港フィールドワーク」等を開講し、マナー教育や低下傾向にある学生の言葉による表現力や対人関係におけるコミュニケーション能力の育成に努めている。

9) 総合セミナー

教養教育科目のうち唯一の必修科目。2年間で2単位。建学の精神を実践的に学習。フレッシュマン・キャンプ(4月)、研修センターなどの宿泊ゼミ(2月~3月)、創立記念日(6月)、之山忌(創立者の忌日・10月)、芸術鑑賞会・秋季講演会などをとおして人間教育の達成を図ることを目的とする。(「学生生活ハンドブック」8P参照)

《 教育の実施体制》の記述及び資料等について

【教員組織について】

(1) 現在の専任教員数を表にして作成して下さい。

専任教員表

(平成 19 年 5 月 1 日現在)

学科・専攻名等 (専攻科を含む)	専任教員数				設置基準で 定める教員数 〔イ〕	助 手 〔ハ〕	備考
	教授	准教授	講師	計			
日本語日本文学科	4	1	1	6	4	0	0
英語英文科	2	5	0	7	4	0	0
保育科	5	3	6	14	11	1	0
音楽科	4	3	1	8	7	1	0
教養教育	2	1	2	5		0	0
(小 計)	17	13	10	40	26	2	0
〔口〕					6		
(合 計)	17	13	10	40	26	6	2

- 〔注意〕 1 . 上表の〔イ〕とは短期大学設置基準(以下「設置基準」という。)第 22 条別表第 1 のイに定める学科の種類に応じて定める専任教員数をいう。
2 . 上表の〔口〕とは設置基準第 22 条別表第 1 の口に定める短期大学全体の入学定員に応じて定める専任教員数をいう。
3 . 上表の助手とは、助手として発令されている教職員をいう。
4 . 上表の〔ハ〕とは、助手以外の者で短期大学全体もしくは学科等の教育研究活動に直接従事する教職員(事務職員を除く)をいう(例えば助手、副手、補助職員、技術職員など)。

(2) 短期大学の教員にふさわしい資格と資質の有無については、訪問調査の際に、教員の個人調書(履歴書、研究業績書、担当授業科目名、その他)を提示していただきます。したがって個人調書をこの報告書に添付する必要はありません。

<参考資料 - 1 > 「教員の個人調書」

(3) 教員の採用、昇任が適切に行われている状況を記述して下さい。その際、選考基準等を示した規程等があれば訪問調査の際にご準備をお願いいたします。

本学専任教員の採用、昇任については、「常葉学園 大学教育職員任用並びに昇任規程」を基に、採用は「教員の任用基準内規」、昇任は「常葉学園 大学教員昇任基準」「常葉学園 大学教育職員昇任手続要領」により手続きを行っている。

募集については、特に定める基準や手続きはない。採用についての具体的な対応は次のとおりである。

まず、採用にあたっての候補者を各科で選定、リストアップした後、学長に提出する。学長は、短期大学設置基準に定める教員の資格及び「教員の任用基準内規」に照らして、法人に対し採用候補者として発議するか否か決める。次に、理事長に採用について発議、内申する。この内申は、学長の最大の責務として捉えている。採用が決定した後、学長はこれを教授会に報告する。

昇任について学長が発議、内申し、理事長が承認するまでの手順は、次のとおりである。

まず、各学科長から学長に適格者を推薦する。そこで学長は事前の適格審査を行い、学長から指定した書類について学科長をとおして該当者に提出依頼し、書類提出後諮問委員会に諮問し、次に教授のみによる教授会で承認を得た後、理事長に昇任について発議、内

申する。任命は理事長が行う。昇格が決定した者については新年度に口頭で発表している。

<参考資料 - 2> 「教員選考基準の規程」（「常葉学園規程集」のうち「大学教育職員任用並びに昇任規程」「大学教員昇任基準」「大学教育職員昇任手続要領」等）
参照

(4) 教員の年齢構成について現状を記載して下さい。

専任教員の年齢構成表

(年齢は平成 19 年 4 月 1 日現在)

学科	教員数	年齢ごとの専任教員数（助教以上）							助手等の平均年齢	備考
		70 以上	60 ~ 69	50 ~ 59	40 ~ 49	30 ~ 39	29 以下	平均年齢		
合計人数	40	0	6	12	14	8	0	49.5	34.5	
割合		0%	15%	30%	35%	20%	0%			

[注意] 1 . 上表の助手等とは、助手に加えて助手以外の者で教育研究活動に直接従事する教職員（副手、補助職員、技術職員等）を含む。

(5) 専任教員は、(a) 授業、(b) 研究、(c) 学生指導(d) その他教育研究上の業務に対して意欲的に取り組んでいるか。また上記 4 つの分野の業務取組み状況にはどのような傾向があるかを短期大学の責任者（以下「学長等」という。）が記述して下さい。その際、過去 3 ヶ年（平成 16 年度～18 年度）程度の教員の担当コマ数（担当コマ基準、平均担当コマ数等を含む）、教員の研究業績、教員が参画する学生指導の業務、教員が参画する他の教育研究上の業務概要を示して下さい。

(a) 授業： 大学の核である授業は各科ともに全力で当たっている。平均すると本学園の規定以上のコマ数を担当している。本学の場合各科の特徴を生かし、他学科履修等、科を越えて相互乗り入れができることが特筆される。担当コマ数は別表に示すとおりである。

(b) 研究： 文部科学省の研究補助金である若手研究に採用された教員が 2 名いる。英語英文科では教授法等を研究している例もある。音楽科では卒業演奏会、専攻科の修了演奏会等を実施している。

(c) 学生指導： 《 管理運営》に示した委員会及びプロジェクトは、直接・間接的に学生指導につながるが、中でも《学生委員会》はクラブ活動、学生寮をはじめ生活指導、福利厚生に関する内容を扱っている。

《 L C 運営委員会》は、本学の教育の根幹をなすライフデザインの考え方に対し、各科・課を通じてその考え方と実践を行っている(L C の具体的な取り組みについては 77P 参照)

《総合セミナー委員会》は、教養教育科目の筆頭科目である総合セミナーを必修化し、入学当初のフレッシュマン・キャンプ、創立記念日、之山忌、秋季講演会、研修センターゼミを計画し、全教員が指導に当たっている (31P 参照) 。

《大学祭支援プロジェクト》：自治組織である学生会は、年を経るごとにその機能が薄れ、役員に立候補する学生も減ってきてている。そのため、大学祭は学生会と切り離して、教員がサポートしながら実施している。大学祭当日は、教職員全員が対応している。

(d) その他教育研究上の業務に対する意欲的な取組み状況とその傾向

本学ではクラス担任制をとり、学生の指導・相談に応じている。日本語日本文学科・英語英文科では、毎月一回「オフィスアワー」を設定している。保育科は実習にかかる事前指導、音楽科では専攻楽器別による細かな指導が行われている。

《学長の認識》：短期大学の現状を考えた場合、専任教員はまずわかりやすい授業、学生指導、各種委員会への参画が中心とならざるを得ない。しかしこれが短期大学に入学した学生を育てる一番重要なことと考えている。このため研究に費やす時間が若干制約されることは否定できない。

専任教員の担当コマ数（平成 16 年度～18 年度）

学科等	氏名	職名	16年度	17年度	18年度	備考
日本語日本文学科	尾崎 富義	教授	6.0	6.0	6.0	副学長・図書館長
	繁原 央	"	8.5	8.0	8.0	専攻科長
	上野 力	"	7.5	7.0	7.0	科長
	平井 修成	"	7.5	7.0	7.0	
	瀬戸 宏太	助教授	7.5	7.0	7.0	主任
	小野田 貴夫	講師		8.0	7.5	17年度新任
英語英文科	一言 哲也	教授	6.0	7.0	6.5	科長
	鈴木 克義	"	6.5	7.0	7.0	
	小田 寛人	助教授	6.5	7.0	6.5	主任
	市川 真矢	"	7.0	7.0	7.0	
	デイヴィット・ハント	"	10.0	9.5	9.5	
	永倉 由里	"	6.5	7.0	6.5	
保育科	山本 伸晴	教授	5.0	5.5	2.5	学長
	稻葉 昌代	"	5.5	5.5	5.5	科長・L C 長
	長崎 イク	"	7.5	7.5	7.5	専攻科主任
	本橋 寿世	"	7.5	7.0	7.0	
	加藤 光良	"			7.5	18年度新任
	鈴木 久美子	助教授	8.0	7.0	6.5	副主任
	長橋 秀樹	"	7.0	7.5	7.5	主任
	加藤 明代	講師	10.5	7.5	4.5	L C 課長
	永倉 みゆき	"	6.0	7.0	6.5	
	加藤 弘通	"	8.0	6.5	7.5	
	河原田 潤	"		7.0	7.5	17年度新任
音楽科	竹石 聖子	"		7.0	6.5	17年度新任
	桑原 啓郎	教授	8.0	7.0	7.0	科長
	A・セメツキー	"	8.0	8.3	9.0	
	真田 光子	"	8.5	8.3	6.9	
	金子 建志	"	6.0	6.0	6.0	専攻科主任
	小林 秀子	助教授	8.0	8.6	7.8	
	高瀬 健一郎	"	8.0	9.0	7.8	主任
	仲戸川 智隆	"	8.0	8.0	10.3	
教養教育	塚本 一実	講師		6.0	7.0	17年度新任
	戸藤 利明	教授	2.0	1.5	1.0	学生部長・主任
	竹中 堯	"			6.0	18年度新任
	片山 邦子	助教授	7.5	8.0	8.0	
	巻口 勇一郎	講師	7.0	7.0	6.5	
	谷口 真嗣	"		7.0	7.5	17年度新任

(6) 助手、副手、補助職員、技術職員等を充分に、あるいは可能な限り配置しているか。また助手等が教育研究活動等において適切に機能しているかを学長等が現状を記述して下

さい。

本学には助手(実習助手)が保育科と音楽科に各1名ずついる。保育科では実習の補助・授業教材の準備等、音楽科では共同研究室での授業教材の準備等を、また、日本語日本文学科、英語英文科には非常勤事務職員が配置され、それぞれ授業教材等の準備や会議録の作成等の業務に当たっている。

【教育環境について】

(1) 校舎・校地一覧表を作成して下さい。

校舎・校地一覧表

(平成19年5月1日現在)

収容定員	校舎			校地			備考
	基準面積	現有面積	差異	基準面積	現有面積	差異	
常葉学園短期大学	830人	7,500m ²	9,957m ²	2,457m ²	8,300m ²	39,976m ²	31,676m ²
併設							
その他共用							
計	830人	7,500m ²	9,957m ²	2,457m ²	8,300m ²	39,976m ²	31,676m ²

基準面積とは設置基準で定める面積とします。

- [注意] 1. この項には図面(全体図、校舎等の位置を示す配置図、校地間の距離・校地間の交通手段等を含む)を準備しておいて下さい。
2. 主要校地については訪問調査の際にご案内いただきます。

(2) 校舎について、まず設置基準第31条の規定による短期大学全体の基準面積(基準面積を算出する計算式を含む)を示して下さい。また校舎を法人が設置する他の学校等と共にしている場合は、他の学校の校舎の基準面積も記載して下さい。さらに校舎の配置図、用途(室名)を示した各階の図面を準備しておいて下さい。なお主要校舎については訪問調査の際にご案内いただきます。

基準面積の算定は、次のとおりである。

学科	(収容定員)
基準校舎面積(学科別最大)	別表イ 保育科 (400人) 3,350m ²
加算校舎面積	別表ロ 日本語日本文学科(160人) 1,300m ²
	英語英文科 (160人) 1,300m ²
	音楽科 (110人) 1,550m ²
合計最低基準面積	7,500m ²

短期大学設置基準第31条による。

(3) 教育研究に使用する情報機器を設置するパソコン室、マルチメディア室、学内LAN、LL教室及び学生自習室の整備状況(機種、台数等を含む)について記述して下さい。またその使用状況(使用頻度等)についても記述して下さい。

1) 設置状況

教育研究及び学生の自習に使用する情報機器を整備する部屋として、パソコン室2室、LL教室1室、メディア自習室1室がある。内容は下表のとおり。また、この教室の他にも学内LANとつながっている学生用パソコンとして、日本語日本文学科共同研究室に2台、保育科共同研究室に4台設置している。

パソコン室とLL教室は主に授業用として使用しているが、授業のない場合には許可の

うえ自習用に開放している。また、メディア自習室は常時開放している。

教室名	機種	台数	備考
211 教室（パソコン室）	Windows X P	59 台	
841 教室（パソコン室）	Windows X P	48 台	L L 機能も併用
843 教室（L L 教室）	Windows98	15 台	各机に情報コンセントを設置 15 台はノートパソコン
131 教室（メディア自習室）	Windows X P	20 台	

2) 情報機器の整備状況

パソコン室のハードウェアについては、年2回専用ソフトウェアを利用してH D D の検査を行い、不良箇所の早期発見を行っている。平成17年には841教室、平成18年には211教室のパソコン室にパソコン環境復元ツールを導入した。さらに、インターネット回線を無線から有線に切り替え、アクセス時のトラブル解消を図った。今後は、マルチメディアなどの大容量データの利用を円滑に行える環境を整備していきたい。

3) L A N の整備状況

学内 L A N は平成10年に設置され、100Mbps での通信が可能。学生が授業を受けるすべての教室に学内 L A N への接続のための情報コンセントが設置され、Web サーバ、mail サーバ、ファイルサーバ等が利用可能な環境にある。インターネットへの接続環境も整備され、常葉学園のネットワーク経由で10Mbps の接続が可能である。

4) L L 教室の整備状況

音声メディアを用いての学習では、学生一人の声を他の全員に聞かせる、学生同士でのペア学習、また自習をすること等ができる。ペア学習や自習の間、教員は学習状況を把握でき、ポイントした学生との会話が可能である。これらの基本操作に加え、学生側の机にもモニタが設置してあるため、ビデオやD V D 等の画像を配信したり、V I D (資料提示器) を使い、音声を流しながら資料を提示したりすることもできる。さらに、各机に情報コンセントを設置しているので、ノートパソコンを接続し、インターネットにつなげることも可能である。

5) 学生自習室の整備状況

131教室のメディア自習室には、WindowsXP のパソコンが20台設置され、平日に開放している。使用状況は、1日平均9.3名（平成18年4月～7月）が利用している。この他にも日本語日本文学科、保育科の共同研究室は学生にも開放し、それぞれ2台、4台のパソコンを学生用に設置している。さらに専攻科生に対しては、各専攻別に部屋を設置している。学内 L A N に接続されたパソコンを1台ずつ配置しているため、専攻科生は常時利用可能となっている。

(4) 授業用の機器・備品の整備状況及び整備システム（管理の状況、整備計画等を含む）について、その概要を記述して下さい。なお機器・備品の整備状況については訪問調査の際に校舎等をご案内いただく際にご説明いただきます。

整備管理は事務部及び教務課が行い、年2回（学期の始め）備品の点検を実施し、授業に支障をきたさないようにしている。備品の購入は、教育の必要性を第一に考え、主に教員からの要望を基に原則として購入したい前年度に教務課または各学科から申請を事務部にあげる。機器・備品は備品台帳に記録し管理している。現時点では教育上必要とされる

ものはすべて整備されている。今後は、購入年度から8年以上経過した機器から随時更新していく予定である。

平成19年度 授業用の機器・備品の整備状況一覧

教室	収容定員	放送機材		使用可能な視聴覚機材							その他	グランドピアノ	備考	
		有線	無線	VHS DVD CD	LD	カセット デッキ	OHC	TV モニタ	プロジェクター	スクリーン				
031	63	1												マルチメディア教室
032	132	1	1											マルチメディア教室
114	52										調理用備品一式			調理実習室
121	60							1			ビデオキャプションアダプター			
122	47							1						
131	27										PCWinXP20台 スマートボード			メディア自習室
132	57							1						
133	61							1						
メディアラボ											編集用PC用VC			
141	101	1	1					2			レコードプレーヤー	2		
142	54							1						
143	117	1	1											マルチメディア教室
211	59	1	1								PCWinXP59台 OHP			パソコン室
第4会議室	8							1			VHS			
231	48		1					1			8mmビデオ レコードプレーヤー	1		幼児音楽演習室
232	130	1	2					3			スライド 16mm映写機 8mmビデオ	2		
241			1					1			8mmビデオ レコードプレーヤー	1		体育室
311								1			CD・MD・CTミニコンポ	1		
312	66							1			レコードプレーヤー	1		
341	280	1	1								ブラズマディスプレイ2	1		マルチメディア教室
500		3	2								CD	1		体育館
511	110	1	1					1						マルチメディア教室
521	55							1						図画工作演習室
523	25							1			VHS			図画工作演習室
631	150	1	1								ブラズマディスプレイ1	1		マルチメディア教室
731	210	2	4								レコードプレーヤー DAT 8mmビデオ			マルチメディア教室
732	54							1				1		
811	46							1						
812	141	4	4								PC MD 8mmビデオ デジタルビデオカセット	1		マルチメディア教室
821	94	1												マルチメディア教室
825	53							1						
第5会議室	16							1			VHS			
841	48	1	1								PCWinXP48台 ビデオキャプションアダプター			パソコン室
843	36	1	1								ノートPC15台 LL機材			LL教室
T31	16							1			VHS レコードプレーヤー	1		
オレンジH	320	2	3								MD	2		
和室								1			VHS			

教務課他で管理し、貸し出し可能な視聴覚機材

携帯アンプ2台、携帯プロジェクター2台、携帯VHS1台、携帯DVD1台、テレビビデオ2台、移動スクリーン2基
OHP1台、CDラジカセ3台、CD・MDラジカセ8台、録音用カセット3台、携帯OHP1台

(5) 校地、校舎の安全性、障害者への対応、運動場、体育館、学生の休息場所等について記

述して下さい。訪問調査の際にご案内いただき、ご説明願います。

1) 校地、校舎の安全性

本学の建物は、本館から8号館まである。本館・1号館は昭和41年の開学以来の建物であり、これを含め昭和の年代に建設されたものが7棟ある。このため、老朽化も進んでおり、修理・修繕を必要とするところがかなりある。これらについては毎年計画的に改修工事等行っている。

16年度以降の校地・校舎に対する安全対策として実施した主なものは次のとおりである。

16年度：3号館外壁塗装・床貼替、2号館屋根軒先改修・体育室床改修、

盜難防止貴重品保管庫の設置、図書館トイレ改修

17年度：2号館・3号館・6号館トイレ改修、防犯灯の設置（本館玄関、体育館横等）

18年度：フェンス及び門改修（4号館と6号館の間の公道沿い、体育館東側、体育館北側門等）、本館3階トイレ改修、6号館屋根軒先改修

以上であるが、このような中で、老朽化している校舎について、東海地震に対する防災対策に万全を期す必要があり、そのための耐震補強工事を計画的に進めていく必要がある。

2) 障害者への対応

障害者対策としては、平成12年に建設した8号館にはエレベーター・障害者用のトイレ・駐車スペースが各1ヶ所設置してある。

本学における障害者への対応の取り組みは、全体的に立ち遅れている。今後、隨時改修していくかなければならないと考えている。

3) 運動場、体育館

運動場は、静岡市清水区鳥坂及び同葵区諏訪の2ヶ所にある。位置としてはともに本校から1km余り離れた所にあるが、現在2ヶ所とも本学における体育の授業、あるいはクラブ活動にまったく使用していない。今後、使用計画も含めて検討していく必要があると考える。

体育館はバスケットボールやバレーボールなど、体育の授業やクラブ活動に活用されている。他に校舎敷地内にテニスコートが一面ある。これについても、体育の授業やクラブ活動に活用されている。

4) 学生の休息場所

7号館1階及び2階シトラスホールは学生ホールとして、特に、1階は学生食堂、2階は多目的ホールとして使用し、学生の休憩場所となっている。この他、各校舎にも昼食可能な教室を設けている。

屋外では、3号館前の中庭や敷地内各場所にベンチを設置するなど休息場所を設けている。また、中庭には平成9年11月学校ビオトープ「悠想園」が完成し、学生が自然に親しむ場所となっている。

<参考資料 - 3 > 「校地・校舎に関する図面」（「学生生活ハンドブック」PP197～202）参照

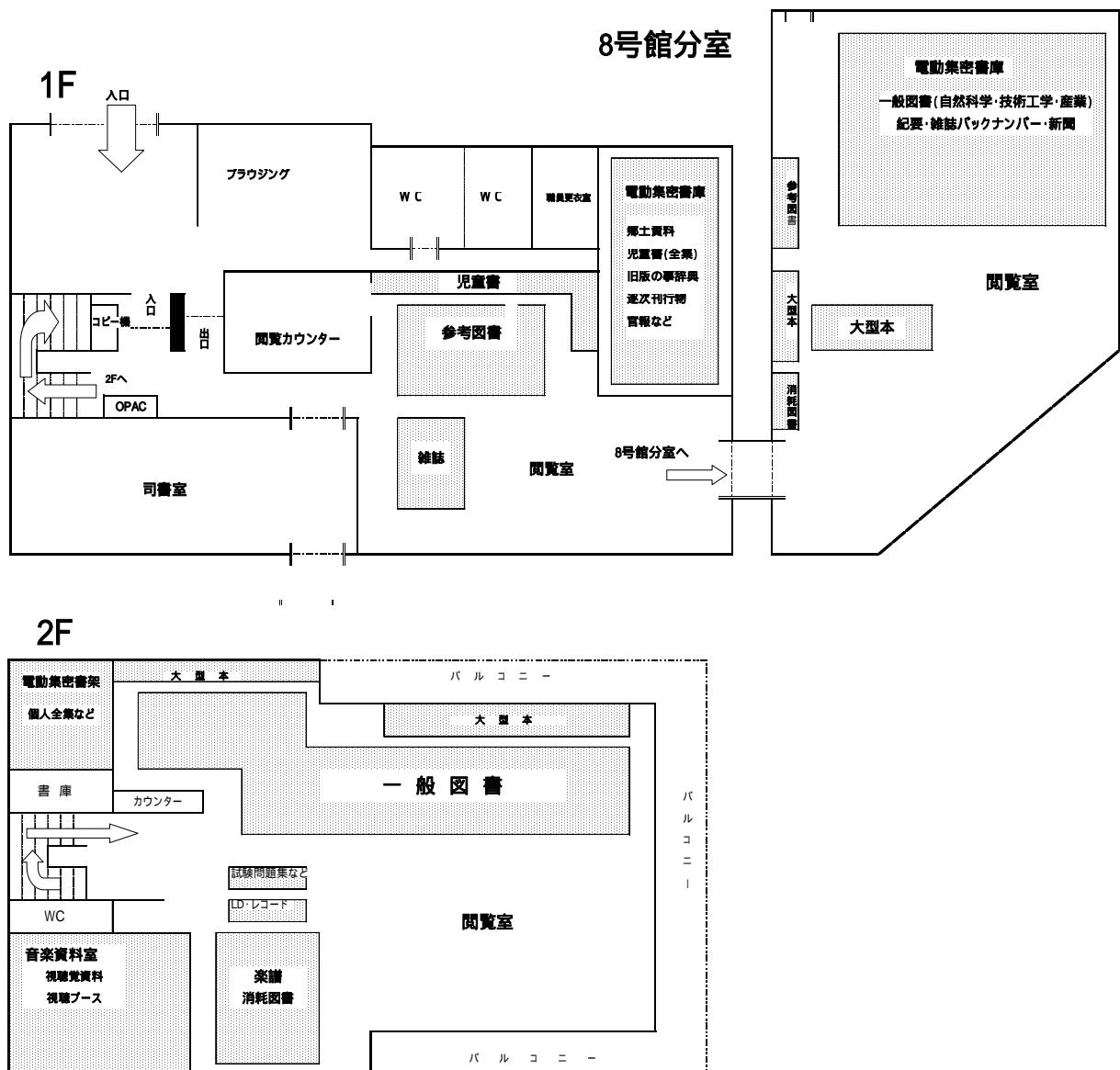
【図書館・学習資源センター等（以下「図書館等」という。）について】

(1) 図書館等の概要について、全体の配置図、座席数、年間図書館予算、購入図書等選定システム、図書等廃棄システム、司書数、情報化の進捗状況等を含めて記述して下さい。な

お図書館等には訪問調査の際にご案内いただきます。

(1) 図書館の概要

1) 全体の配置図



座席数等

形態	鉄筋コンクリート及び鉄骨造の2階建ての単独施設。昭和41年、特別教室等との複合施設として建設。昭和45年、単独の建物となる。
床面積	延べ 914 m ²
収容可能冊数	約 10 万冊
閲覧座数	162 席 (うちキャレルデスク 12 席) / 1 脚あたりの学生数 : 5.7 人
AV 資料視器	7 ブース (1 ブース 4 人まで同時使用可能)
その他	入り口に退館装置 (BDS) を設置

年間図書予算

平成 19 年 3 月現在 (単位 : 千円)

図書	視聴覚	雑誌	合計
7,900	2,460	3,570	13,930

2) 購入図書の選定システム

図書等の選定については、予め各科に提示した予算に従って、まず各科で諮り、それを図書委員会で協議決定する。選書内容の基準としては、a) 継続購入資料、b) 基本図書、c) 学生や学内組織から購入希望のあったものとしている。選書は年に 3~4 回行っている。雑誌に関しては、購入の継続、停止、保存期限等について年度当初の委員会に諮り決定する。

3) 図書等廃棄システム

図書等廃棄の規程はない。しかし、資料的価値の低いものや、図書館の収容能力が限界に近くなっていることにより、廃棄基準を作成して、平成 16 年度から廃棄を実施している。廃棄対象としては、a) 破損・汚損資料、b) 文献的・資料的価値の低下したもの、c) 複本資料(利用頻度が著しく低く、複本で所蔵している意味を有しないものに限る) 、d) 紛失・亡失資料 を基準にしている。廃棄の手順については、上記の基準に従って司書が該当資料のあらい出しを行ったのち、図書委員会で協議する。回数は年一回。図書委員会承認後廃棄を行うが、複本資料については、同一法人内の系列学部・学科へ移管することもある。

4) 司書数

専任職員 2 名、兼任 1 名。1 名は司書資格を有していない。兼任職員を含めた人数としては、全国短大平均の 2 名を上回っている。個人の能力差が現れないよう、業務のマニュアル化を図ること、職員同士の意思疎通を心がけること、外部研修会には可能な限り参加して司書としての資質向上を図ることなどを心がけて、業務に当たっている。

5) 情報化の進捗状況

図書館システムとしては、平成 18 年 7 月から 10 月にかけてバージョンアップを行った。新システムでは、ネットワーク上の OPAC からより検索しやすくなった。また、同一法人内の 3 大学・1 高校とのサーバ統合により、各館の所蔵状況も検索できる。

インターネットに関しては、無線 LAN を設置しているので、利用者持参のパソコンでの利用が可能となっている。ただ、閲覧用の専用端末を設置しておらず、利用者向けのネットワーク整備は著しく遅れている状態。学生は、学内のコンピュータルームを利用している状況である。図書館としては、CD-ROM 等の資料を所蔵していることもあり、閲覧可能な端末の設置が必要と考える。

(2) 図書館に備えられている蔵書数(和書、洋書、学術雑誌数、A V 資料数等) を作成して下さい。

図書館蔵書数一覧

(平成 19 年 5 月 1 日現在)

	和書	洋書	学術雑誌	A V 資料
冊(種)	87,918 冊	9,201 冊	1,417 タイトル	13,335 点

(3)図書館等には学生が利用できる授業に関連する参考図書、その他学生用の一般図書等は整備されているか。また学生の図書館等の利用は活発かを、図書館等の責任者(図書館長等)が現状をどのように捉えているかを記述して下さい。

1)学生が利用できる授業に関連する参考図書、その他学生用の一般図書等の整備
授業に関連する参考図書の整備、充実化については、平成18年度から次のような取り組みを行っている。各教員がシラバスに掲げた参考文献を一覧表にし、所蔵の有無を調べ、学生の閲覧に供するようにする。学生用の一般図書等の整備については、学生一人当たりの図書冊数約100冊から判断して平均的であると考える。

2)学生の図書館等の利用実態

入館者数・貸出者数・貸出冊数 (平成16年度～18年度)

	入館者数	開館日数	蔵書数		貸出冊数		貸出人数	
			図書	視聴覚	学生	教員	学生	教員
平成16年度	39,778	242	94,631	12,760	8,046	2,726	6,282	937
平成17年度	35,254	241	96,222	12,870	8,459	2,434	4,634	977
平成18年度	34,715	248	97,119	13,335	7,529	2,323	3,855	813

注) は学園内学生を含む

平成17年10月、「図書館利用調査」を実施した。在籍学生数995人中767人が回答(回答率77%)。以下、主たる結果を抽出してあげる。

- ・「利用したことがない」「ほとんどない」学生が、回答者の27%。「月一回程度」も合わせると73%にのぼる。
- ・図書館利用の目的については、課題や研究のための資料の収集がもっとも多かったが、次いで多かったのは、空き時間の利用であった(視聴覚資料の視聴が3番目)。
- ・資料の閲覧・貸出・コピー以外の利用については、複数回答であったのにもかかわらず、回答者数の10%であった。

3)図書館利用の実態に対する館長の現状認識

学生の活字離れ・図書館離れは全国的な傾向だが、上記の「図書館利用調査」を見ると本学もその例外ではない。ビジュアル系の雑誌を増やす、ラウンジに情報誌を置くなど、学生の利用度が増すよう、改善に向けてさまざまな工夫と努力を行っている。

4月に当該年度の努力目標を立て、年度末にその達成度を検証するということも、自己点検のひとつとして、毎年行っていることである。

(4)図書館等からの学内外への情報発信、他の図書館等との連携等、現在の図書館活動について、図書館長等がどのように受け止めているかを記述して下さい。

参加中の協議会・協会・協定等は、以下のとおりである。

まず県内関係としては、静岡県図書館協会、静岡県大学図書館協議会がある。これらは研修会への参加、相互貸借に関する協定、県内図書館の情報交換等を行っている。県外としては、国立国会図書館、音楽図書館協議会、私立短期大学図書館協議会、NACSIC-CAT/ILL(国立情報学研究所)に参加。その他、常葉学園内の大学・短大・専門学校・中高等学校の図書館関係教職員が、年一回会議をし、相互利用、情報交換の場を持っている。

図書館の活動については、ホームページの開設、リーフレットの作成配布、図書館報「之

山文庫だより」を年一回発行。こうした活動をとおして、内外への情報を発信している。

地域開放については、閲覧のみで貸出サービスは行っていない。図書業務がネットワーク化され、多量の情報処理が司書の業務となってきた。情報化社会でやむを得ないことであるが、学生利用に対するサービスの低下は、留意しなければならないと思っている。

<参考資料 - 4> 「図書館等の規程」（「常葉学園規程集」）参照

【特記事項について】

(1) この《教育の実施体制》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば外国人教員の採用、授業の公開、学習評価活動等、努力していることがあれば記述して下さい。

1) ライフデザインセンター（LC）

LCは平成16年4月に開設し、学生が自ら考え、判断し、行動できるライフデザイン力を身につけ、社会人としてのスタートラインに立てるように支援していくことを基本理念とする。また、このことが短大教育の根幹を成すものであるという認識のもとにさまざまなプログラムを提案・実行して、教職員が一体となった支援体制を構築している。

2) こども総合研究センター（CC）

こども総合教育センターは、短大の付属機関として出発するべくライフデザインセンターとともに立ち上げた機関である。本学は幼稚園教諭、保育士を養成する機関としてさまざまなノウハウを積み重ねてきたが、それを社会に還元する意図のもとに本センターが設立された。本センターは「研究実践セクション」「リカレントセクション」「コミュニティセクション」からなり、現在は短大独自の子育て支援である「子育て広場」を学内で年間をとおして実施している。学生も一緒に参加し、子育てにかかるさまざまな課題を取り上げている。それをリーフレットで広報し、また研究部門にフィードバックしている。リカレントセクションでは、市内保育所の保育内容等をアドバイスしている。今年度には独立採算による運営に向けた検討をスタートさせたいと考えている。

3) ビオトープ

平成9年に造成されたビオトープは面積550m²に約200種以上の動植物が確認されており、環境教育を展開する上で貴重なフィールドとなっている。このため、保育科や教養教育の授業の中で有効に活用されている。短大敷地内のほぼ中央に位置していることから、学生・教職員の憩いの場にもなっている。平成12年2月、第一回全国学校ビオトープコンクールで優秀賞を受け、これまで県外からも多数の見学者が訪れている。

《教育目標の達成度と教育の効果》の記述及び資料等について

【単位認定について】

(1) 「単位認定の状況表」を例に、単位認定の方法と評価の実態を記載して下さい。なお、この表は平成18年度卒業生が入学時より卒業までに履修した科目について作成して下さい。

日本語日本文学科 単位認定状況表

(平成 18 年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 %			最終評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	認定
教養教育科目	総合セミナー	講義	79	レポート	99	0	99	0	0	0	1	99
	哲学と人生	講義	49	定期試験	96	0	96	59	24	12	4	0
	文学と人間	講義	27	レポート	89	7	96	33	30	33	4	0
	行動と心理	講義	44	レポート	77	11	89	41	32	16	11	0
	現代社会と教育	講義	17	定期試験	94	0	94	35	53	6	6	0
	芸術と人間	講義	22	定期試験	73	5	77	23	32	23	23	0
	歴史と人間	講義	32	レポート	84	9	94	25	47	22	6	0
	社会環境と人間	講義	37	定期試験	89	0	89	78	11	0	8	0
	社会参加と活動	講義	7	レポート、活動先の認定	86	0	86	86	0	0	14	0
	職業と人生	講義	48	レポート	98	0	98	56	35	6	2	0
	現代社会と経済	講義	22	定期試験	100	0	100	68	27	5	0	0
	日本の憲法	講義	21	小論文	100	0	100	76	10	14	0	0
	数学の世界	講義	29	演習問題	97	0	97	52	34	10	3	0
	科学と文明	講義	8	レポート	100	0	100	50	38	13	0	0
	地球と環境	講義	40	定期試験、小レポート	98	0	98	65	28	5	3	0
	情報リテラシー	講義	43	定期試験	98	0	98	91	7	0	2	0
	情報とコンピュータ	演習	69	定期試験、レポート	100	0	100	97	3	0	0	0
	情報とコンピュータ	演習	54	定期試験、レポート	98	0	98	93	2	4	2	0
	運動と健康	講義	29	レポート	86	7	93	41	34	17	7	0
	スポーツA	実技	29	学習態度	100	0	100	59	38	3	0	0
	スポーツB	実技	16	学習態度	94	0	94	75	19	0	6	0
	英語圏の文化と言葉A	演習	6	定期試験	100	0	100	100	0	0	0	0
	英語圏の文化と言葉B	演習	14	定期試験	100	0	100	57	43	0	0	0
	フランスの文化と言葉	演習	3	定期試験、レポート	100	0	100	100	0	0	0	0
	フランスの文化と言葉	演習	3	定期試験、小レポート	100	0	100	100	0	0	0	0
	ドイツの文化と言葉	演習	2	定期試験、発表	100	0	100	50	50	0	0	0
	ドイツの文化と言葉	演習	0	定期試験、レポート	-	-	-	-	-	-	-	-
	イタリアの文化と言葉	演習	2	定期試験	100	0	100	50	0	50	0	0
	イタリアの文化と言葉	演習	-		-	-	-	-	-	-	-	-
	中国の文化と言葉	演習	17	定期試験、課題	100	0	100	65	35	0	0	0
	ブラジルの文化と言葉	演習	-		-	-	-	-	-	-	-	-
専門教育科目	卒業研究	講義	79	論文	96	1	97	51	33	14	3	0
	日本語表現法	講義	81	定期試験、レポート	100	0	100	83	14	4	0	0
	日本文学概説	講義	81	定期試験	91	9	100	46	30	25	0	0
	日本文学基礎演習	演習	79	定期試験	97	0	97	54	32	11	1	0
	歌謡と詩歌	講義	22	レポート	82	5	86	41	27	18	14	0
	作家と時代	講義	36	定期試験	92	3	94	28	39	28	6	0
	日本文学と世界	講義	37	定期試験	59	14	73	35	14	24	27	0
	日本文学演習	演習	21	定期試験	100	0	100	100	0	0	0	0
	漢文学	講義	20	定期試験	70	15	85	40	5	40	15	0
	書道	演習	22	定期試験、レポート	91	9	100	27	55	18	0	0
	日本語概説	講義	64	定期試験、小レポート	97	2	98	47	44	8	2	0
	日本文学史	講義	45	定期試験	91	9	100	78	9	13	0	0
	シナリオと戯曲	講義	59	レポート	98	2	100	86	10	3	0	0
	創作の心理	講義	56	レポート、授業時の活動	98	2	100	39	46	14	0	0
	文芸創作演習	演習	11	レポート、短歌作品	82	0	82	64	18	0	18	0
	文章と文体	講義	44	定期試験	95	0	95	30	36	30	5	0
	インターネットとホームページ	講義	39	定期試験	85	15	100	62	36	3	0	0
	メディア制作	講義	49	課題作成	90	0	90	88	0	2	10	0
	映像と文化	講義	69	レポート	96	1	97	96	1	0	3	0
	絵本を作る	講義	50	レポート	86	0	86	40	24	22	14	0
	絵本の世界	講義	50	レポート	98	0	98	68	28	2	2	0
	言葉の発達	講義	32	定期試験	97	3	100	25	56	19	0	0
	言葉遊び	講義	67	レポート、課題	91	0	91	69	13	9	9	0
	読み聞かせ	講義	38	レポート	97	0	97	50	24	24	0	0
	言葉のきまり	講義	63	定期試験、小試験	100	0	100	38	60	2	0	0
	子供と文字	講義	14	レポート	93	0	93	86	7	0	0	0
	子供の心理	講義	45	意見文の提出、小レポート	93	7	100	96	2	2	0	0
	児童文学	講義	65	レポート	100	0	100	45	34	22	0	0
	アナウンス入門	講義	56	レポート	100	0	100	48	43	9	0	0
	ルポルタージュ入門	講義	26	ルポルタージュの文	88	0	88	65	8	15	12	0

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 %			最終評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	認定
専門教育科目	言葉と生活	講義	77	レポート	92	0	92	52	39	1	8	0
	話す技術	講義	58	レポート	98	2	100	79	19	2	0	0
	インターンシップ	演習	19	レポート	100	0	100	100	0	0	0	0
	インターンシップ	演習	12	レポート、研修先の評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	手話・点字	講義	55	レポート	95	0	95	84	7	4	5	0
	比較文化	講義	43	定期試験	91	2	93	56	37	0	7	0
	報道と言葉	講義	66	レポート	95	5	100	71	23	6	0	0
	プレゼンテーション論	講義	35	レポート	83	14	97	49	34	14	3	0
	プレゼンテーション演習	演習	33	定期試験	94	3	97	48	39	9	3	0
	プレゼンテーション演習	演習	20	定期試験、発表	90	0	90	75	10	5	10	0
	情報機器利用によるプレゼンテーション演習	演習	23	定期試験、発表	74	13	87	57	30	0	13	0
	コミュニケーション論	講義	34	定期試験	91	3	94	59	29	6	6	0
	データベース演習	演習	39	定期試験	95	3	97	31	51	15	3	0
	ビジネス文書実務	講義	54	定期試験	87	0	87	39	44	4	13	0
	情報概論	講義	51	定期試験	90	2	92	47	33	12	4	0
	国語科教育法	講義	6	受講態度	100	0	100	100	0	0	0	0
	異文化コミュニケーション	講義	29	定期試験	62	7	69	55	7	7	31	0
	映画の言葉	講義	20	定期試験	100	0	100	65	30	5	0	0
	旅行の言葉	演習	0	定期試験	-	-	-	-	-	-	-	-
	料理の言葉	演習	14	レポート	43	0	43	14	14	14	57	0
	総合基礎講座	講義	11	出席状況	100	0	100	0	0	0	0	100
	きものと文化	講義	18	平常点	100	0	100	17	56	28	0	0
	ワークショップA	演習	79	レポート	37	0	37	0	0	0	63	37
	ワークショップB	演習	79	レポート	9	0	9	0	0	0	91	9
	芸能と文化	講義	57	レポート	82	4	86	40	33	12	14	0
	書を楽しむ	講義	9	定期試験、作品	33	22	56	11	22	22	44	0
	言語学特講	講義	58	レポート	98	0	98	84	3	10	2	0
	日本語教育	講義	8	レポート、提出物	100	0	100	38	63	0	0	0
	日本語教育	講義	5	授業参加態度、提出物	100	0	100	40	60	0	0	0
	日本語教育演習	演習	5	レポート、提出物	100	0	100	40	40	20	0	0
	日本語会話	講義	0	定期試験、授業時の活動	-	-	-	-	-	-	-	-
	日本語基礎演習A	演習	0	定期試験	-	-	-	-	-	-	-	-
	日本語基礎演習B	演習	0	定期試験、レポート	-	-	-	-	-	-	-	-
	日本語能力	講義	1	定期試験、レポート	100	0	100	100	0	0	0	0
	日本文化	講義	0	レポート	-	-	-	-	-	-	-	-

履修人数には、他学科生及び専攻科学生を含む

英語英文科 単位認定状況表 (平成 18 年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 %			最終評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	認定
教養教育科目	総合セミナー	講義	88	レポート	99	0	99	0	0	0	1	99
	哲学と人生	講義	46	定期試験	85	2	87	33	20	35	13	0
	文学と人間	講義	3	レポート	100	0	100	67	33	0	0	0
	行動と心理	講義	31	レポート	87	3	90	26	52	13	10	0
	現代社会と教育	講義	24	定期試験	88	0	88	21	54	13	13	0
	芸術と人間	講義	19	定期試験	84	0	84	21	58	5	16	0
	歴史と人間	講義	11	レポート	91	0	91	9	73	9	9	0
	社会環境と人間	講義	20	定期試験	75	0	75	50	25	0	25	0
	社会参加と活動	講義	4	レポート、活動先の認定	75	0	75	75	0	0	25	0
	職業と人生	講義	66	レポート	98	0	98	39	50	9	0	0
	現代社会と経済	講義	9	定期試験	89	0	89	56	33	0	11	0
	日本の憲法	講義	38	小論文	100	0	100	45	34	21	0	0
	数学の世界	講義	16	演習問題	100	0	100	38	44	19	0	0
	科学と文明	講義	5	レポート	80	0	80	60	20	0	0	0
	地球と環境	講義	11	定期試験、小レポート	100	0	100	55	36	9	0	0
	情報リテラシー	講義	33	定期試験	97	0	97	79	12	6	0	0
	情報とコンピュータ	演習	72	定期試験、レポート	100	0	100	86	14	0	0	0
	情報とコンピュータ	演習	70	定期試験、レポート	99	1	100	80	17	3	0	0
	運動と健康	講義	42	レポート	95	2	98	24	60	14	2	0
	スポーツA	実技	65	学習態度	100	0	100	63	35	2	0	0
	スポーツB	実技	45	学習態度	87	0	87	33	53	0	13	0

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 %			最終評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	認定
教養教育科目	英語圏の文化と言葉A	演習	83	定期試験	100	0	100	58	36	6	0	0
	英語圏の文化と言葉B	演習	22	定期試験	95	0	95	36	41	18	0	0
	フランスの文化と言葉	演習	3	定期試験、レポート	100	0	100	33	67	0	0	0
	フランスの文化と言葉	演習	2	定期試験、小レポート	100	0	100	0	0	100	0	0
	ドイツの文化と言葉	演習	9	定期試験、発表	100	0	100	44	56	0	0	0
	ドイツの文化と言葉	演習	0	定期試験、レポート	-	-	-	-	-	-	-	-
	イタリアの文化と言葉	演習	0	定期試験	-	-	-	-	-	-	-	-
	イタリアの文化と言葉	演習	-		-	-	-	-	-	-	-	-
	中国の文化と言葉	演習	-		-	-	-	-	-	-	-	-
	ブラジルの文化と言葉	演習	0	定期試験、レポート	-	-	-	-	-	-	-	-
専門教育科目	アクティブ・コミュニケーションA	講義	90	定期試験、小テスト	99	0	99	42	43	13	1	0
	アクティブ・コミュニケーションB	講義	89	課題、授業中の活動	99	0	99	57	29	12	1	0
	カレッジ英語A	演習	90	定期試験、小テスト	100	0	100	72	27	1	0	0
	カレッジ英語B	演習	90	定期試験、小テスト	99	0	99	83	16	0	1	0
	コミュニケーション・スキル	講義	89	小レポート、課題レポート	100	0	100	91	8	1	0	0
	接遇マナー	講義	90	定期試験、課題	99	0	99	74	24	0	1	0
	研究セミナー	演習	73	レポート、授業時の活動	96	0	96	70	23	3	4	0
	早期英語教育	講義	32	見学姿勢	100	0	100	84	16	0	0	0
	幼児英語指導法A	講義	0	定期試験、発表	-	-	-	-	-	-	-	-
	幼児英語指導法B	講義	19	取組み姿勢	95	0	95	63	32	0	5	0
	幼児英語教材研究	講義	0	取組み姿勢	-	-	-	-	-	-	-	-
	キッズ・コミュニケーション	講義	25	授業時の活動、提出物	96	0	96	52	36	8	4	0
	英語音声とリズム	講義	34	定期試験、授業参加状況	97	3	100	50	44	6	0	0
	童話とナレーション	講義	25	発表、授業参加状況	100	0	100	68	32	0	0	0
	ピアノと歌	演習	31	実技試験	100	0	100	23	77	0	0	0
	英語あそび	講義	33	小テスト、実技試験	100	0	100	67	33	0	0	0
	音楽あそび	演習	12	レポート、実技	92	0	92	92	0	0	8	0
	絵あそび	演習	8	レポート、作品	100	0	100	88	13	0	0	0
	体育あそび	演習	9	定期試験、レポート	100	0	100	56	44	0	0	0
	生活あそび	講義	-		-	-	-	-	-	-	-	-
	早期英語教育事情	講義	31	見学姿勢	100	0	100	90	6	3	0	0
	早期英語教育実践	演習	6	実習先の評価、報告書	0	0	0	0	0	0	100	0
	観光英語	講義	51	定期試験、受講状況	100	0	100	51	45	4	0	0
	観光英語	講義	47	定期試験、受講状況	100	0	100	57	34	9	0	0
	接遇サービス	講義	46	定期試験、課題	93	7	100	80	11	9	0	0
	旅行産業研究	講義	37	レポート	97	0	97	38	59	0	3	0
	旅行実務概説	講義	20	定期試験、レポート	80	5	85	60	25	0	15	0
	観光学総論	講義	21	レポート	76	0	76	57	19	0	24	0
	ホテル実務研究	講義	34	定期試験、課題	100	0	100	59	41	0	0	0
	ビジネス・イングリッシュ	演習	16	定期試験、授業参加状況	100	0	100	50	44	6	0	0
	ビジネス・イングリッシュ	演習	21	定期試験	86	0	86	29	38	19	14	0
	キャリア・イングリッシュ	演習	35	定期試験、授業参加状況	80	0	80	31	17	0	20	31
	キャリア・イングリッシュ	演習	34	定期試験、授業参加状況	88	0	88	44	35	9	12	0
	空港サービス研修	講義	35	レポート、研修中の活動	100	0	100	0	0	0	0	100
	ホテル・ビジネス事情	演習	31	報告レポート、研修中の活動	100	0	100	0	0	0	0	100
	企業インターンシップ	演習	8	研修先の評価、報告書	100	0	100	100	0	0	0	0
	ホテル・インターンシップ	演習	11	研修先の評価、報告書	100	0	100	100	0	0	0	0
	オーラルA	講義	28	定期試験、宿題	100	0	100	61	39	0	0	0
	オーラルB	講義	76	定期試験、授業参加状況	95	0	95	18	45	17	5	14
	オーラルC	講義	14	留学終了届、添付書類	79	0	79	0	0	0	21	79
	オーラルD	講義	74	定期試験、授業参加状況	85	0	85	41	31	14	15	0
	ライティングA	講義	70	定期試験、授業参加状況	89	0	89	27	37	9	11	16
	ライティングB	講義	14	留学終了届、添付書類	79	0	79	0	0	0	21	79
	ライティングC	講義	67	定期試験、授業参加状況	85	0	85	28	36	21	15	0
	発音クリニック	演習	34	定期試験、授業参加状況	100	0	100	29	47	24	0	0
	E・スタディ	講義	34	レポート、小テスト	82	15	97	38	35	24	3	0
	留学英語	講義	27	定期試験、授業参加状況	96	0	96	48	37	11	4	0
	ボランティア通訳入門	講義	24	定期試験、小テスト	79	0	79	42	38	0	21	0
	トーキング・タイムA	演習	56	定期試験、授業参加状況	100	0	100	27	50	23	0	0
	トーキング・タイムB	演習	16	定期試験、授業参加状況	56	0	56	56	0	0	44	0
	トーキング・タイムC	演習	8	定期試験、授業参加状況	75	0	75	75	0	0	25	0
	Eメール・ダイアリーA	演習	74	レポート、Eメール	99	1	100	45	31	24	0	0
	Eメール・ダイアリーB	演習	82	レポート、Eメール	71	0	71	12	24	34	29	0

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 %			最終評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	認定
専門教育科目	イングリッシュ・ドット・コム	演習	10	提出物、Eメール	50	0	50	30	0	20	50	0
	トラベル・イングリッシュ	演習	41	定期試験、授業参加状況	78	22	100	95	5	0	0	0
	スクリーン・イングリッシュ	講義	73	定期試験、授業参加状況	100	0	100	51	36	14	0	0
	クッキング・イングリッシュ	演習	26	レポート（レシピ作成）	77	0	77	50	27	0	23	0
	キッズ・イングリッシュ	演習	28	発表、授業参加状況	96	0	96	82	14	0	4	0
	英語圏事情	講義	42	レポート	100	0	100	95	5	0	0	0
	海外語学実習	演習	41	レポート、実習参加状況	100	0	100	0	0	0	0	100
	海外長期研修	演習	11	留学終了届、添付書類	100	0	100	0	0	0	0	100
	検定英語A	演習	25	定期試験、課題	100	0	100	40	48	12	0	0
	検定英語B	演習	50	模擬試験結果	98	0	98	22	54	22	2	0
	検定英語C	演習	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	TOEIC・イングリッシュA	演習	89	模擬試験結果	100	0	100	43	38	19	0	0
	TOEIC・イングリッシュB	演習	28	提出物	100	0	100	86	11	4	0	0
	TOEFL・イングリッシュ	演習	11	定期試験、小テスト	91	0	91	18	36	36	9	0
	異文化コミュニケーション	講義	70	定期試験、レポート	99	0	99	57	31	10	1	0
	英語科教育法	講義	3	レポート、授業時の活動	67	0	67	67	0	0	33	0
	日本語教育	講義	0	定期試験、課題	-	-	-	-	-	-	-	-
	日本語教育実践	講義	0	定期試験、課題	-	-	-	-	-	-	-	-
	アナウンス入門	講義	13	レポート	92	0	92	23	54	15	8	0
	ことばの科学	講義	15	定期試験	80	0	80	40	7	33	20	0
	幼児と言語修得	講義	0	定期試験、レポート	-	-	-	-	-	-	-	-
	英米文学の世界	講義	36	レポート	75	8	83	36	36	11	17	0
	比較文化	講義	48	定期試験、レポート	79	0	79	27	35	17	21	0
	卒業研究	講義	55	論文内容	58	2	60	49	9	2	40	0
	日本語表現法	講義	10	レポート	90	0	90	70	20	0	10	0
	プレゼンテーション論	講義	21	レポート	71	14	86	14	33	38	14	0
	コンピュータ・スキル	講義	39	定期試験、授業への取組み	97	3	100	72	28	0	0	0
	コンピュータ・スキル	講義	37	定期試験、授業への取組み	70	27	97	11	43	43	3	0
	コミュニケーション論	講義	14	定期試験	79	7	86	29	50	7	14	0
	ビジネス文書実務	講義	36	定期試験、課題	94	0	94	47	47	0	6	0
	英語資格A	演習	79	英検2級以上他	19	0	19	0	0	0	81	19
	英語資格B	演習	82	英検準1級以上他	0	0	0	0	0	0	100	0
	実務英語資格	演習	69	観光英検2級他	0	0	0	0	0	0	100	0
	一般実務資格	演習	70	秘書検定2級以上他	26	0	26	0	0	0	74	26
	総合基礎講座	講義	6	出席状況	100	0	100	0	0	0	0	100

履修人数には、他学科生及び専攻科学生を含む

保育科 単位認定状況表 (平成18年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 %			最終評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	認定
教養教育科目	総合セミナー	講義	239	レポート	100	0	100	0	0	0	0	100
	哲学と人生	講義	5	定期試験	100	0	100	0	80	0	0	20
	文学と人間	講義	14	レポート	100	0	100	43	14	36	0	7
	行動と心理	講義	91	レポート	99	1	100	63	29	4	0	4
	現代社会と教育	講義	8	定期試験	100	0	100	63	38	0	0	0
	芸術と人間	講義	8	定期試験	100	0	100	50	38	0	0	13
	歴史と人間	講義	9	レポート	100	0	100	33	67	0	0	0
	社会環境と人間	講義	1	定期試験	100	0	100	100	0	0	0	0
	社会参加と活動	講義	11	レポート、活動先の認定	91	0	91	64	18	0	9	9
	職業と人生	講義	0	レポート	-	-	-	-	-	-	-	-
	現代社会と経済	講義	3	定期試験	100	0	100	33	0	0	0	67
	日本の憲法	講義	240	小論文	94	6	100	41	32	25	0	2
	数学の世界	講義	91	演習問題	100	0	100	59	40	1	0	0
	科学と文明	講義	71	レポート	99	0	99	28	65	4	0	1
	地球と環境	講義	5	定期試験、小レポート	100	0	100	60	0	0	0	40
	情報リテラシー	講義	55	定期試験	98	2	100	91	4	0	0	5
	情報とコンピュータ	演習	242	定期試験、レポート	100	0	100	71	26	2	0	1
	情報とコンピュータ	演習	241	定期試験、レポート	100	0	100	83	16	0	0	0
	運動と健康	講義	238	レポート	99	1	100	38	42	20	0	1
	スポーツA	実技	242	学習態度	100	0	100	96	2	0	0	1

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 %			最終評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	認定
教養教育科目	スポーツB	実技	110	学習態度	99	0	99	75	16	5	1	3
	英語圏の文化と言葉A	演習	189	定期試験	98	2	99	73	20	5	1	2
	英語圏の文化と言葉B	演習	8	定期試験	100	0	100	75	0	0	0	25
	フランスの文化と言葉	演習	1	定期試験、レポート	100	0	100	0	0	0	0	100
	フランスの文化と言葉	演習	-		0	0	100	0	0	0	0	100
	ドイツの文化と言葉	演習	28	定期試験、発表	100	0	100	50	50	0	0	0
	ドイツの文化と言葉	演習	0	定期試験、レポート	-	-	-	-	-	-	-	-
	イタリアの文化と言葉	演習	0	定期試験	-	-	-	-	-	-	-	-
	イタリアの文化と言葉	演習	-		-	-	-	-	-	-	-	-
	中国の文化と言葉	演習	-		-	-	-	-	-	-	-	-
専門教育科目	ブラジルの文化と言葉	演習	25	定期試験、レポート	96	4	100	32	40	28	0	0
	保育原理	講義	240	定期試験	99	0	100	37	55	7	0	0
	保育と実践	講義	215	定期試験、小レポート	98	0	99	63	35	0	1	0
	養護原理	講義	242	定期試験	94	6	100	71	20	9	0	0
	発達心理学	講義	277	レポート	99	1	100	95	4	0	0	1
	小児保健	講義	240	定期試験、レポート	97	3	100	96	3	0	0	0
	精神保健	講義	241	小テスト	100	0	100	2	27	71	0	0
	小児栄養	演習	238	定期試験、提出物	100	0	100	35	39	26	0	0
	音楽	演習	272	定期試験、歌唱試験	100	0	100	54	44	1	0	0
	音楽と子ども	演習	139	レポート、実技	100	0	100	78	19	3	0	0
	ピアノ技法	演習	240	実技試験	99	1	100	45	53	2	0	0
	器楽	演習	231	実技試験	100	0	100	55	43	2	0	0
	图画工作	演習	273	レポート、作品	99	0	100	61	29	9	0	0
	子どもの造形	演習	14	レポート、作品	100	0	100	100	0	0	0	0
	体育	演習	240	実技試験、レポート	100	0	100	59	40	0	0	0
	子どもの運動あそび	演習	153	実技試験、レポート	100	0	100	62	35	3	0	0
	国語	講義	18	レポート、発表	100	0	100	83	11	6	0	0
	生活	講義	27	レポート、授業案	100	0	100	22	78	0	0	0
	児童文化演習	演習	123	レポート、実技の習熟度	100	0	100	47	50	2	0	0
	社会福祉	講義	242	レポート	98	1	100	71	27	1	0	1
	社会福祉援助技術	演習	237	定期試験、レポート	100	0	100	92	7	0	0	0
	児童福祉	講義	240	定期試験、レポート	93	7	100	25	53	21	0	1
	福祉政策と子ども	演習	70	レポート、発表	100	0	100	90	10	0	0	0
	遊びと子どもの発達	演習	40	レポート	100	0	100	98	3	0	0	0
	年齢と子どもの発達	演習	70	リポート	100	0	100	61	36	3	0	0
	カウンセリング	演習	265	レポート	100	0	100	92	6	1	0	0
	小児保健実習	実習	238	定期試験	99	1	100	3	31	66	0	0
	子どもの家庭と暮らし	講義	53	レポート	100	0	100	55	45	0	0	0
	家族援助論	講義	238	定期試験、小レポート	100	0	100	87	13	0	0	0
	養護内容	演習	240	定期試験	100	0	100	88	12	0	0	0
	障害児保育	演習	240	レポート	99	0	100	88	11	0	0	0
	乳児保育	演習	241	発表	100	0	100	20	60	20	0	0
	保育実習	実習	239	レポート、実習報告書	99	0	100	57	41	1	0	0
	保育実習	実習	192	レポート、実習報告書	100	0	100	68	32	1	0	0
	保育実習	実習	46	レポート、実習報告書	100	0	100	63	35	2	0	0
	保育総合演習	演習	271	レポート、発表	99	0	100	96	4	0	0	0
	現代教職概論	講義	262	レポート	99	0	99	37	56	6	1	0
	教育原理	講義	268	定期試験、レポート	95	4	99	81	13	4	1	0
	教育心理学	講義	240	定期試験	98	1	100	31	51	18	0	0
	保育課程総論	講義	268	レポート	100	0	100	60	37	3	0	0
	教育実習	実習	262	レポート、実習先の評価	98	0	98	61	34	3	2	0
	道徳教育	講義	-		-	-	-	-	-	-	-	-
	保育内容研究（健康）	演習	264	定期試験、レポート	98	2	100	61	28	11	0	0
	保育内容研究（人間関係）	演習	267	定期試験	99	0	100	79	19	1	0	0
	保育内容研究（環境）	演習	264	レポート、授業参加状況	100	0	100	96	4	0	0	0
	保育内容研究（ことば）	演習	268	定期試験	96	3	100	46	40	13	0	0
	保育内容研究（表現）	演習	271	実技試験	100	0	100	42	54	3	0	0
	保育内容研究（表現）	演習	264	レポート	100	0	100	57	41	2	0	0
	保育方法論	講義	268	レポート	100	0	100	54	44	1	0	0
	保育ゼミナール	講義	79	レポート	100	0	100	100	0	0	0	0
	子ども総合科学概論	講義	242	小レポート	92	8	100	83	7	10	0	0
	健康科学論	講義	27	定期試験、レポート	100	0	100	100	0	0	0	0
	子育て支援の理解と実際	講義	30	定期試験、レポート	100	0	100	33	63	3	0	0

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 %			最終評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	認定
専門教育科目	保育者のための調査法	講義	0	定期試験、レポート	-	-	-	-	-	-	-	-
	倉橋惣三論	演習	0	定期試験、レポート	-	-	-	-	-	-	-	-
	こころの基礎実験	実験	0	レポート	-	-	-	-	-	-	-	-
	パーソナリティ検査法	演習	-		-	-	-	-	-	-	-	-
	モンテッソーリ教育概論	講義	14	レポート	100	0	100	93	7	0	0	0
	モンテッソーリ・メソード	演習	14	実技試験	100	0	100	93	7	0	0	0
	モンテッソーリ・メソード	演習	13	実技試験	100	0	100	100	0	0	0	0
	レクリエーション論	講義	61	定期試験、レポート	98	2	100	87	11	2	0	0
	レクリエーション援助法	演習	62	レポート、レク実技	100	0	100	90	10	0	0	0
	子どものフィールドワーク	演習	44	実技試験、レポート	0	0	100	93	7	0	0	0
	地域福祉論	講義	45	レポート	98	2	100	62	33	2	0	2
	児童館の機能と運営	講義	36	レポート	100	0	100	42	58	0	0	0

履修人数には、他学科生及び専攻科学生を含む

音楽科 単位認定状況表

(平成 18 年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 %			最終評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	認定
教養教育科目	総合セミナー	講義	42	レポート	100	0	100	0	0	0	0	100
	哲学と人生	講義	6	定期試験	83	0	83	17	50	0	17	17
	文学と人間	講義	2	レポート	100	0	100	50	0	0	0	50
	行動と心理	講義	8	レポート	100	0	100	75	13	13	0	0
	現代社会と教育	講義	9	定期試験	100	0	100	11	56	22	0	11
	芸術と人間	講義	8	定期試験	88	0	88	88	0	0	13	0
	歴史と人間	講義	9	レポート	78	22	100	22	56	22	0	0
	社会環境と人間	講義	9	定期試験	100	0	100	100	0	0	0	0
	社会参加と活動	講義	13	レポート、活動先の認定	100	0	100	92	8	0	0	0
	職業と人生	講義	10	レポート	100	0	100	30	70	0	0	0
	現代社会と経済	講義	0	定期試験	-	-	-	-	-	-	-	-
	日本の憲法	講義	15	小論文	100	0	100	53	40	7	0	0
	数学の世界	講義	3	演習問題	100	0	100	33	33	0	0	33
	科学と文明	講義	1	レポート	100	0	100	0	100	0	0	0
	地球と環境	講義	8	定期試験、小レポート	100	0	100	100	0	0	0	0
	情報リテラシー	講義	8	定期試験	88	0	88	63	25	0	0	0
	情報とコンピュータ	演習	31	定期試験、レポート	97	0	97	61	35	0	0	0
	情報とコンピュータ	演習	26	定期試験、レポート	100	0	100	38	62	0	0	0
	運動と健康	講義	13	レポート	100	0	100	15	62	15	0	8
	スポーツA	実技	19	学習態度	100	0	100	95	0	0	0	5
	スポーツB	実技	26	学習態度	92	0	92	15	73	0	8	4
	英語圏の文化と言葉A	演習	24	定期試験	100	0	100	83	13	0	0	4
	英語圏の文化と言葉B	演習	8	定期試験	88	0	88	75	0	0	13	13
	フランスの文化と言葉	演習	0	定期試験、レポート	-	-	-	-	-	-	-	-
	フランスの文化と言葉	演習	0	定期試験、小レポート	-	-	-	-	-	-	-	-
	ドイツの文化と言葉	演習	4	定期試験、発表	100	0	100	100	0	0	0	0
	ドイツの文化と言葉	演習	2	定期試験、レポート	100	0	100	0	100	0	0	0
	イタリアの文化と言葉	演習	27	定期試験	100	0	100	70	19	11	0	0
	イタリアの文化と言葉	演習	18	定期試験	100	0	100	39	56	6	0	0
	中国の文化と言葉	演習	-		-	-	-	-	-	-	-	-
	ブラジルの文化と言葉	演習	-		-	-	-	-	-	-	-	-
専門教育科目	音楽理論A	講義	43	定期試験、小テスト	100	0	100	40	51	7	0	2
	音楽理論B	講義	42	定期試験、小テスト	98	2	100	50	45	2	0	2
	和声学A	講義	43	定期試験、実技試験	95	5	100	53	33	12	0	2
	和声学B	講義	42	定期試験、実技試験	100	0	100	57	38	2	0	2
	和声学C	講義	17	定期試験、和音付け	100	0	100	53	24	24	0	0
	和声学D	講義	16	定期試験、和音付け	88	6	94	75	13	6	6	0
	音楽史A	講義	43	定期試験	100	0	100	23	37	37	0	2
	音楽史B	講義	42	定期試験	95	5	100	48	36	14	0	2
	音楽史C(ポピュラー史含む)	講義	17	レポート	100	0	100	65	35	0	0	0
	民族・日本音楽概説	講義	24	レポート、課題	100	0	100	58	42	0	0	0
	合唱A	演習	37	勉学姿勢、授業態度	100	0	100	32	54	14	0	0
	合唱B	演習	9	勉学姿勢、授業態度	100	0	100	56	0	44	0	0
	ソルフェ - ジュA	演習	43	定期試験、授業への取組み	100	0	100	9	81	9	0	0

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 %			最終評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	認定
専門教育科目	ソルフェ - ジュB	演習	42	定期試験、授業への取組み	95	5	100	21	74	5	0	0
	ソルフェ - ジュC	演習	28	定期試験	100	0	100	43	57	0	0	0
	ソルフェ - ジュD	演習	27	定期試験	93	0	93	41	52	0	7	0
	グレード準備講座A	演習	10	定期試験	100	0	100	30	50	20	0	0
	グレード準備講座B	演習	10	定期試験	100	0	100	30	30	40	0	0
	グレード準備講座C	演習	11	定期試験	100	0	100	64	27	9	0	0
	グレード準備講座D	演習	11	定期試験	73	0	73	45	27	0	27	0
	論文作成法	講義	35	論文、課題	100	0	100	40	54	6	0	0
	作品演奏研究論文A	演習	36	論文、課題	100	0	100	25	67	8	0	0
	作品演奏研究論文B	演習	36	論文、課題	100	0	100	31	67	3	0	0
	アンサンブル演習A	演習	42	実技試験	100	0	100	55	45	0	0	0
	アンサンブル演習B	演習	42	実技試験	100	0	100	64	36	0	0	0
	音楽実践A	演習	42	実技試験	100	0	100	79	19	2	0	0
	音楽実践B	演習	42	実技試験	98	2	100	57	36	7	0	0
	演奏会演習A	演習	11	定期試験、運営への取組み	100	0	100	64	36	0	0	0
	演奏会演習B	演習	10	定期試験、運営への取組み	70	0	70	70	0	0	30	0
	早期音楽教育法	講義	15	授業の取組み	87	0	87	33	53	0	13	0
	リトミック	演習	22	実技試験	95	0	95	95	0	0	5	0
	音楽科教育法	講義	11	模擬授業、採用模擬試験	100	0	100	27	55	18	0	0
	指揮法A	演習	28	実技	100	0	100	46	32	21	0	0
	指揮法B	演習	7	実技	100	0	100	43	43	14	0	0
	作曲・編曲法A	演習	37	課題提出	100	0	100	57	41	0	0	3
	作曲・編曲法B	演習	19	課題提出	100	0	100	42	53	0	0	5
	伴奏法A(弾き語り含む)	演習	29	実技試験	97	0	97	10	83	3	3	0
	伴奏法B(即興演奏法含む)	演習	26	実技試験	96	0	96	23	54	19	4	0
	器楽合奏	演習	29	実技試験	100	0	100	83	17	0	0	0
	音楽心理学	講義	6	レポート	100	0	100	0	67	33	0	0
	音楽療法概論	講義	8	レポート	100	0	100	25	63	13	0	0
	音楽療法各論(基礎)	講義	8	レポート、発表	100	0	100	0	100	0	0	0
	音楽療法各論(技法)	演習	8	レポート、実技	100	0	100	0	88	13	0	0
	音楽療法各論(臨床)	演習	6	定期試験、実技	100	0	100	0	100	0	0	0
	音楽療法総合演習	演習	6	レポート、授業での実践	100	0	100	0	100	0	0	0
	教育方法論	講義	10	レポート	100	0	100	60	40	0	0	0
	教育相談	講義	24	定期試験	100	0	100	29	29	42	0	0
	教育学概論	講義	30	レポート	100	0	100	93	3	3	0	0
	社会福祉(児童福祉含む)	講義	8	レポート	100	0	100	100	0	0	0	0
	保育課程総論	講義	2	レポート	100	0	100	100	0	0	0	0
	保育原理	講義	2	定期試験、レポート	100	0	100	0	100	0	0	0
	レクリエーション援助法	演習	8	レポート、レク実技	100	0	100	100	0	0	0	0
	ホームヘルプサービス論	講義	8	定期試験、レポート	100	0	100	0	100	0	0	0
	介護概論	講義	8	定期試験	100	0	100	100	0	0	0	0
	介護技術	演習	8	定期試験	100	0	100	0	13	88	0	0
	医学概論	講義	8	定期試験、小レポート	100	0	100	63	38	0	0	0
	精神保健(幼児・成人・老人・障害者含む)	講義	8	定期試験、発表	100	0	100	100	0	0	0	0
	障害学・リハビリテーション論	講義	8	定期試験、レポート	100	0	100	25	75	0	0	0
	発達心理学	講義	8	リポート	100	0	100	100	0	0	0	0
	カウンセリング	演習	0	定期試験、小レポート	-	-	-	-	-	-	-	-
	体験実習事前・事後指導	演習	8	発表	100	0	100	0	100	0	0	0
	施設介護体験実習	実習	8	レポート	100	0	100	100	0	0	0	0
	音楽療法体験実習	実習	6	実習記録、成果発表	100	0	100	0	50	50	0	0
	声楽A	演習	9	定期試験、実技試験	100	0	100	22	78	0	0	0
	声楽B	演習	9	定期試験、実技試験	100	0	100	22	78	0	0	0
	声楽C	演習	9	定期試験、実技試験	100	0	100	22	78	0	0	0
	声楽D	演習	9	定期試験、実技試験	100	0	100	33	67	0	0	0
	器楽A	演習	34	定期試験、実技試験	100	0	100	9	76	15	0	0
	器楽B	演習	33	定期試験、実技試験	100	0	100	9	91	0	0	0
	器楽C	演習	33	定期試験、実技試験	100	0	100	18	76	6	0	0
	器楽D	演習	33	定期試験、実技試験	97	3	100	33	58	9	0	0
	作品制作A	演習	-	実技試験(作品発表)	-	-	-	-	-	-	-	-
	作品制作B	演習	-	実技試験(作品発表)	-	-	-	-	-	-	-	-
	作品製作C	演習	-	実技試験(作品発表)	-	-	-	-	-	-	-	-
	作品製作D	演習	-	実技試験(作品発表)	-	-	-	-	-	-	-	-
	基礎声楽A	演習	25	実技試験	100	0	100	12	84	4	0	0

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 %			最終評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	認定
専門教育科目	基礎声楽B	演習	24	実技試験	100	0	100	13	83	4	0	0
	基礎声楽C	演習	22	実技試験	100	0	100	9	91	0	0	0
	基礎声楽D	演習	22	実技試験	95	5	100	14	77	9	0	0
	基礎器楽A	演習	29	実技試験	100	0	100	10	86	3	0	0
	基礎器楽B	演習	29	実技試験	100	0	100	31	69	0	0	0
	基礎器楽C	演習	25	実技試験	100	0	100	8	92	0	0	0
	基礎器楽D	演習	25	実技試験	100	0	100	4	80	16	0	0
	基礎電子オルガンA	演習	6	実技試験	100	0	100	0	100	0	0	0
	基礎電子オルガンB	演習	6	実技試験	100	0	100	17	83	0	0	0

履修人数には、他学科生及び専攻科学生を含む

教職に関する科目（二種） 単位認定状況表

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 %			最終評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	認定
教職課程	教師論	講義	23	定期試験	100	0	100	43	43	13	0	0
	教育学概論	講義	0	レポート	-	-	-	-	-	-	-	-
	教育史	講義	6	定期試験	83	0	83	67	17	0	17	0
	教育心理学	講義	24	レポート	100	0	100	54	46	0	0	0
	国語科教育法	講義	0	受講態度	-	-	-	-	-	-	-	-
	英語科教育法	講義	0	レポート、授業内での活動	-	-	-	-	-	-	-	-
	音楽科教育法	講義	0	模擬授業、採用模擬試験	-	-	-	-	-	-	-	-
	道徳教育	講義	19	授業への参加	100	0	100	47	53	0	0	0
	特別活動	講義	19	定期試験、レポート	100	0	100	47	53	0	0	0
	教育方法論	講義	0	レポート	-	-	-	-	-	-	-	-
	視聴覚教育メディア論	講義	13	プレゼンテーション	100	0	100	46	54	0	0	0
	生徒指導	講義	24	定期試験、レポート	100	0	100	21	75	4	0	0
	教育相談	講義	0	定期試験	-	-	-	-	-	-	-	-
	総合演習	演習	19	演習	100	0	100	37	63	0	0	0
	教育実習	実習	20	自習先の学校の評価	100	0	100	70	30	0	0	0

司書に関する科目 単位認定状況表

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 %			最終評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	認定
司書課程	生涯学習概論	講義	48	レポート、小テスト	96	4	100	65	31	4	0	0
	図書館概論	講義	48	定期試験	100	0	100	38	60	2	0	0
	図書館経営論	講義	46	定期試験	96	2	98	17	33	48	2	0
	図書館サービス論	講義	48	定期試験	100	0	100	90	10	0	0	0
	情報サービス概説	講義	45	定期試験、小レポート	91	4	96	27	49	20	4	0
	レファレンスサービス演習	演習	43	課題への取り組み	100	0	100	37	42	21	0	0
	情報検索演習	演習	44	定期試験	100	0	100	91	9	0	0	0
	図書館資料論	講義	47	定期試験	98	2	100	47	49	4	0	0
	専門資料論	講義	46	定期試験、小レポート	89	11	100	30	59	11	0	0
	資料組織概説	講義	47	定期試験	96	4	100	15	70	15	0	0
	資料組織演習	演習	44	定期試験	95	2	98	16	52	30	2	0
	児童サービス論	講義	48	定期試験	100	0	100	60	17	23	0	0
	図書及び図書館史	講義	-		-	-	-	-	-	-	-	-
	資料特論	講義	35	レポート	100	0	100	86	9	6	0	0
	コミュニケーション論	講義	0	定期試験	-	-	-	-	-	-	-	-
	情報機器論	講義	-		-	-	-	-	-	-	-	-
	図書館特論	講義	46	定期試験	98	0	98	20	43	35	2	0

司書教諭に関する科目 単位認定状況表

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 %			最終評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	認定
司書教諭課程	学校経営と学校図書館	講義	5	定期試験	100	0	100	60	20	20	0	0
	学校図書館とメディアの構成	講義	5	定期試験	100	0	100	60	40	0	0	0
	学習指導と学校図書館	講義	3	定期試験	100	0	100	100	0	0	0	0
	読書と豊かな人間性	講義	7	レポート	100	0	100	14	29	57	0	0
	情報メディアの活用	講義	3	定期試験	100	0	100	100	0	0	0	0

専攻科 国語国文専攻 単位認定状況表

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 %			最終評価 %			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
専門科目	日本文学論	講義	5	レポート	100	0	100	60	40	0	0
	伝承文学研究	講義	6	定期試験	100	0	100	83	17	0	0
	国語学特論	講義	5	定期試験	100	0	100	100	0	0	0
	国文学作家作品研究	演習	5	レポート	100	0	100	100	0	0	0
	国文学作家作品研究	演習	3	定期試験、レポート	100	0	100	100	0	0	0
	国文学作家作品研究	演習	5	平常点	100	0	100	60	40	0	0
	国文学作家作品研究	演習	5	課題	100	0	100	100	0	0	0
	国文学作家作品研究	演習	5	レポート、発表	100	0	100	60	40	0	0
	国文学作家作品研究	演習	5	レポート、発表	100	0	100	100	0	0	0
	言語学研究	演習	12	発表	100	0	100	100	0	0	0
	言語情報研究	演習	5	定期試験	100	0	100	100	0	0	0
	日本文学特殊研究	講義	0	定期試験	-	-	-	-	-	-	-
	日本文学特殊研究	講義	3	レポート	100	0	100	100	0	0	0
	日本文学特殊研究	講義	5	定期試験	100	0	100	80	20	0	0
	国語学特殊研究	講義	6	定期試験	100	0	100	100	0	0	0
	漢文学特殊研究	講義	5	レポート	100	0	100	80	20	0	0
	日本古典芸能特殊研究	講義	5	レポート	100	0	100	100	0	0	0
	情報文化特殊研究	講義	0	小テスト、発表	-	-	-	-	-	-	-
	郷土文学研究	講義	5	レポート	100	0	100	40	60	0	0
	言語文化論	講義	5	報告の内容、討議の質	100	0	100	100	0	0	0
	日本文化論	講義	6	定期試験、レポート	100	0	100	83	17	0	0
	日本民俗文化論	講義	5	レポート	100	0	100	100	0	0	0
	日中比較文学論	講義	5	レポート	100	0	100	80	20	0	0
	文化人類学	講義	6	定期試験	100	0	100	50	50	0	0
	ことば	講義	0	レポート、発表	-	-	-	-	-	-	-
	国語教育研究	講義	0	レポート、発表	-	-	-	-	-	-	-
	修了論文	講義	5	論文審査、修了論文発表会	100	0	100	100	0	0	0

専攻科 保育専攻 単位認定状況表

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 %			最終評価 %			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
専門科目	児童心理学特論	講義	20	レポート	95	5	100	60	35	5	0
	健康管理学特論	講義	16	定期試験、レポート	100	0	100	88	0	13	0
	家庭管理学特論	講義	15	レポート	93	7	100	93	0	7	0
	社会福祉学特論	講義	16	レポート	94	0	94	88	6	0	6
	現代女性学	講義	16	レポート	100	0	100	50	19	31	0
	体育	演習	13	レポート、授業への取組み	92	8	100	85	15	0	0
	保育学演習	演習	15	レポート	87	13	100	53	33	13	0
	幼児音楽	演習	11	出席状況	100	0	100	100	0	0	0
	图画工作	演習	16	題材の取組み、演習ノート	94	0	94	56	25	13	6
	児童文化	講義	15	レポート、実技の習熟度	100	0	100	67	33	0	0
	音楽理論	講義	8	演習課題、発表内容	100	0	100	88	13	0	0
	絵画	演習	16	作品提出、公評会	81	0	81	56	25	0	19
	教育史概論	講義	23	定期試験	100	0	100	96	4	0	0
	保育学特論	講義	15	レポート	100	0	100	33	67	0	0
	発達と学習	講義	16	レポート、報告担当	100	0	100	81	13	6	0
	幼児教育経営論	講義	16	小論文	94	0	94	75	19	0	6
	保育臨床学	講義	16	レポート、報告担当	100	0	100	100	0	0	0
	臨床心理学特論	講義	16	レポート、発表	100	0	100	94	0	6	0
	言語心理学	講義	16	演習発表	100	0	100	94	6	0	0
	心理学方法論	講義	15	資料作成、発表	100	0	100	87	7	7	0
	保育内容研究(健康)	講義	16	レポート	100	0	100	75	13	13	0
	保育内容研究(人間関係)	講義	16	レポート、学習姿勢	100	0	100	81	6	13	0
	保育内容研究(環境)	講義	16	定期試験、小レポート	94	6	100	94	0	6	0
	保育内容研究(ことば)	講義	15	レポート、発表	100	0	100	87	13	0	0
	保育内容研究(音楽表現)	演習	15	定期試験、実技	100	0	100	100	0	0	0
	保育内容研究(造形表現)	演習	14	学習姿勢、作品	100	0	100	93	7	0	0
	教育実習	実習	16	レポート、実習園からの評価	100	0	100	44	38	19	0
	修了論文	講義	16	論文発表	94	0	94	88	0	6	6

専攻科 音楽専攻 単位認定状況表

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 %			最終評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	認定
専門科目	作品解釈A	講義	14	定期試験	100	0	100	43	21	36	0	0
	作品解釈B	講義	14	定期試験	93	7	100	43	21	36	0	0
	作品解釈C	講義	14	レポート	100	0	100	7	93	0	0	0
	作品解釈D	講義	13	レポート	100	0	100	8	92	0	0	0
	演奏表現法A	講義	14	定期試験	86	14	100	50	14	36	0	0
	演奏表現法B	講義	14	定期試験	57	43	100	21	14	64	0	0
	比較演奏論A	講義	14	レポート	100	0	100	57	14	29	0	0
	比較演奏論B	講義	14	レポート	64	7	71	21	21	29	29	0
	和声研究A	講義	11	定期試験、課題提出	100	0	100	45	55	0	0	0
	和声研究B	講義	11	レポート	100	0	100	36	64	0	0	0
	作曲技法A	講義	11	分析レポート・創作楽譜提出	100	0	100	55	45	0	0	0
	作曲技法B	講義	9	分析レポート・創作楽譜提出	100	0	100	67	33	0	0	0
	伴奏研究A	演習	14	定期試験、発表	100	0	100	43	29	29	0	0
	伴奏研究B	演習	14	定期試験、発表	100	0	100	36	50	14	0	0
	伴奏研究C	演習	8	定期試験、発表	88	13	100	25	50	25	0	0
	伴奏研究D	演習	8	定期試験、発表	50	0	50	13	38	0	50	0
	楽書講読A	演習	13	レポート	100	0	100	23	77	0	0	0
	楽書講読B	演習	13	レポート	92	0	92	15	77	0	8	0
	イタリア語研究	演習	10	定期試験	100	0	100	100	0	0	0	0
	英語研究	演習	8	定期試験、小テスト	100	0	100	38	50	13	0	0
	コーラスA	演習	14	勉学姿勢、授業態度	100	0	100	86	14	0	0	0
	コーラスB	演習	14	勉学姿勢、授業態度	100	0	100	7	29	64	0	0
	アンサンブルA	演習	14	実技試験	100	0	100	57	43	0	0	0
	アンサンブルB	演習	14	実技試験	100	0	100	64	36	0	0	0
	スペシャルレッスンA	演習	14	演奏、成果発表	100	0	100	79	21	0	0	0
	スペシャルレッスンB	演習	14	演奏、成果発表	93	0	93	57	36	0	7	0
	主科声楽A	演習	4	実技試験	100	0	100	50	50	0	0	0
	主科声楽B	演習	4	実技試験	100	0	100	25	75	0	0	0
	主科声楽C	演習	4	実技試験	100	0	100	50	50	0	0	0
	主科ピアノA	演習	8	実技試験	100	0	100	25	75	0	0	0
	主科ピアノB	演習	8	実技試験	100	0	100	25	75	0	0	0
	主科ピアノC	演習	8	実技試験	100	0	100	50	50	0	0	0
	主科弦楽器A	演習	1		100	0	100	100	0	0	0	0
	主科弦楽器B	演習	1		100	0	100	0	100	0	0	0
	主科弦楽器C	演習	1		100	0	100	100	0	0	0	0
	主科管楽器A	演習	1	実技試験	0	100	100	100	0	0	0	0
	主科管楽器B	演習	1	実技試験	100	0	100	0	100	0	0	0
	主科管楽器C	演習	1	実技試験	100	0	100	100	0	0	0	0
	主科打楽器A	演習	0		-	-	-	-	-	-	-	-
	主科打楽器B	演習	0		-	-	-	-	-	-	-	-
	主科打楽器C	演習	0		-	-	-	-	-	-	-	-
	主科電子オルガンA	演習	1	実技試験	100	0	100	0	100	0	0	0
	主科電子オルガンB	演習	1	実技試験	100	0	100	0	100	0	0	0
	主科電子オルガンC	演習	1	実技試験	100	0	100	100	0	0	0	0
	主科電子楽器A	演習	-		-	-	-	-	-	-	-	-
	主科電子楽器B	演習	-		-	-	-	-	-	-	-	-
	主科電子楽器C	演習	-		-	-	-	-	-	-	-	-
	副科声楽A	演習	7	実技試験、レッスン状況	100	0	100	14	71	14	0	0
	副科声楽B	演習	7	実技試験、	100	0	100	14	86	0	0	0
	副科声楽C	演習	7	実技試験、レッスン状況	100	0	100	29	71	0	0	0
	副科声楽D	演習	7	実技試験、レッスン状況	100	0	100	14	71	14	0	0
	副科ピアノA	演習	6	実技試験	100	0	100	0	50	50	0	0
	副科ピアノB	演習	6	実技試験	100	0	100	0	67	33	0	0
	副科ピアノC	演習	6	実技試験	100	0	100	0	100	0	0	0
	副科ピアノD	演習	6	実技試験	100	0	100	0	50	50	0	0
	副科弦楽器A	演習	0	実技試験	-	-	-	-	-	-	-	-
	副科弦楽器B	演習	0	実技試験	-	-	-	-	-	-	-	-
	副科弦楽器C	演習	0	実技試験	-	-	-	-	-	-	-	-
	副科弦楽器D	演習	0	実技試験	-	-	-	-	-	-	-	-
	副科管楽器A	演習	1	実技試験	100	0	100	0	0	100	0	0
	副科管楽器B	演習	1	実技試験	100	0	100	0	100	0	0	0
	副科管楽器C	演習	1	実技試験	100	0	100	0	100	0	0	0

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 %			最終評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	認定
専門科目	副科管楽器D	演習	1	実技試験	100	0	100	0	100	0	0	0
	副科打楽器A	演習	0	実技試験	-	-	-	-	-	-	-	-
	副科打楽器B	演習	0	実技試験	-	-	-	-	-	-	-	-
	副科打楽器C	演習	0	実技試験	-	-	-	-	-	-	-	-
	副科打楽器D	演習	0	実技試験	-	-	-	-	-	-	-	-
	学内演奏	演習	14	演奏会形式による試験	100	0	100	43	57	0	0	0
	学内演奏論文	演習	14	論文、発表	100	0	100	64	29	7	0	0
	修了演奏	演習	0	公開演奏による評価	-	-	-	-	-	-	-	-

教職に関する科目（一種） 単位認定状況表

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 %			最終評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	認定
教職一 種課程	教育思想史	講義	-		-	-	-	-	-	-	-	-
	発達と学習	講義	9	リポート	100	0	100	100	0	0	0	0
	国語科教育研究	講義	5	レポート、ゼミ発表	100	0	100	100	0	0	0	0
	音楽科教育研究	講義	4	小論文試験	100	0	100	75	25	0	0	0
	道徳教育研究	講義	9	レポート、授業への参加	100	0	100	56	44	0	0	0
	教育課程の研究	講義	9	筆記試験、演習成果	100	0	100	44	56	0	0	0
	特別活動研究	講義	5	定期試験、レポート	100	0	100	60	40	0	0	0

音楽療法士に関する科目（一種） 単位認定状況表

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 %			最終評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	認定
音楽療法士	音楽療法各論（総合）	講義	0	レポート、発表	-	-	-	-	-	-	-	-
	音楽療法各論（総合）	講義	0	論文	-	-	-	-	-	-	-	-
	臨床医学特論	講義	0	定期試験	-	-	-	-	-	-	-	-
	音楽療法実習	実習	0	実習記録、成果発表	-	-	-	-	-	-	-	-
	音楽療法実習	実習	0	実習記録、データ解析の成果	-	-	-	-	-	-	-	-

履修人数には、他学科生及び専攻科学生を含む

- （注意）1. 上表の単位取得状況欄の本試、再試等とは単位認定試験を行った場合のこととで、短期大学の実態に合わせて適宜記載して下さい。
 2. 上表の最終の評価欄の優・良・可とは評価ランクを示したもので、A・B・C等を使用している場合は、短期大学の実態に合わせて適宜記載して下さい。
 3. 授業科目等が昨年度と大幅に変更がある場合には、訪問調査の際に確認させていただくことがあります。

（2）学科長等がそれぞれの学科について、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状についてどのように受け止めているかを記述して下さい。

1) 日本語日本文学科

授業の形態や規模は選択をベースに組み立てていることもあり、さまざまである。演習科目は下調べや発表が基本でそれが何をこなせたかによって評価される。また、資格関連科目では何を達成できたかで評価される。一概に言及し難いが、評価についてのフレームはほとんどない。

評価については教員が要求する達成度で評価するのか、学生個人個人が達成した度合いで評価するのか分かれるが、これも授業内容によって一概に決め付けることはできないと思う。

2) 英語英文科

単位認定に際しては、個々の科目の特性に応じた多様な評価の基準や観点の組み合わせにより総合評価が行われている。さらに、学外等での実地研修で単位を認定する科目もあり、これらについては、実習先からの評価表・報告書なども評価に加味される。また、認

定留学や語学実習など海外での学習や、資格取得の結果を単位認定する科目では「認定」という成績表記をしている。なお、同一科目が複数コマ開講される場合には、担当教員が協議の上、クラスのレベルや担当者間でバランスを取っている。

本学科生の単位修得状況を見ると、専門教育においては、ほぼ7割の科目で90%以上の履修者が単位を修得している。また、評価の状況では、優または良を取る学生が9割以上で、可を取る者は1割以下である。絶対評価のもと科目的特性を考慮し、優・良・可の比率に一定基準は設置していないし、その必要もないかと思われるが、数字的な結果では、大多数の学生がほぼすべての科目でよい成績を取っていると認識できる。

3) 保育科

本学科の単位認定は、教科科目群によって違いはあるが、教科の特性を鑑みて評価項目を設け、試験のみならず出席状況や授業態度なども含めて総合的な評価をしている（シラバスに記載）。

本科学生の単位修得状況は、ほとんどの学生が幼稚園教諭二種免許状と保育士資格にかかる単位を履修し、目的を達成している。まれに評価基準に達し得ない科目がある学生については、その都度科内会議で情報を交換し、個別に対応している。特に資格にかかる科目が多い本学科においては、保育者養成校としての社会的責任は重く、単位認定に関しては全教員が慎重に対処している。

4) 音楽科

単位の修得は、ほぼ全員ができる。その点では評価の現状は正常と考える。なお、出席不足等で、単位の修得ができない学生もわずかだがいる。本学科では、科内会議で指導の必要な学生の情報交換をし、指導を徹底している。

5) 専攻科

国語国文専攻の評価は非常に良い。これは受講生が少ないためきめ細かい指導ができるためと思われる。保育専攻は、幼稚園教諭一種免許状が取得できるということで優れた学生が多く、良い評価になっている。音楽専攻は、評価が3専攻中もっとも厳しい。これは学科の特性とも関係し、技術的な面での評価があって、こういう結果になっているものと思われる。専攻科に進学してくる学生の多様さにも原因があるかもしれない。

(3) 学長等は、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状について、
短期大学全体の状況をどのように受け止めているかを記述して下さい。

単位認定については全般的に公正な方法で行われている。各教員とも一番苦労するところであるが、4学科及び専攻科で科目的性質、内容とも同じでないため、成績評価に多少のばらつきはあることは否めない。しかし学生からクレームがつくことはほとんどない。成績評価を現行の優・良・可から認にしてはどうかという考え方も出ているが、現在は一部に「認」を採用し、他の多くは優・良・可評価方式を採用している。

【授業に対する学生の満足度について】

(1) 各授業について、終了後に「学生の満足度」の調査を実施していればその調査の概要を記述して下さい。また調査票の様式等を訪問調査の際にご準備下さい。

本学では毎学期末に授業評価を兼任教員も含めて全教員を対象に行い、その結果についてはwebで公開している。授業の満足度については総体として満足しているかどうかの結

果のみでなく、満足の中でも不満に感じている部分について分析を行う努力をしている。また、作業部会は各教員に満足度調査の結果を戻し、それについての感想や今後の工夫などについてのコメントの提出を求めている。

当初教員の中から、学生による授業評価が適切な手段とは思われないという意見があつたが、繰り返す中で、学生の指摘によって、授業時に工夫すべき箇所が明確になることで、教員の改善への努力が積み重ねられていると判断する。

なお、学生の中には真摯な態度で回答しない例もあり、これは回数・時期などを含めて検討すべき問題と考える。

総合的な満足度ではどの学科も90%以上の満足度である。選択の可能性が高い授業は満足度が高く、名目は選択であっても資格等で必修となっている科目では満足度が若干低くなる傾向がある。資格に関しての必修科目についてはその意義を再確認しての受講が望まれる。シラバスに関する評価の科ごとの差が顕著である。これは授業選択の自由さやコース制の実施など、授業実施での制限が学生のシラバス観を弱めていると思われる。

<参考資料 - 2>「学生の満足度調査」（「学生による授業評価結果一覧」・「紀要」37号）
参照

(2) 担当教員が授業終了後の学生の満足度に配慮しているかについて、学科長等が現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

1) 日本語日本文学科

学生による授業評価では学生全体での満足度は90%を越える。また、科目別では学科専門科目についての満足度は95%以上となる。

科目的選択度を高めたことにより、連携を持たせた科目体系を整えるために、シラバスを熟読する姿勢が養われ、結果として自ら選んだことによる満足度の高まりがあると思われる。本学科として特徴があるとすれば、板書の問題だろう。授業の中で人名や地名を含めて固有名詞の伝達がこの原因と考えられる。しかし、この部分をプリントで配布すればいいわけでもなく、学生が授業内容をきちんとノートに取れるようにするその訓練も考えれば、学生には十分に説明しておくことは大切だと思う。

2) 英語英文科

教員の中には、学期末の授業後に受講者に簡単な授業感想を書かせるなど、個々に授業改善を図っている者もいる。また、全学的な「授業評価アンケート」の結果を見ると、本学科の学生は、教養教育科目を含むすべての授業に対する総合的な満足度において、約80%が「満足」「ある程度満足」と回答している。また、専門教育科目に限定した満足度でも80%弱の満足度である。本学科ではカリキュラムの仕組みや普段の授業指導において、学習への興味づけや目的意識の維持を心がける必要性が特に求められ、その一つの方法として3つのコース科目群を設定している。授業選択の理由では、回答の約40%が「授業内容への興味・関心」に集まり、次いで「免許・資格のため必要」が約30%、「必要だから仕方なく」が20%弱となった。学生が自分で選んだ科目に対しては一般的に満足度が高く、必修科目や資格にかかわる科目では不満度が高いという傾向にある。この点もよく考慮し、平成19年度にはカリキュラムを改訂し、必修科目やコース科目の見直しを行ったが、今後もさらに改善に努めたい。

3) 保育科

学生による授業評価の結果を分析した結果、保育科では90%弱の学生が「満足」「ある程度満足」できると評価した。また、各授業に対する評価の結果を担当教員にフィードバックし、自らの授業に対する確認及び意識の向上を促した。

4) 音楽科

「授業評価アンケート」によると、90%の学生が満足している。終始徹底して全員の満足度を高めることが重要であり、それには教員の自覚が大いに必要と考えている。個人での指導が多い学科であるため、学生の能力にあった指導工夫の研究は日常的に担当教員が考えなければならないことと思う。

5) 専攻科

「授業評価アンケート」によると、専攻科全体の「満足」は77.7%で、「ある程度満足」の20.5%と合わせると98.2%になる。問題ないと言えようが、これは人数が少なくマンツーマンに近い授業の反映かもしれない。ただ満足度が高いからといって安心はできず、国語国文専攻は定員20名を満たしたことがないのが現状である。より魅力ある授業内容を目指して努力しなくてはならない。保育専攻は就職が決まれば退学する学生もいるが、授業の満足度は高い。音楽専攻は2年制に改組して以降、専攻科への進学希望者はほぼ安定して定員を満たしている。修了後も大学院に合格する者がほぼ毎年出ているため「学士取得」の成果を後輩に示す結果になっていて、満足度に反映していると思われる。

(3) 学長等は短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

全体をとおして90%の学生が授業に満足という評価をしている。授業担当教員が学生からの指摘を受けて改善を重ねていくと学生の評価が高くなるという相乗効果を期待したい。

【退学、休学、留年等の状況について】

(1) 過去3ヶ年(平成16年度～18年度)の退学、休学、留年等の数を表にして学科等ごとに記載し、学科等の状況を明らかにして下さい。

日本語日本文学科の退学者一覧表

(平成19年3月31日現在)

	平成16年度入学	平成17年度入学	平成18年度入学	備考
入学者数	80	83	74	
うち退学者数	6	6	1	H16 留年生の退学者を含む
うち休学者数	0	0	0	
休学者のうちの復学者数	0	0	0	
うち留年者数(通常の学年進行によらないもの)	1	0		H16 留年生は退学
卒業者数	74	77		

英語英文科の退学者一覧表

	平成16年度入学	平成17年度入学	平成18年度入学	備考
入学者数	85	92	73	
うち退学者数	5	5	5	
うち休学者数	1	0	2	H16 留年生の休学
休学者のうちの復学者数	0	0	0	
うち留年者数(通常の学年進行によらないもの)	1	2		H16 留年生は現在休学中
卒業者数	79	85		

保育科の退学者一覧表

	平成 16 年度入学	平成 17 年度入学	平成 18 年度入学	備考
入学者数	262	244	227	H16 入学者には転科生 1 名含む
うち退学者数	3	6	3	H16 留年生の退学者を含む
うち休学者数	1	0	1	
休学者のうちの復学者数	1	0	1	
うち留年者数 (通常の学年進行によらないもの)	2	0		H16 留年生の 1 名は退学
卒業者数	259	238		

音楽科の退学者一覧表

	平成 16 年度入学	平成 17 年度入学	平成 18 年度入学	備考
入学者数	52	45	51	
うち退学者数	4	1	3	H16 留年生の退学者を含む
うち休学者数	1	2	1	
休学者のうちの復学者数	1	1	0	
うち留年者数 (通常の学年進行によらないもの)	1	2		H16 留年生の 1 名は退学
卒業者数	48	42		

専攻科 国語国文専攻の退学者一覧表

	平成 16 年度入学	平成 17 年度入学	平成 18 年度入学	備考
入学者数	5	5	7	
うち退学者数	0	0	1	
うち休学者数	0	0	1	
休学者のうちの復学者数	0	0	0	
うち留年者数 (通常の学年進行によらないもの)	0	0		
修了者数	5	5		

専攻科 保育専攻の退学者一覧表

	平成 16 年度入学	平成 17 年度入学	平成 18 年度入学	備考
入学者数	9	16	11	
うち退学者数	2	1	1	
うち休学者数	0	0	0	
休学者のうちの復学者数	0	0	0	
うち留年者数 (通常の学年進行によらないもの)	0	0		
修了者数	7	15		

専攻科 音楽専攻の退学者一覧表

	平成 16 年度入学	平成 17 年度入学	平成 18 年度入学	備考
入学者数	21	15	24	
うち退学者数	3	1	0	
うち休学者数	0	0	0	
休学者のうちの復学者数	0	0	0	
うち留年者数 (通常の学年進行によらないもの)	0	0		
修了者数	18	14		

(2) 退学者の退学理由割合、退学理由の最近の傾向及び退学者、休学者（復学者を含む）及び留年者に対する指導（ケア）の現状について学科等ごとに記述して下さい。

A) 退学理由とその割合

退学・休学に対しては、学生本人の申出だけではできないシステムになっている。まずクラス担任、あるいは学生相談室に相談に行くことを義務付けている。その後保護者と連絡を取り、了解がなされた上で退学・休学・留年等の事務手続きを始める。また、これらの手続きが完了する間、クラス担任が中心となり適宜学生と保護者に連絡を取るとともに、その結果を科内会議で報告し、組織として情報を共有し適切な対応が図れるよう努めている。

退学理由とその割合の一覧

学科名 理由	日本語日本文学科			英語英文科			保育科			音楽科			4 学科合計		
	平成 16	平成 17	平成 18												
成績不良(意欲低下)		2			1		1	4	1	1	2	2	7	3	
進路変更(進学)					2	2		1		2			2	3	2
進路変更(就職)	2	2		1			2		2				5	2	2
経済的事情		2	2	1									1	2	2
健康上(身体・心神)	2				1	1				1	1		3	2	1
その他(結婚など)	2			3	1	2		1				1	5	2	3
計	6	6	2	5	5	5	3	6	3	4	1	3	18	18	13

専攻名 理由	専攻科国語国文専攻			専攻科保育専攻			専攻科音楽専攻			3 専攻合計		
	平成 16	平成 17	平成 18	平成 16	平成 17	平成 18	平成 16	平成 17	平成 18	平成 16	平成 17	平成 18
成績不良(意欲低下)			1		1			1		0	2	1
進路変更(進学)							1			1	0	0
進路変更(就職)				2		1				2	0	1
経済的事情							1			1	0	0
健康上(身体・心神)							1			1	0	0
その他(結婚など)										0	0	0
計	0	0	1	2	1	1	3	1	0	5	2	2

B) 退学、休学及び留年者に対する指導(ケア)の現状

1) 日本語日本文学科

学生指導はクラス担任制で行われ、入学から卒業までの2年間を担当する。この間に宿泊研修・作文指導・個人面接を行い、大学祭をはじめとする各種行事も担任との共同作業が設定されている。学生の動向については変化を察知できる体制になっているので、退学を含め、突発的な動きになることは少ない。

留学生は卒業できない学生で、担任が変更となるが、よほどのことがない限り従前の担任も指導に当たる。退学希望の場合、当人から事情を聞き、保護者との連絡を密にしており、家庭とのトラブルはない。

学生同士のつながりを観察し、生活での異常を速やかに発見できるようにしている。方策としては「オフィスアワー」があり、学生の声を把握するように努力している。なお、休退学等について、出身高校への報告は行っていない。

2) 英語英文科

退学・休学・留年にかかる指導は主として担任が当たり、科内会議で情報交換や必要

な対応策を協議する。ただし、担任であっても担任の学生の授業を持たない場合もあり、専任教員全員の目で見た様子を把握することにより、効果的かつ適正な指導をするように心掛けている。また、各担任は毎年最低2回（前期と後期）、クラスの学生に対し個人面接を行い、学生生活上の問題を早期発見するよう努力している。平成18年度からは「オフィスアワー」（ほぼ月一回）も設定した。なお担任は、必要に応じて保護者との連絡や面談も行う。

3) 保育科

退学の事由は「進路変更」「勉学意欲の衰退」といった個人的な事情であり、その数はごくわずかである。“将来は保育者になる”という明確な目的を持つ学生が大半を占めることと、加えてクラス担任制や学生相談室と結びついた指導成果による側面も大きいと考える。

4) 音楽科

本学科では、学科長以下、クラス担任・専攻実技担当者・授業担当者が細かく声をかけることによって、退学・休学が少なくなるように努力している。経済的な事については教員だけでは難しい。最近は保護者の理解を求めなければならない場面もある。

5) 専攻科

国語国文専攻は退学・休学者は少ない。保育専攻は平成16年度に就職のために退学した学生がいるが、これは専攻科1年のとき、公立幼稚園・保育園に受かったためである。音楽専攻では平成16年に経済的事情と健康上の理由で退学した学生がいる。平成17年には成績不良と進路変更（進学）を理由に退学している。毎年20人の定員前後の学生が専攻科でレッスンに励んでいるので、時にこうした理由で退学者が出るのは仕方ないが、ケアは担任を中心に音楽科内で意見交換をし対応している。保護者との連絡も密にし学生の意思を尊重しつつ、どうするのが最適か指導している。

（3）退学、休学、留年等の現状を、学科長等がどのように受け止めているかを学科等ごとに記述して下さい。

1) 日本語日本文学科

最近の退学者の傾向は家庭の事情、経済的事情がほとんどである。日本学生支援機構の緊急の奨学金制度を用いて授業料を確保する方法などを示して対処しているが、抜本的な解決には至らないことが多い。

それ以外では成績不良、意欲の低下などの理由があげられるが、これは以前と比較すれば減っている。担任制度・オフィスアワー制度・クラス必修科目などを通じて、学生個々の動きがつかめていることによって、事前に対応できていると判断する。

2) 英語英文科

最近の退学理由は、他大学進学や就職による進路変更、学業への意欲喪失、家庭の経済的問題、大学での対人関係などが主となっている。休学と留年に関してはわずかである。ただし、不本意入学や学力不足の者、あるいは自己管理や対人関係で問題を持つ者が、各学期の後半から欠席するようになり、休学や留年に至る状況も見られる。担任制のもと、少しでも退学や留年を出さない方針で科内会議での情報交換を緊密にしながら学生指導に当たっているが、今後も、これまで以上に学生とのコミュニケーションを日常化し、保護者との連絡体制も緊密に保つ必要性を感じている。

3) 保育科

前掲の表(57P)が示すとおり、保育科での退学者は入学者数からすると少ない状況であると言えよう。教員の学生一人一人のライフデザインに向けてのきめ細かな指導が、このような結果になっているものと認識している。退学者も自分なりの進路を見つけての判断であり、今後の進路についても的確なアドバイスをするよう心がけている。

4) 音楽科

年間2~3人が退学する。理由としては成績不良が多い。近年は日々の専攻練習など積み重ねができない学生がいるようである。コツコツと努力を重ねる音楽の持つ重要性・精神的な部分の希薄な学生が、退学になるケースがある。ただし、本学科では、さまざまなアドバイスをしながら、できる限り退学を避けるように指導している。

5) 専攻科

専攻科への入学者は国語国文専攻で5名前後、保育専攻で15名前後、音楽専攻で20名前後という人数なので、少人数教育が特徴である。音楽専攻の20名も専門科目はマンツーマンの授業であるため学生一人一人を相当注意深く指導できる環境にある。家庭の事情にまで立ち入ることはなく、個々の能力と意向を把握することができている。従って、退学、休学、留年になった場合でも学生の身になって、よりよい指導ができる。ただ、該当する学生が出た場合の対応は、各専攻の所属する科にまかされており、各科の科長・主任と担任がこれに当たっている。

(4) 学長等は、短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

全体的には成績不良(意欲低下)によるものが多い。進路変更、経済的事情による退学は関連をもっており単純に解釈できない。4科の中で入学が就職に直接結びつく保育科のような科と、そうでない科とでは違いがあるようだ。

最近気にかかるのが精神的理由によるものが増加していることである。これも直接的な退学はそれほど多くはないが、その結果が成績不良や進路変更につながっていく。本学ではクラス担任制をとり、授業以外にスクーデントタイムを設け学生との接触を多くしている。また学生相談室を設置し、臨床心理士が相談に応じている。現在は週3回開設しているが、常駐の相談員を置くことも検討している。

【資格取得の取組みについて】

(1) 《教育の内容》の【教育課程について】(3)で報告頂いた取得が可能な免許・資格、また教育課程とは別に取得の機会を設けている免許・資格の取得状況(取得をめざした学生数、取得者数、取得割合等)を学科等ごとに示して下さい。

各科・各専攻科の免許・資格の取得状況一覧

日本語日本文学科	平成16年度			平成17年度			平成18年度		
	卒業生			83名			74名		
資格・免許名	希望者	取得者	取得割合	希望者	取得者	取得割合	希望者	取得者	取得割合
中学校教諭2種免許状	11	6	55%	10	8	80%	12	6	50%
司書資格	43	38	88%	47	41	87%	41	35	85%
司書教諭	5	2	40%	5	3	60%	8	3	38%
プレゼンテーション実務士	17	17	100%	12	11	92%	13	12	92%
漢字検定2級	34	4	12%	4	0	0%	5	1	20%

漢字検定 準2級	16	9	56%	2	0	0%	6	1	17%
----------	----	---	-----	---	---	----	---	---	-----

英語英文科	平成 16 年度			平成 17 年度			平成 18 年度		
	卒業生 112 名			79 名			85 名		
資格・免許名	希望者	取得者	取得割合	希望者	取得者	取得割合	希望者	取得者	取得割合
中学校教諭 2種免許状	3	2	67%	3	1	33%	5	2	40%
幼稚園教諭 2種免許状	51	40	78%	35	25	71%	28	25	89%
司書資格	8	7	88%	4	3	75%	9	8	89%
司書教諭	-	-	-	-	-	-	-	-	-
プレゼンテーション実務士				-	-	-	1	1	100%
英語検定 2級	83	16	19%	63	12	19%	31	6	19%
英語検定 準2級	44	28	64%	35	24	69%	22	12	55%
秘書検定 2級	41	7	17%	53	23	43%	40	23	58%
秘書検定 3級	64	29	45%	59	21	36%	47	32	68%
観光英語検定 3級	32	20	63%	50	43	86%	34	26	76%
ホテル実務技能認定試験 3級	29	21	72%	33	27	82%	33	30	91%

保育科	平成 16 年度			平成 17 年度			平成 18 年度		
	卒業生 203 名			258 名			239 名		
資格・免許名	希望者	取得者	取得割合	希望者	取得者	取得割合	希望者	取得者	取得割合
幼稚園教諭 2種免許状	203	197	97%	258	248	96%	239	232	97%
保育士資格	203	199	98%	258	250	97%	239	237	99%
レクリエーション・インストラクター				44	35	80%	63	55	87%
児童厚生指導員 2級				70	67	96%	45	36	80%
モンテッソーリ教師（本学認定）				16	14	88%	14	13	93%
ネイチャーゲーム指導員				60	57	95%	60	58	97%
小児救急救命法				60	58	97%	92	91	99%

音楽科	平成 16 年度			平成 17 年度			平成 18 年度		
	卒業生 44 名			49 名			42 名		
資格・免許名	希望者	取得者	取得割合	希望者	取得者	取得割合	希望者	取得者	取得割合
中学校教諭 2種免許状	12	7	58%	17	14	82%	14	11	79%
司書教諭	-	-	-	3	2	67%	-	-	-
音楽療法士 2種資格	7	1	14%	6	4	67%	8	6	75%
訪問介護員 2級	3	3	100%	5	5	100%	8	8	100%

専攻科国語国文専攻	平成 16 年度			平成 17 年度			平成 18 年度		
	修了生 6 名			5 名			5 名		
資格・免許名	希望者	取得者	取得割合	希望者	取得者	取得割合	希望者	取得者	取得割合
学士	6	6	100%	5	5	100%	5	5	100%
中学校教諭 1種免許状	3	3	100%	5	5	100%	5	5	100%
司書資格	1	1	100%	2	2	100%	-	-	-
司書教諭	-	-	-	2	2	100%	-	-	-
プレゼンテーション実務士	-	-	-	1	1	100%	-	-	-

専攻科保育専攻	平成 16 年度			平成 17 年度			平成 18 年度		
	修了生 19 名			7 名			15 名		
資格・免許名	希望者	取得者	取得割合	希望者	取得者	取得割合	希望者	取得者	取得割合
学士	19	17	89%	7	6	86%	13	13	100%
幼稚園教諭 1種免許状	19	17	89%	7	5	71%	13	13	100%

ネイチャーゲーム指導員				-	-	-	6	6	100%
-------------	--	--	--	---	---	---	---	---	------

専攻科音楽専攻 修了生	平成 16 年度			平成 17 年度			平成 18 年度		
	31 名			18 名			14 名		
資格・免許名	希望者	取得者	取得割合	希望者	取得者	取得割合	希望者	取得者	取得割合
学士	28	23	82%	17	15	88%	13	13	100%
中学校教諭 1 種免許状	11	8	73%	8	6	75%	4	4	100%
音楽療法士 1 種資格				1	0	0%	-	-	-
訪問介護員 2 級	7	7	100%	4	4	100%	-	-	-

...個人申請での取得のため要件を満たした数

(2) 今後導入を検討している免許・資格があれば記述して下さい。

特になし。

【学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価について】

(1) 学科等ごとに専門就職（当該学科等で学習した分野に関連する就職）の状況（専門就職数、割合等）について記述して下さい。また学科等ごとに専門就職先からの卒業生に対する評価について何か文書や資料があれば参考資料として準備して下さい。

1) 日本語日本文学科

本学科の専門性は「言葉」「文学」であるが、現実にその特性を生かした職場（マスコミ・出版等）へ就職することは極めて難しい。専門性を伴った就職（教員・編集等）の実現を考える学生は進学し、さらに研鑽を続けている。

2) 英語英文科

本学科の学生は多様で異なる進路を目指して学習し卒業する。ただ、地方都市という地理的な条件も加味すると、卒業時点で英語そのものを生かして就職するという機会は極めて少ない。また、コースの方向性に基づく就職先を見ると、子どもを扱う職業に就いた者は、平成 16 年度 23 名、平成 17 年度 15 名、平成 18 年度 10 名で、主な職業は、幼稚園、子ども英語教室などとなっている。観光関連の職業も含めた一般企業への就職者は、平成 16 年度 53 名、平成 17 年度 37 名、平成 18 年度 53 名で、主な職業は、ホテル、旅行代理店、その他の企業などであった。本学科では「英語でライフケア」を基本目的としており、20 歳代後半をも見据えた長い視点で専門教育に当たり、職業意識の涵養を図る必要がある。なお、就職先の評価については、体系的な調査等は実施していない。

3) 保育科

本学科の専門就職の状況については、過去 3 年間（平成 16 ~ 18 年度）の実績から分析すると、幼稚園・保育所・児童福祉施設等へ約 86% 就職している。さらに専攻科保育専攻への進学率は約 8% である。これらの結果から学生の入学時の意思が継続されていると言えよう。また専門就職先からの評価については、実習巡回指導の折に、施設長や担当指導教員より話を聞く機会を設けているが、全体的に良い評価を得ている。

4) 音楽科

音楽関係での就職は、社会の景気などに反映されて困難な面もある。ただし、音楽療法士や音楽企画、音楽関係企業などでは、音楽の専門知識を生かして活躍している。音楽教室講師は少子化の影響もあり、全員が希望どおりには就職できていない。

5) 専攻科

国語国文専攻の専門就職は教職を目指す者が毎年いる。平成16年度生で2人、17年度生で1人が、非常勤の教員になっている。専任教員は教員採用試験に合格しないとなれないで難しい。公務員や司書を目指す学生もいるが、これも公務員試験に合格しないとなないので、狭き門である。保育専攻はほとんど全員が保育所・幼稚園に就職している。ただ、平成18年度から男子学生が専攻科に進学しており、その就職先に関しては問題を残している。卒業生に対する就職先の評価は、本科の保育実習、教育実習の巡回指導の折にうかがっているが、おおむね良好である。音楽専攻は大学院に進学する者、海外に留学する者、音楽教室に就職する者と多様だが、専門分野に進む学生がそれなりに多い。就職先での評価も良好で問題はないが、さらに力をつけて活躍する学生を育てていきたい。

(2) 卒業生に対する就職先（専門就職に限らない）及びその他の進路先（編入先等）からの評価をどのように受け止めているかについて、短期大学全体については学長等が、学科等については学科長等が記述して下さい。

A) 短期大学全体に関する学長の認識

卒業生の就職先や進学先から定期的に情報を得ることはしていない。最近特に個人情報に関してさまざまな問題が出ているため、ストレートに情報を集めるのは差し控えなければならない面もあるが、保育科等、実習の巡回指導に出かけた折には具体的な指摘を受ける場合もある。本学に対する就職先や進学先からの要望については、今後検討していくと考えている。

B) 各科に関する当該科長の認識

1) 日本語日本文学科

就職企業への聞き取りやアンケートは卒業生本人の意向を超えた部分で行ってしまう危険性もあり、個人情報の保護も考えた場合、実行には問題があるとも考える。卒業生へのサポートは徐々に固めている。卒業後半年程度での集まりを「卒業生の集い」として設け、学生それぞれの現状を話してもらうなどの試みを行っている。また、ネットを通じての毎日の生活報告なども実験的に行い、その中の卒業生同士の連絡から何をサポートすべきかを求めていた。また、卒業後も短大との連携を維持するために、日本語日本文学会に任意継続会員として加入してもらい、卒業研究論文の掲載や「日本語日本文学会通信」（学会通信、年に一回発行）を通じて、短大や学科の現状を伝える努力をしている。

2) 英語英文科

体系的な調査は実施していないが、就職先からは個別に「勤勉・真面目」等の評価を耳にすることがある。大学編入者に関しては、学園内大学の場合はおおむね良い評価を得ているが、学園外大学への進学者や海外留学生については、進学先からの情報はない。今後は、学科として卒業生の動向や評価をモニターする方策を構築する必要がある。

3) 保育科

本学科の卒業生に対する就職先からの評価は、即戦力として使える学生として喜ばれている。「採用するなら常葉短大の学生を」という声が多く、ここ数年私立幼稚園協会の調査による採用状況では、短大生の約3分の1が本学科生である。このことは本学科の教育指導及び学生が高く評価されているものと受け止めている。

4) 音楽科

専門就職の気持ちがあって、コツコツ努力するタイプが多く、社会的にも大きな評価を得ているものと認識している。音楽関係企業からは、笑顔での対応の良さなどを含めて評価を得ている。一方、在学中の舞台での演奏からくる自己表現法で得た「努力と感性と度胸」などが認められて、一般企業からの求人もある。

5) 専攻科

就職先、進路先からの評価はおおむね良好であり、問題はないかと思われる。ただ現状に満足することなく、専門性を生かす進路を切り開いてほしい。例えば大学院に進学すること、海外に留学して活躍することなどを期待している。四年制大学と同じ資格を有するので、これと対等に競争する実力をつけてもらいたい。

(3) 卒業生に対して「学生時代についてのアンケート（卒業後評価等）」等を実施している場合はその概要とその結果を記述して下さい。また教育の実績や効果を確認するための卒業生との接觸、同窓会等との連携等を行っている場合もその取組みの概要と結果について記述して下さい。

本学では平成 17・18 年度（8月と 11月）に、「卒業生の集い」を利用しアンケートを実施した。回答数は平成 17 年度が日本語日本文学科 30 人、保育科 36 人で、平成 18 年度が日本語日本文学科 25 人、英語英文科 23 人、保育科 63 人であった。ただし、音楽科はアンケート調査をしなかった。その主な点に関する概要は、以下のとおりである。

まず、各科で重視された学習内容は、日本語日本文学科が「卒業論文」、英語英文科が「コミュニケーション能力修得」、保育科が「実習」とされた。また 3 科とも、「授業外での教員とのコミュニケーション」は良好とされたが、「自学自習」には低い数値が出た。充実した点では日本語日本文学科で「卒業研究指導」、保育科で「学生同士の交流」が上がり、3 科とも「科目選択の多様性」が上位になった。ただし、日本語日本文学科では「実学性」、英語英文科と保育科では卒業論文が選択科目あるいは科目として存在しないため、論文指導への不足感が見られた。

在学中に身につけた知識・能力・技能を選ぶ問いには、日本語日本文学科で「広い知識や教養」、英語英文科・保育科で「礼儀・マナー」に多くの回答が集まった。一方、3 科とも「外国語能力」「問題解決能力」「リーダーシップ」への回答はわずかとなった。そして、これらの知識・能力が現在の職場でどの程度必要とされるかとの質問には、3 科とも「話し言葉によるコミュニケーション能力」「礼儀・マナー」が多数となり、「外国語能力」「創造性」「リーダーシップ」は必要とされる機会が少ないという結果になった。

職業に関して重視する項目を選ぶ質問では、3 科とも上位に「職場の雰囲気」「通勤の利便性」「時間的ゆとり」等が上がった。一方、「チームでの仕事の機会」「キャリアへの見通し」「社会的評価」などは重視されていない。そして、実際の職場では、3 科の卒業生とも「職場の雰囲気」「通勤の利便性」に満足してはいるが、「将来のキャリアへの見通し」「高い収入」については満足感が少ない。また、保育科では「仕事と家事の両立」への満足度が極めて低かった。

今後、教育や訓練を受ける場合、どのような観点が必要かとの質問には、3 科とも「教養」がトップに上がり、「専攻分野をさらに」「将来の仕事に必要な学習」が続く。ただし、「学位取得」は 3 科とも最低の数値であった。さらに、再び短大で学ぶとすれば、どのような学習形態を希望するかという問いには、3 科とも「資格取得のための集中講座」

や「休日の公開講座」に希望が集まり、正規生や科目等履修生への希望は少なかった。また、希望する学習内容については、日本語日本文学科では「芸術・芸能・趣味」、英語英文科では「教養」「職業関係」、保育科では「職業関係」が多数となった。

短大で学んだことがどのように役立っているかという質問には、3科とも「人格発達で」とする回答が最多で、逆に、「長期的なキャリア展望」に役立つとした回答が最少であった。保育科では、「役立つ」とした回答率が多くの項目で高いが、特に「仕事を見つける上で」役立ったとする者が多かった。一方、日本語日本文学科と英語英文科では「仕事をみつける」「長期的キャリア展望」には役立たなかつたとする回答者が多かった。

<参考資料 - 3>「卒業生アンケート調査票等」（「常葉学園短期大学卒業生に関する調査資料」）参照

(4) 卒業生が社会からどのように評価されているか、学科長等、学長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

A) 短期大学全体に対する学長の認識

残念ながら大学全体として組織的に卒業生に対するアンケート等は実施していない。

現在、各科別に1年に一度、前年の卒業生を対象に「卒業生の集い」を実施している。集いのスタイルは若干相違があるが、社会人となった1年目の様子や、悩み等を話し合う有効な会となっている。また、同窓会は年に一度の総会で全科の卒業生が集まる。年齢差もあり話題は必ずしも一致しないが、個別に入る情報は貴重である。

40周年を機に、短期大学として新たな取り組みを検討したい。

B) 各科に対する科長の認識

1) 日本語日本文学科

学生個人からの情報を個別に判断することで、卒業生へのサポートを徐々に固めている。卒業後半年程度で集いを設け、それぞれの現状を話してもらうなどの試みを行っている。また、ネットを通じての毎日の生活報告なども実験的に行い、その中の卒業生同士の連絡から何をサポートすべきかを求めている。間接的にではあるが、職場での評価を推測できると考える。進路先からさすがに日文科卒業生と言われるようになるためには言葉遣い、書写、敬語など鍛える必要のある部分が多いと思われる。ただ、授業の中で漢字の読み書きについては意識的に扱っているので、その成果は最終的には十分についているものと考える。また、卒業生の中には社内報の編集を任される、あるいは、地域奉仕活動の中心になっている者もいる。

2) 英語英文科

本学科の卒業生は、地味ながらも真面目に働くという一定の社会的評価を受けている。中には、卒業後にも明確な目標を維持して勉強や努力を重ね、職場の中核的存在として活躍したり、新たな技能や資格を得てキャリアアップを遂げたり、専門的研究職に就いたりしている者も見られる。しかし一方で、社会常識や実務経験の不足が原因で、自分に自信が持てず消極的になり、職場等から低い評価を受けたり転職をしたりする卒業生もいる。このためにも、本学科の教育目標である「英語でライフデザイン」に基づく職業観の育成も、学科の重要な責務であると考える。

3) 保育科

卒業生の社会からの評価は、極めて高いと感じている。県内で園長・主任格の要職にある卒業生も数多く、本学科の卒業生の社会的貢献は極めて大きいと認識している。

4) 音楽科

県内唯一ということもあり、音楽関係者からは、ある程度の評価を得ている。レベルも一段と向上し、県内でのリーダーとして活躍している卒業生もいる。こうした地方に根付いた音楽教育者・演奏者を育成したいと考えている。

5) 専攻科

本学の専攻科が旧来の専攻科と違い、学位授与機構で認定された専攻科であり、学位授与機構で学士の資格を得れば、四年制と同じ資格が取得できるということが、まだまだ社会で認知されていない面がある。その認知のために学生の就職の際にも主張するよう学生を指導しているが不十分と言わざるを得ない。

【特記事項について】

- (1)この《 教育目標の達成度と教育の効果》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、
教育目標の達成度と教育の効果について努力しているがあれば記述して下さい。

期教育実習辞退勧告基準の運用

教員免許の取得については、教育実習辞退勧告の規程を設け、学力・人物とともに一定の水準を求め、もしそのレベルに達していない場合には、辞退勧告を行い、実習を取りやめさせることもある。また、音楽療法士については、教員免許同様に、人物や成績による選定を行った後実習に行かせており、資質の向上に努めている。平成 18 年 7 月の「教員養成・免許制度のあり方について」の中教審の答申を受け、今後さらに検討していく予定である。

《 学生支援》の記述及び資料等について

【入学に関する支援について】

- (1)入学志願者に対し、短期大学は建学の精神・教育理念や設置学科等の教育目的・教育目標、求める学生像をどのような方法、手段で明示しているかを記述して下さい。なおそれらが記載されている短期大学案内等の印刷物を添付して下さい。

「入学案内」や「ホームページ」等に記載し、キャンパス見学会や入試相談会等で、直接受験生に説明する機会を作り、本学の建学の精神・教育理念や各学科の教育目的・教育目標、求める学生像を理解させ、入学の意志を固めてもらう努力をしている。

<添付資料 3 > 「短期大学案内」参照

- (2)入学志願者に対し、入学者選抜の方針、選抜方法（推薦、一般、AO入試等）をどのような方法、手段で明示しているかその概要を簡潔に記述して下さい。なおそれらが記載されている募集要項等の印刷物を参考資料としてご準備下さい。

「学生募集要項」「ホームページ」に明示している。入学志願者に対して各学科の入試日程や受験科目、選抜方法、入学手続き方法等を記載し、キャンパス見学会や入試相談会等で周知徹底している。さらに「入試に関するQ & A」により全科共通及び各科ごとの選抜方法について分かりやすく記載している。

(3) 広報及び入試事務についての体制(組織等)の概要を記述して下さい。また入学志願者、受験生等からの問い合わせにはどのような体制で応じているかを記述して下さい。

広報及び入試事務については、学長・副学長・学生部長及び各科長と事務職員から組織する「入試委員会」で広報や入試戦略を検討している。その実行に当たっては入試課を設置し、常時3名の専任職員を置いて受験生に対応している。

毎年学生募集のための高校訪問を開始する前に、全教職員を対象に入試説明研修会を実施し、問い合わせや入試相談会、高校訪問等に際しては共通認識をもって対応している。

(4) 願書受付から合否通知にいたる入学試験の流れについて、選抜方法ごとにその概要を記述して下さい。また多様な選抜を公正かつ正確に実施しているかどうか、入試事務の責任者は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。入学願書等を参考資料としてご準備下さい。

本学では、以下の入学試験を実施している。

入試区分	実施学科名	入試区分	実施学科名
体験入試A日程	保育科	自己推薦入試	保育科
	音楽科	社会人入試(期)	全学科
学園内入試	全学科	後継者入試(期)	保育科
体験入試B日程	日本語日本文学科	センター利用入試	全学科
	英語英文科	一般入試前期日程	全学科
奨学生入試	全学科	社会人入試(期)	全学科
学校推薦入試	全学科	後継者入試(期)	保育科
指定校推薦入試	全学科	外国人留学生入試	全学科
社会人入試(期)	全学科	一般入試後期日程	全学科
後継者入試(期)	保育科	帰国子女入試	全学科
体験入試C日程	日本語日本文学科	短期大学士・転学科・転入試	全学科
	英語英文科		

体験入学試験A日程の保育科は第一次選考試験と最終選考試験を実施し、第一次選考試験に合格した者が最終選考試験を受験できる。音楽科は夏期講習会で行われる音楽理論実力テストと実技認定試演会の両方、もしくはどちらか一方を受験する必要があり、これを受けると後日、音楽科よりその結果を知らせる認定証が届けられる。この認定証を体験入学試験A日程の願書に添付することで受験できる。学園内入学試験は学校法人常葉学園が実施する学園内統一試験を受験しなければならない。後継者入学試験・帰国子女入学試験・社会人入学試験・外国人留学生入学試験は出願資格確認のために事前に問い合わせをするなど制約のある入学試験があるが、すべて願書受付から合否通知にいたる入学試験の流れについては同じで以下のとおりである。

まず願書は窓口または郵送で受付をし、出願書類の出願資格や資料不足、記入漏れ等を確認した後、受理して受験番号を付記、志願者の情報をパソコン入力する。願書締め切り後、その試験に必要な資料を準備作成して試験を実施する。試験終了後は速やかに科内判定会議資料を作成、科内での合否決定後、入試判定会議資料を作成、学長をはじめ入試委員会メンバーによる入試判定会議の決定を教授会に報告する。合否は、学校推薦・指定校推薦入試に関しては高等学校に、他の入試に関しては受験者本人に通知する。掲示等による発表は行っていない。

選抜の公正かつ正確な実施に関しては、各科ごとの科内判定会議の実施、入試委員会メ

ンバーによる合否判定会議等において、入試委員長及び事務責任者は、それぞれの入試の準備から実施まで深く関与し、入学選抜が公正かつ正確に実施できるよう十分な対応をとっている。近年は問題作成の数も多いが、問題検討の時間を十分にとり、出題ミスがないよう細心の注意を払っている。

入試の選抜に関しては上記のとおりで、現状において大きな問題はないと認識している。

<参考資料 - 1>「募集要項、入学願書等」（「平成 20 年度 学生募集要項」「入学願書」）
参照

(5) 合格者もしくは入学手続き者に対し、入学までの間、授業や学生生活についてどのような方法、手段で情報の提供を行っているかを記述して下さい。なおそのための印刷物等があれば参考資料としてご準備下さい。

合格者からの授業に関する問い合わせや相談についてはその都度、当該学科で口頭やプリント、ホームページなどで情報提供している。音楽科では個人レッスンなども行っている。学生生活、寮や下宿の案内等も口頭やプリント等で随時対応している。

<参考資料 - 2>「入学手続き者に事前配布する印刷物等」参照

(6) 入学後（入学直前を含む）、入学者に対して行っている学業や学生生活のためのオリエンテーション等の概要を示して下さい。

4 月の入学式前に入学オリエンテーションを実施し、本学の概要、入学後の心構え、証明書等諸手続、入学後のガイダンス日程の確認など、入学前の事前指導を綿密に行ってい る。さらに授業開始前のフレッシュマン・キャンプにおいて、各科ごとに履修の方法等の指導を行っている。また、各科で 2 年生を交え、親睦を兼ねて新入生歓迎会を実施している。

【学習支援について】

(1) 入学時もしくは学期ごとに行っている学習や科目選択のためのガイダンス等の概要を示して下さい。

1 年生に対しては入学当初のフレッシュマン・キャンプにおいて 2 年間にわたる教育内容を説明し、将来のライフデザインを踏まえた科目選択のための重要な情報提供をしている。2 年生に対しては授業開講前に同様のガイダンスを行っている。

また、9 月及び 3 月には成績発表のための登校日を設け、クラス担任から直接渡される成績表で単位修得状況を確認させるとともに、後期や次年度に向けての履修に関する相談に対応している。この他にも、免許・資格の取得希望者に対しては、適宜ガイダンスを開催し各科と教務課で連携をとりながら指導を行っている。

(2) 学習や科目選択のための印刷物（学生便覧等を除く）があれば参考資料としてご準備下さい。

「学生生活ハンドブック」「授業内容ガイドブック」（シラバス）の他には、各科ごとに印刷物を作成している。これは科目選択をよりわかりやすく、また免許・資格取得に際して登録を確認できるような資料である。この資料はこれまで各科に委ねていたが、今後は教務課との連携を図り、学生が理解しやすい資料の作り方を検討していく予定である。

日本語日本文学科では入学後の情報提供として「日文ニュース」を刊行している。A4

版4ページの簡単なものであるが、そこで、授業紹介・資格・行事・読書などさまざまな情報を掲載し、学生生活に役立つようにしている。

(3) 基礎学力不足の学生に対し補習授業等の取組みを行っている場合は、その概要を記述して下さい。

組織的な取り組みは行っていない。各科科内会議において、基礎学力の足りない学生等について情報交換をして、各科教員が個別指導に当たっているのが現状である。今後は、学生の現状を把握した上で、日常的な指導も視野に入れ、学生が自主的に取組める学習機会の設定が必要と思われる。

(4) 学生の学習上の問題、悩み等に対し指導助言のための取組みや体制があれば記述して下さい。

全科でクラス担任制をとり対応している。授業担当者から報告される欠席情報等を教務課からクラス担任に伝えるとともに、月数回行われる科内会議内でも情報交換をし、共通理解を図ることで、学生はいつでもクラス担任に相談できる体制を整備している。日本語日本文学科・英語英文科では「オフィスアワー」を実施し、他の学科も授業以外では極力研究室に留まるか、行き先を明示することで、いつでも相談を受けられる体制をとっている。英語英文科では年に2回(前期・後期)、担任が自分のクラスの全学生と個別面接を実施している。

また、平成12年度から学生相談室を設置し、専門のカウンセラーが相談に応じている(件数等、74P参照)。他にも、年に一度保護者会を行い、クラス担任との懇談会や個別面談を実施している。

今後は、学生相談室の開設日を増やしたり、「オフィスアワー」を全学的に実施したりすることで、相談・助言指導ができる体制をさらに充実させていきたい。

(5) 進度の早い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っていれば、記述して下さい。

日本語日本文学科では卒業研究で優秀な学生に対しては、卒業研究発表会の発表者に抜擢し、論文を機関紙に掲載している。英語英文科では「オーラルコミュニケーションAおよびB」「カレッジ英語AおよびB」などの必修科目において習熟度別クラス分けを実施している。その他、国外認定留学を希望する学生で優秀な者(1名)には、規程により故吉田悠紀子元本学英語英文科教授の寄附金により設置されている「吉田悠紀子記念認定留学奨学金」60万円を授与している。また、認定留学中の授業料を半額免除する制度も設けている。音楽科では専攻実技の優秀な学生に対しては、公開レッスンのレッスン生や定期演奏会・卒業演奏会の演奏者に抜擢している。

専攻科国語国文専攻では、優れた修了論文は機関誌に全文掲載している。保育専攻では修了論文の優秀な学生は、全国保育士養成協議会関東ブロックの学生研究発表会に推薦し発表している。音楽専攻では、実技の優秀な学生に対して、公開レッスンのレッスン生や定期演奏会・修了演奏会の演奏者に抜擢している。

【学生生活支援体制について】

(1) 学生生活を支援するための組織や体制(教員組織、事務組織のいずれも)の現状を示して下さい。

本学においては、クラス担任、学生委員会、学生課が学生生活をサポートし、指導する体制をとっている。クラス担任はスチューデントタイムや校内行事をとおして、学生と交流しながら学生の相談にのり、指導を行っている。学生委員会は学生生活全般に対する指導の基本方針を検討・提案するとともに、学生会・クラブ活動等の学生の自主的な活動や寮の安全・管理などに関する指導を行っている。なお、大学祭（橘香祭）については、平成17年度より教職員による大学祭支援プロジェクトが組織され、学内イベント・バザー・模擬店等のイベントごとにプロジェクト教員を配し、学生の相談にのるなどのサポート体制をとっている。学生課は学生課長を中心に学生の生活に関する日常的な窓口として対応、指導している。これら学生生活のサポートと指導の全般を監督しているのが学生部長である。以上のように本学の学生生活の支援はきめ細かいサポート体制ができていると認識する。

(2) クラブ活動の現状、学友会の現状、学園行事（学園祭、短大祭等）の実施の状況を、その指導体制及び学生の活動状況を含めて記述して下さい。

1) クラブ活動の現状

平成19年5月現在で、文化系クラブ16団体、体育系クラブ10団体が活動している。施設・設備の制限があるにもかかわらず、学科の特性を生かした合唱部、吹奏楽部、能楽部、児童文化研究部、マーチングバンド部などが活発に活動している。また、体育系クラブは例年、私立短期大学協会主催の大会に参加しており、バスケットボール部など好成績を上げている。平成16年度より保育科に男子学生が入学するようになり、体育系クラブが活性化されてきている。

各クラブは年度始めに部長・副部長・会計を選出し、名簿及び年間活動計画書を提出し、年度末に会計報告の提出を義務付けている。クラブハウスは5号館(体育館)西側にあり、24室の部室がある。

近年の傾向として授業やアルバイトに多忙のため、放課後に活動する時間的余裕がない学生が増え、各クラブとも部員の確保に問題をかかえている。平成18年度の学生生活アンケートによると、クラブに所属している学生は24%にすぎず、入りたいクラブがないと答えた学生が40%もいた。これは魅力あるクラブ作りの面にも課題があるといえよう。69%の学生がアルバイトをしていることとクラブ活動の低迷とは因果関係がありそうだ。

平成18年度クラブ一覧

【文化系クラブ】

クラブ名	部員数	主な活動内容
茶道部	10	伝統文化に触れ、礼儀作法の体験をする。
箏曲部	3	箏の琴の演奏を初步から学び、伝統文化を体得する。
ボランティア部	13	病院・療養所等で学習ボランティア、食事の介助をし、救急法も学ぶ。
ピオトープ研究会	休	
美術部	5	絵画制作の楽しさを知る。
児童文化研究会(ピッポ)	10	自閉症児者とのキャンプ、学内行事や地域の子ども会・保育所・幼稚園での夏祭り・クリスマス会等の行事で人形劇を行い、子どもとのふれあいの場を持つ。
合唱部	4	各施設への慰問コンサート、ランチタイムコンサートなどの活動もする。
吹奏楽部	48	音楽科の学生を中心、学外での演奏活動を行う。
デジタルメディア研究会	4	授業では学べない学習をし、子ども教材作成を目指す。
能楽部	4	能楽鑑賞会会長の指導の下、能の仕舞を学ぶ。
MK 同好会	2	清水みなとかっぽれに参加。(みなとかっぽれ同好会)

T K C	30	橘香祭や子ども広場で英語劇を行う。
カルタ部	休	
Open Space	休	
軽音部	23	ランチコンサートなど軽音楽のコンサート活動をする。
エアライン＆リゾート研究会	24	空港見学・ホテル等のリゾートを巡り、実態をみて研究する。

[体育系クラブ]

ダンス体操部	休	
テニス部	42	静岡県及び全国私立短大体育大会出場に向け練習、上位入賞を目指す。
バドミントン部	8	静岡県私立短大体育大会出場に向け練習、上位入賞を目指す。
バスケットボール部	9	学生リーグ等の公式戦に参加、静岡県及び全国私立短大体育大会出場、上位入賞を目指す。
バレーボール部(女子)	14	静岡県及び全国私立短大体育大会出場、上位入賞を目指す。
(男子)	10	
スキー部	22	白銀の世界の中で、技術向上に取り組む。
柔道部	休	
マーチングバンド部	28	全国大会出場を目指し練習する。
水泳部	2	泳ぐことのおもしろさ、楽しさを知り、体力向上をはかる。

2) 学生会の現状

学生生活の充実と学生間の親睦を図るため、学生の学内団体として学生会が組織されている。年2回（前期・後期）学生大会を開催し、役員の選出、事業計画と予算の承認をしている。その他の事業としては1泊2日の遠足（ディズニーリゾートなど）、大学祭（橘香祭）などを行っている。これらの管理運営はすべて学生会によって行われている。

3) 大学祭の現状

本学の大学祭は「橘香祭」（きっかさい）と称し、毎年11月中旬の土・日曜日に実施している。学生会の大学祭実行委員会が企画・運営し、教職員による大学祭支援プロジェクトのサポート体制のもと、多くの模擬店、ステージ公演、学科の特色を生かしたイベントなどが行われている。

全体的にみてやや模擬店に偏りがちで、内容の多様性と文化的な志向について課題を残す。学生の企画力や指導力も年々低下しており、教職員のサポートを必要としているのが現状である。

橘香祭テーマ一覧

回	年度	テーマ
第38回	平成16年度	Love & Peace
第39回	平成17年度	粋
第40回	平成18年度	百花繚乱

(3) 学生の休息のための施設・空間、保健室、食堂、売店の設置の概要について記述して下さい。なお訪問調査の際にご案内いただきます。

1) 学生の休息のための施設・空間

7号館1F（食堂、シトラスホールと称す）、2F（多目的ホール）、1号館1Fロビー、シトラスガーデン、ビオトープ、5号館南側にベンチ、ソファーなどが設置されており、学生の休息場所となっている。特に7号館2Fの多目的ホールは、床がフローリング仕様で一部にカーペットを敷いており、小机やクッションを置いてあるのでくつろげる空間となっている。

前述の学生生活アンケートによれば、シトラスホールについての満足度は高い。しかし、食堂は昼食時に学生で満員となり、自分の居場所がないと感じる学生もいるようだ。学生の休息空間は、まだ十分とは言えない。

2) 保健室

保健室にベッドが2台設置しており、一時的に休養できる。ただし、常勤の看護師や養護教諭がないので、近隣の病院を緊急指定病院とし、対応している。状況に応じて学生を病院に連れて行く他、学内でのケガや体調不良に対しては応急措置として、学生課に薬を常備してある。

保健室利用状況(人数)

適応	平成16年度	平成17年度	平成18年度
応急処置	58	18	44
薬服用	50	44	35
検温	7	12	11
休養(ベッド利用)	12	18	20
病院(搬送)	8	5	4
合計	135	97	114

3) 食堂・売店

学生食堂は授業期間内の午前8時30分～午後6時まで営業し、日替わりランチや各種ランチ、企画メニュー、カレーライス、蕎麦、ラーメン等のメニューを提供している。フライドポテト、手作りドーナツ等のスナックも用意されており、家庭的な味で好評を得ている。問題は食堂の座席数(学生専用の席数は1Fに281席)が少ないという点である。一方、値段が高いというアンケートの結果が出たのを受けて、平成18年9月から9品目の値引きをした。量が多いという意見もあったので、量を減らすことで対応した。

売店は授業期間の午前10時～午後3時まで営業し、スナック類・パン類・文具・書籍・その他の日常品を扱っている。アンケートによると売店の満足度はますますである。

なお、昼食時の食堂の混雑を回避するため、一般教室の一部を「昼食を取ってよい教室」に指定し、開放している。

<参考資料 - 4>「学生生活の満足度について」(「平成18年度学生生活アンケート報告書」)
参照

(4) 短期大学が設置する学生寮の状況、下宿・アパート等の宿舎の斡旋の体制、通学のための便宜(通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等)の概要を示して下さい。

1) 学生寮の状況

遠隔地からの入学者に対して、学生寮(常葉寮、グリーンハウス)が設置されている。2つの寮は同じ敷地内にあり、短大まで徒歩3分という好位置にある。常葉寮は全15室あり、1室4人定員だが、現在1室当たり2～3名が入室している。格安な家賃で部屋を提供するだけでなく、共同生活をとおして自主性・協調性を育成する意図もある。また、ピアノの習得を必要とする音楽科・保育科・英語英文科幼児英語コースの学生のレッスンのために、本学のピアノ練習室を夜間開放し、技術の向上を目指す寮生の便宜を図っている。

グリーンハウスは平成15年4月に新築された全21部屋のワンルームタイプの建物で、

一人暮らしによる自己管理と自立の能力を培う意図がある。1階にはピアノ練習室（6室）があり、寮の中で練習できるようになっている。現在は満室である。寮には管理人が常住し、防犯のため監視カメラを設置し、寮生が安心して生活できる環境づくりを行っている。

寮は、学生委員会の教職員の指導助言のもと、寮生の自主的な活動によって運営されている。

2) 下宿・アパート等の斡旋

法人常葉学園が運営する「常葉学園学生寮」（平成19年度5名）と、指定下宿3軒（平成19年度21名）の斡旋業務を学生課で行っている。

3) バス通学

通学バスは廃止したが、バス会社と交渉して短大正門前に停留所を設け、バス通学の学生の便を図っている。JR静岡駅から「短大正門前」までのバスの運行は、1時間に約1本程度である。約40%の学生が利用している。

4) 駐輪場の設置状況

本学学生の自転車・バイク利用の通学状況は、自転車利用が約30%、バイク利用が約11%である。これに対応すべく自転車用駐輪場を隣接の橘高校水泳場脇に18台分、本館北側に48台分、2号館西側に55台分、5号館北側に40台分設置しており、バイクは橘高校水泳場隣に68台分の専用駐輪場を設置してある。しかし、近年バイク通学の学生が増えており、平成18年3月に12台分のバイク用スペースを増設したが、それでも飽和状態にある。駐輪スペースの確保が課題と言える。

(5) 平成18年度の日本学生支援機構等の外部奨学金の取得状況を記述して下さい。また短期大学独自の奨学金等があればその概要を記述して下さい。

本学では、日本学生支援機構の外部奨学金と本学独自の奨学金が取得できる。
奨学金の種類と受給者実績は以下のとおりである。

1) 日本学生支援機構奨学金

種類：第一種奨学金（自宅通学53,000円／自宅外通学60,000円、無利子）

第二種奨学金（3万、5万、8万、10万円、有利子）

受給者実績

	平成16年度		平成17年度		平成18年度	
	本科	専攻科	本科	専攻科	本科	専攻科
第一種	62	18	64	11	55	12
第二種	80	5	88	3	87	7
計	142	23	152	14	142	19

2) 常葉学園短期大学同窓会奨学金

支給対象は、本学に在学する専攻科生で、学業が優秀で学費の支払いが困難と認められる者。月額3万円で年2回に分けて貸与している。

同窓会奨学金は返還義務があり（無利子）、対象が専攻科生に限られているが、専攻科生で経済的に困っている学生にとっては有意義な制度である。

受給者実績

	平成16年度	平成17年度	平成18年度
人数	1	0	1

3) 獎学生入試による奨学金

入学試験の一つに奨学生入試による奨学金支給がある。各科ごとに決められている募集人数に応じた上位合格者に支給する。奨学金は年間30万円で、原則2年間支給される。返還の義務はない。過去3ヶ年の募集人数と支給実績は以下のとおりである。

奨学生入試による奨学金支給実績 (平成 16 年度 ~ 平成 18 年度)

	平成 16 年度		平成 17 年度		平成 18 年度	
	募集人数	入学者	募集人数	入学者	募集人数	入学者
日本語日本文学科	5	4	5	2	3	3
英語英文科	5	3	5	4	3	3
保育科	5	4	5	5	5	4
音楽科	5	3	5	2	3	2

(6) 学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制の概要を示して下さい。

・ 学生相談室

近年、心の不調や悩みを持つ学生が増加しているため、平成12年度より学生相談室を設置した。臨床心理士の資格を有する非常勤のカウンセラーが、週3日(火・水・金曜日)勤務し、学生の悩みや心の相談、学業や進路の不安等にきめ細かく対応している。

相談の申し込み方法は、直接、学生相談室に行く、メールで申し込む、学内ネットの「学生相談室のホームページ」から申し込む、「相談申し込みカード」用紙に必要事項を記入し、学生相談室のポストに投函する、という4種類があり、安心して利用できるようになっている。

学生相談室があることを学生に周知させ、気楽に相談できる環境づくりも大事で、近年不安定さを増す学生の精神面を考えると、今後重要度が増していくものと思われる。

学生相談室利用状況

()は、延べ人数

	日文科	英文科	保育科	音楽科	合計
平成 16 年度	10(46)	1 (5)	6(33)	3(14)	20 (98)
平成 17 年度	12(43)	10 (42)	13(49)	2 (5)	37(139)
平成 18 年度	9(46)	11(105)	6(42)	0	26(197)

(7) 学生支援のために学生個々の情報等を記録していれば、それらはどのように保管・保護されているかを記述して下さい。

1) 学生生活実態調査書

本人・家族現住所・連絡先、保護者情報、保証人情報、家族状況、入学前の学歴・職歴を明記し、学生の生活環境に関する情報を記入する。入学時に2部提出してもらい、担任教員が1部、学生課が1部を管理し、担任研究室及び学生部から外部に持ち出すことは禁止する等情報管理を徹底している。教員、学生部、事務部が学生への連絡や生活指導の際に閲覧する。

2) 学生情報検索システム

学生生活実態調査書をもとに、学生の学生番号・所属・性別・生年月日・現住所・連絡先、保護者氏名・住所・連絡先からなる名簿に替わる検索システムで、学生課が管理している。教職員が諸連絡のために閲覧している。なお、閲覧のためにはログインIDとパス

ワードが必要であるため、学生はもとより第三者が閲覧することはできない。

<参考資料 - 5>「学生の個人情報を記録する様式」(「学生生活実態調査書」) 参照

【進路支援について】

(1) 過去3ヶ年(平成16年度～18年度)の就職状況を学科等ごとに記載して下さい。また
進路一覧表等の印刷物があれば参考資料としてご準備下さい。

本学の過去3ヶ年の科別就職状況は以下のとおりである。

日本語日本文学科の進路状況表

(平成19年3月31日現在)

	平成16年度	平成17年度	平成18年度
a 卒業生数	83人	74人	77人
b 就職希望者数 b/a	62人 (74.7%)	53人 (71.6%)	60人 (77.9%)
c うち学校で斡旋した就職者数 c/b	22人 (35.5%)	20人 (37.7%)	15人 (25.0%)
d うち自己開拓分の就職者数 d/b	27人 (43.6%)	19人 (35.9%)	28人 (46.7%)
e 就職未定者 e/b	13人 (21.0%)	14人 (26.4%)	17人 (28.3%)
f 進学・留学希望者数 f/a	12人 (14.5%)	18人 (24.3%)	11人 (14.3%)
g 進学・留学生 g/f	11人 (91.7%)	16人 (88.9%)	10人 (90.9%)
h 進学・留学準備中 h/f	1人 (8.3%)	2人 (11.1%)	1人 (9.1%)
i その他進路決定者 i/a	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
j 不明・無業者数 j/a	9人 (10.8%)	3人 (4.1%)	6人 (8.1%)

英語英文科の進路状況表

(平成19年3月31日現在)

	平成16年度	平成17年度	平成18年度
a 卒業生数	112人	79人	85人
b 就職希望者数 b/a	88人 (78.6%)	65人 (82.3%)	72人 (84.7%)
c うち学校で斡旋した就職者数 c/b	27人 (30.7%)	24人 (36.9%)	29人 (40.3%)
d うち自己開拓分の就職者数 d/b	49人 (55.7%)	28人 (43.1%)	40人 (55.5%)
e 就職未定者 e/b	12人 (13.6%)	13人 (20.0%)	3人 (4.2%)
f 進学・留学希望者数 f/a	10人 (8.9%)	7人 (8.9%)	11人 (12.9%)
g 進学・留学生 g/f	9人 (90.0%)	3人 (42.9%)	11人 (100.0%)
h 進学・留学準備中 h/f	1人 (10.0%)	4人 (57.1%)	0人 (0.0%)
i その他進路決定者 i/a	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
j 不明・無業者数 j/a	14人 (12.5%)	7人 (8.9%)	2人 (2.4%)

保育科の進路状況表

(平成19年3月31日現在)

	平成16年度	平成17年度	平成18年度
a 卒業生数	203人	258人	239人
b 就職希望者数 b/a	180人 (88.7%)	244人 (94.6%)	212人 (88.7%)
c うち学校で斡旋した就職者数 c/b	111人 (61.7%)	134人 (54.9%)	119人 (56.1%)
d うち自己開拓分の就職者数 d/b	68人 (37.8%)	103人 (42.2%)	92人 (42.2%)
e 就職未定者 e/b	1人 (0.5%)	7人 (2.9%)	1人 (0.5%)
f 進学・留学希望者数 f/a	18人 (8.9%)	11人 (4.3%)	23人 (9.6%)
g 進学・留学生 g/f	18人 (100.0%)	11人 (100.0%)	23人 (100.0%)
h 進学・留学準備中 h/f	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
i その他進路決定者 i/a	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
j 不明・無業者数 j/a	5人 (2.5%)	3人 (1.2%)	4人 (1.7%)

音楽科の進路状況表

(平成 19 年 3 月 31 日現在)

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
a 卒業生数	44 人	49 人	42 人
b 就職希望者数 b/a	17 人 (38.6%)	16 人 (32.7%)	17 人 (40.5%)
c うち学校で斡旋した就職者数 c/b	5 人 (29.4%)	4 人 (25.0%)	4 人 (23.5%)
d うち自己開拓分の就職者数 d/b	6 人 (35.3%)	8 人 (50.0%)	8 人 (47.1%)
e 就職未定者 e/b	6 人 (35.3%)	4 人 (25.0%)	5 人 (29.4%)
f 進学・留学希望者数 f/a	20 人 (45.5%)	28 人 (57.1%)	24 人 (57.1%)
g 進学・留学生 g/f	20 人 (100.0%)	26 人 (92.9%)	22 人 (91.7%)
h 進学・留学準備中 h/f	0 人 (0.0%)	2 人 (7.1%)	2 人 (8.3%)
i その他進路決定者 i/a	1 人 (2.3%)	1 人 (2.0%)	0 人 (0.0%)
j 不明・無業者数 j/a	6 人 (13.6%)	4 人 (8.2%)	1 人 (2.4%)

専攻科国語国文専攻の進路状況表

(平成 19 年 3 月 31 日現在)

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
a 卒業生数	6 人	5 人	5 人
b 就職希望者数 b/a	6 人 (100.0%)	5 人 (100.0%)	4 人 (80.0%)
c うち学校で斡旋した就職者数 c/b	3 人 (50.0%)	2 人 (40.0%)	3 人 (75.0%)
d うち自己開拓分の就職者数 d/b	1 人 (16.7%)	3 人 (60.0%)	1 人 (25.0%)
e 就職未定者 e/b	2 人 (33.3%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
f 進学・留学希望者数 f/a	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)	1 人 (20.0%)
g 進学・留学生 g/f	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
h 進学・留学準備中 h/f	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)	1 人 (100.0%)
i その他進路決定者 i/a	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
j 不明・無業者数 j/a	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)

専攻科保育専攻の進路状況表

(平成 19 年 3 月 31 日現在)

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
a 卒業生数	19 人	7 人	15 人
b 就職希望者数 b/a	18 人 (94.7%)	7 人 (100.0%)	15 人 (100.0%)
c うち学校で斡旋した就職者数 c/b	10 人 (55.6%)	2 人 (28.6%)	7 人 (46.7%)
d うち自己開拓分の就職者数 d/b	8 人 (44.4%)	5 人 (71.4%)	8 人 (53.3%)
e 就職未定者 e/b	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
f 進学・留学希望者数 f/a	1 人 (5.3%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
g 進学・留学生 g/f	1 人 (100.0%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
h 進学・留学準備中 h/f	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
i その他進路決定者 i/a	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
j 不明・無業者数 j/a	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)

専攻科音楽専攻の進路状況表

(平成 19 年 3 月 31 日現在)

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
a 卒業生数	31 人	18 人	14 人
b 就職希望者数 b/a	15 人 (40.0%)	17 人 (94.4%)	8 人 (57.1%)
c うち学校で斡旋した就職者数 c/b	4 人 (26.7%)	5 人 (29.4%)	1 人 (12.5%)
d うち自己開拓分の就職者数 d/b	9 人 (60.0%)	7 人 (41.2%)	6 人 (75.0%)

e 就職未定者	e/b	2人 (13.3%)	5人 (29.4%)	1人 (12.5%)
f 進学・留学希望者数	f/a	7人 (22.6%)	0人 (0.0%)	1人 (7.1%)
g 進学・留学生	g/f	7人 (100.0%)	0人 (0.0%)	1人 (100.0%)
h 進学・留学準備中	h/f	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
i その他進路決定者	i/a	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
j 不明・無業者数	j/a	9人 (29.0%)	1人 (5.6%)	5人 (35.7%)

(2) 学生の就職を支援する組織や体制(教員組織、事務組織のいずれも)の現状を記述して下さい。

ライフデザインセンター(LC)：ライフデザインセンターでは単に目先の就職ということだけでなく、学生が自分の進路や生き方を切り開き、生きていく力、すなわち「ライフデザイン力」を身につける支援をしている。そのためにスタッフは社会環境や企業動向、学生活動状況など学内外の変化を常に意識している。すなわち、LCとは学生に自らの将来展望を考えさせ、それに対応するためのさまざまな支援プログラムを提案・計画・実施する実行機関である。また、卒業時までに進路決定しなかった学生に対しては、卒業後も情報提供や個別相談に乗るなどの支援を続けている。

ライフデザインセンターは、センター長以下、次長・課長・事務職員2名・キャリアカウンセラーの6名で組織される。

LC運営委員会：本委員会はライフデザインセンターからの提案事項の検討、各科・課の対応策との調整を図りながら本学全体のライフデザイン計画案の策定、学生の「ライフデザイン力」を育成するための支援策を検討する運営機関である。

構成メンバーは、LC運営委員長・学生部長・ライフデザインセンター長・各科主任・ライフデザインセンターナ次長・ライフデザインセンター課長・専攻科長・教務課長・学生課長・入試課長の13名で組織される。

各科での支援：各科ごとの特色を生かした授業や個別指導の中で支援していくと同時に、1年次の2月～3月に行っている研修センターゼミ、各科独自の研修や行事、そして個人面接を実施し、個々の学生の活動状況に合わせた対応をしている。

(3) 就職支援室、就職資料室等の現状を示し、学生にどのように就職情報等を提供しているかを記述して下さい。

早期進路意識醸成のために：早期からの進路意識醸成のために1年次前期の進路を考え始める講座を皮切りとして、業界・職種と実際の業務内容を理解し、自らの進路選択や就職活動に生かすべく以下の支援策を順次実施しており、学生の進路意識の向上と同時にライフデザイン力を身につける教育を目指している。

- ・ライフデザインゼミナール**（1年次前期授業科目） 自らを知り、進路を考え始めることが必要性を理解させる授業で、LCスタッフが支援する。平成18年度まではLCゼミとして10回開講していた。

- ・職業と人生**（1年次後期10月～1月の授業科目） 学生の就業意識啓発を目的として、各業種の企業人を講師とした授業。

- ・常葉短大企業説明会**（職業と人生の授業の一環、11月実施） 業界や仕事の理解と企業担当者との面談の訓練を目的としている。

- ・キャリアアップ講座**（1年次10月～1月実施、全10回） 職業意識の高揚と実践的な就職活動対策を目的とした講座。

- ・**就職大作戦**（保護者向けに毎年9月実施） 就職特別講演と就職状況の説明を行い、保護者の理解と協力を要請する。
- ・**外部講師・先輩による特別講演**（1年次11月実施） 就職活動に対する心構え等に関する特別講演会。
- ・**就職内定者による体験報告会**（一般企業12月、保育関係1月実施） 就職に対する考え方を学び、活動方法を理解し、今後の参考にする。
- ・**個人面接**（1年次1月、2年次5月実施、保育関係進学希望者以外全員） 学生の状況を把握して、適切な指導を行う。
- ・**キャリアカウンセラーによる個別相談**（毎週月・水曜日） 進路意識の低い学生や不安・悩みを持っている学生のための個別相談。
- ・**春休み就職ミニ講座**（1年次2月～3月実施、8回～10回） 合同企業説明会への参加心得、エントリーシートの書き方、面接試験対策など具体的な就職活動を行うための講座。
- ・**ジョブウォッチング**（1年次9月実施、今後2月・3月も実施予定） 企業を訪問し、実際の仕事振りを実見し、仕事への理解と意欲を高める。
- ・**カフェ・ド・LC**（平成18年度より新規実施、2ヶ月に一度程度実施） 学生が進路や学生生活に対する不安・悩みなどを話せる場として、また学生同士の交流の場として、学園生活の活性化を図ることを目的とする。
- ・**宅配ライフデザイン**（保護者向けのチラシ配布、4月・9月・1月発行） ライフデザインセンターの考え方や取り組みを紹介し、本学と保護者の協力の重要性を理解してもらうことを目的として発行。

就職・資格等対策基礎講座

- ・**数学の世界・科学と文明**（前期授業科目） 就職試験や公務員採用試験に必要とされる基礎学力の育成強化のため開講。
- ・**公務員講座**（1年次9月～3月、2年次4月～7月開講） 公務員採用試験対策講座。
- ・**就職模擬試験・適性テスト**（1年次11月実施） 基礎学力と職業適性を知るために実施。
- ・**公務員模擬試験**（2月・4月・5月・7月実施） 公務員採用試験に備えて計4回実施。

就職情報の提供方法

- ・**就職進路ガイダンス** 一般企業は1年次7月から2年次10月まで計10回実施。保育関係は1年次11月から2年次11月まで計8回実施
- ・**求人票の掲示とファイリング** 一般企業・保育所・幼稚園それぞれの求人票は業種別・地域別に指定場所に掲示及びファイルをし、また公務員の募集要項も官庁別・地域別にファイルして、学生が自由に閲覧できるようにしている。
- ・**携帯電話情報サービス** 求人情報の提供を希望する学生には、携帯電話に求人情報を配信している。
- ・**就職ガイドブック** 就職に関する必要事項を冊子にまとめ、全学生に配布している。
- ・**パソコンの設置** インターネットに接続されたパソコン4台を設置し、自由に利用できる。

・その他資料など ライフデザインセンター内の企業・園のパンフレット、卒業生の受験報告書などは自由に閲覧でき、また各種受験参考図書は貸出も可能になっている。

(4)過去3ヶ年(平成16年度～18年度)の就職状況について、就職率及び就職先を学長等、学科長等はどのように受け止めているかを記述して下さい。

A)短期大学全体に対する学長の認識

就職に関しては各科の特徴が現れてくる。入学がそのまま就職につながる保育科と必ずしもつながらない日本語日本文学科、英語英文科、音楽科とはやはり最終的な割合が変わってくる。3ヶ年の平均就職率が、日本語日本文学科74.8%、英語英文科87.4%、保育科98.3%、音楽科70.1%、全科の合計が82.6%という数値はおおむね良好であると考える。音楽科の数値がやや低いのは、専攻した楽器の専門性を高めるため、定職につかない学生がいるためである。今後はさらに学生の意識を高める方策が必要であると考えている。

B)各科に対する科長の認識

1)日本語日本文学科

ここ数年の進路として就職でなく、さらに勉学を続ける傾向が見られる。短大での学習が最終目標でなく、そこで啓発された部分をより高める意欲が生まれたものと判断される。

就職については一般企業中心、それも営業や販売の比率が高まっている。地元企業でも事務職には四年制大学卒業生が採用され、短大生は販売などが多くなっているが、学生の就職への意欲・関心を喚起することが必要と考える。

学生の現状を把握するために各種相談制度を設けている。ライフデザインには知識だけでなく、体験を積むことも大切であり、インターンシップを含めた実務系、さらには、人との触れ合いの能力を高めるための授業・講座を模索している。キャリアを組み込んだカリキュラムも整備中である。

2)英語英文科

ここ3ヶ年度の就職率(3月末)は、約85%前後で推移している。総体的には本学科の学生は、短大新卒者に対する近年の雇用形態の変化(契約・派遣職化)等に起因する厳しい就職状況の中で、よく健闘していると言えよう。観光・ビジネスコースを中心とした一般企業への希望者は、サービス業・卸小売業などの業種を中心に就職している。幼児英語コースで幼稚園教諭二種免許状を取得し、幼稚園への就職を希望する者は、平成16年度88%、平成17年度100%、平成18年度100%という就職率を達成した。

一方、3月末の時点で進路が確定しない学生も、毎年1割～2割程度いる。この中には、将来の留学のため敢えてアルバイト等を選ぶ者も含まれる。しかし、不採用の繰り返しで自信を喪失し、就職活動に消極的になる者、担任等の指導を受けても意欲的に就職活動をしない者も見られ、対応に苦慮している。

3)保育科

多くの学生が入学時より保育者になることを目的としているため、自分の進路に向かって取り組む姿は他の学科とおのずから違っているように思う。伝統的に高い就職率が示されているので、これからも一人一人の夢が実現できるよう質の高い教育をしていきたい。

4)音楽科

本学科では決して音楽産業にのみ就職するわけではない。音楽を学んだ感性を生かして、他の職業に就職したいという学生も多くいる。また音楽療法士・訪問介護員の資格を生か

して地域の「特別養護老人ホーム」などへの就職も増えている。

5) 専攻科

国語国文専攻の就職状況は一般企業の事務系、兼任講師、公務員などであるが、専門を生かす職業に就職できている学生は少ない。希望する職種につけるよう一層の努力をする必要がある。保育専攻は平成17年度の修了生7名中7名が保育関係に就職しており(100%)学生の希望どおりになっている。音楽専攻はヤマハ、カワイの音楽教室等で教えるのはもちろんのこと、中学校教諭一種免許状を取得して中学校で教えたり、音楽療法士1種や訪問介護員2級の資格を生かして、介護施設等へ就職するなど、仕事の場を広げている。

<参考資料 - 6 >「進路一覧表等の実績(過去3ヶ年)についての印刷物」(「進路一覧表」)
参照

(5) 過去3ヶ年(平成16年度~18年度)の進学(4年制大学、専門学校等)及び海外留学の実績について、その支援はどのような方法、体制で行ったかを記述して下さい。

科別進学・留学実績

(平成16年度~18年度)

日本語日本文学科							
年度	進学・留学生合計	本学専攻科	学園内大学	他大学	専門学校	他大学大学院	留学
16年度	11	5	3	3			
17年度	16	7	5	2	1		1
18年度	10	5	3	1	1		

英語英文科							
年度	進学・留学生合計	本学専攻科	学園内大学	他大学	専門学校	他大学大学院	留学
16年度	9	1	4	2	1		1
17年度	3		1				2
18年度	11	1		7	2		1

保育科							
年度	進学・留学生合計	本学専攻科	学園内大学	他大学	専門学校	他大学大学院	留学
16年度	18	15		2	1		
17年度	11	10	1				
18年度	23	18		4	1		

音楽科							
年度	進学・留学生合計	本学専攻科	学園内大学	他大学	専門学校	他大学大学院	留学
16年度	20	15		4	1		
17年度	26	24	2				
18年度	22	20	2				

専攻科							
年度	進学・留学生合計	本学専攻科	学園内大学	他大学	専門学校	他大学大学院	留学
16年度	8			3	1	3	1
17年度							
18年度	1					1	

日本語日本文学科の進学状況は、ここ数年大きな変化は見られない。一つは専攻科への進学、もう一つは系列を含めた四年制への編入である。

なお、入学時に専攻科への進学を前提とする学士コース制度もある。専攻科への進学実績は卒業生の1割に満たず、また、学士コース入学者の半数にもならない。進学を勧めるなど指導、助言も必要かと思われる。

専攻科修了後大学院への進学を考える学生もあり、その主な受験対策・支援は指導教員に任せられている。

英語英文科は編入・留学に備えた選択科目群を開設する他に、専任教員が個々の学生に助言や受験指導をしている。進学・留学を希望する学生は例年1割前後で、進路は系列大学を含む四年制大学や本学専攻科、あるいは、卒業後（特に数年働いた後）の英語圏留学である。卒業後の留学についても、事前準備で本科教員が支援することがある。

保育科の進学は、他大学への編入もあるが、本学専攻科への進学が中心となっている。本科の学生に修了論文発表会に参加させ、また入学時のフレッシュマン・キャンプ等において専攻科学生の活躍を紹介するなどして、本科学生のさらなる勉学意欲を高めるよう工夫している。平成19年度入学生は定員に近い数になっているが、今後も四年制大学との競合の中で魅力のあるカリキュラムを提示し、科全体で進学希望者への支援を整えていきたいと思っている。

音楽科は専攻科へ進学をする学生が多い。また四年制大学への進学者も、年1~2名いる。海外の音楽教育機関への進学は、ロシア・イタリア・ハンガリーなどへの進学者がいる。留学経験のある教員による指導体制をとっていることや、先輩とのコンタクトで、進学しているのが現状である。また、東京など県外の「音楽研修所」で研鑽を積む学生もいる。

各科の進学及び海外留学の実績については以上であるが、その支援・方法については全学的な取り組み体制は整っていない。多くが各科で対応しているのが実情である。

【多様な学生に対する支援について】

(1) 過去3ヶ年（平成16年度～18年度）の留学生・社会人・帰国子女・障害者・長期履修学生の受け入れ状況を示し、その学習支援、生活支援はそれぞれどのような方法、体制で行っているかを記述して下さい。

なお、学生数はいずれの年度も5月1日時点とします。

多様な学生の受け入れ状況 (平成16年度～18年度)

種別	16年度	17年度	18年度	計
留学生(人)	4	3	2	9
社会人(人)	2	4	3	9
帰国子女(人)	0	0	0	0
障害者(人)	0	0	0	0
長期履修学生(人)	-	-	-	-

社会人の定義：(平成19年度入試の場合)

平成19年3月31日現在満23歳以上の者で、次の各項の一に該当する者。

- 1.高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者。
- 2.通常の課程による12年の学校教育を修了した者。
- 3.外国において、学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
- 4.文部科学大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定した在外教育施設の当該課程を修了した者。
- 5.その他文部科学省令により上記と同等以上の学力があると認められた者。
- 6.高等学校卒業程度認定試験規則により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者。
- 7.相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本学が認めた者。

帰国子女の定義：(平成 19 年度入試の場合)

日本国籍を有し、保護者の海外勤務等の事情により、外国の学校教育を受けている者で、次の(1)～(3)いずれかに該当する者。

- (1) 外国及び日本の正規の学校教育における 12 年の課程を平成 17 年 4 月 1 日から平成 19 年 3 月 31 日までに卒業(修了)した者及び卒業(修了)見込の者。ただし、12 年の課程の最終 4 ヶ年のうち、外国において 2 年以上継続して正規の教育制度に基づく学校教育を受けていること。
- (2) 国際バカロレア資格証書を平成 17 年または平成 18 年に授与された者で、平成 19 年 3 月 31 日までに 18 歳に達する者。
- (3) 相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本学が認めた者。

外国人留学生に対する奨学金とその実績は以下のとおりである。

外国人留学生学習奨励費受給者（日本学生支援機構）

支給額：月額 5 万円（合計 60 万円）

推薦内示数：1 名

年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
人数	1	1	1

外国人留学生教材費受給者（静岡県生活・文化部国際室）

支給額：年額 6 万円

年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
人数	4	2	1

私費外国人留学生授業料减免対象者

年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
人数	9	7	5

私費外国人留学生授業料减免規程：本学園で学ぶ私費外国人留学生に対し、授業料を减免して留学生への経済的負担を軽減し、勉学に専念できるよう援助を目的とした規程。减免額は、年間授業料の 30% 相当額。

その他

学園が定めた協定大学からの協定留学生には、学生寮（常葉寮）を斡旋し寮費（1 万円）を免除している。現在協定留学生は一人も在学していない。

障害者に対しては、8 号館以外はバリアフリーなどできていないので、学内設備として今後の課題である。長期履修学生に対しては、教務委員会の検討を経て学則に定めたばかりで、まだ該当者はいない。学則に基づく運用規定は、平成 19 年度中に協議し、定める予定である。

【特記事項について】

(1) この《 学生支援》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば成績不良者への支援、長期欠席者への援助、学生に対する表彰制度等、学生支援について努力していることがあれば記述して下さい。

1) 成績不良者への支援

定期試験の成績結果を毎回クラス担任から直接学生本人に手渡すことで、指導助言を行っている。また、再試験も実施している。

今後は、基礎学力の向上を図るカリキュラムの見直しや補習等の特別指導について検討して行く必要があると思われる。

2) 長期欠席者に対する援助

現在は、3週間以上欠席せざるを得ない学生を対象として、学生の履修している授業担当者より、本人に対してレポート課題等を与えていた。

3) 学生に対する表彰制度など

平成7年度より福井巖賞（初代音楽科長、音楽科生対象）、平成8年度より木宮乾峰賞（第2代学長）が創設され、人物・成績とも優秀な業績を修めた学生に対して表彰を行っている。この他にも学長による特別表彰、体育大会における表彰を設けている。

4) その他

教職特別講座

教職課程履修者に対して、教職特別講座を開講（平成18年度：年間15コマ）するとともに、専門教科に関する特別講座（平成18年度：日本語日本文学科13コマ、音楽科24コマ）を実施している。

《 研究》の記述及び資料等について

【教員の研究活動全般について】

（1）過去3ヶ年（平成16年度～18年度）の専任教員の研究状況を記載し、その成果について記述して下さい。

専任教員の研究実績表

（平成16年度～18年度）

学科	氏名	役職名	研究業績				国際的活動の有無	社会的活動の有無	備考
			著作数	論文数	学会等発表数	その他（講演等）			
日本語日本文学科	尾崎 富義	教 授	0	0	0	5	無	有	
	繁原 央	"	1	8	8	6	有	有	
	上野 力	"	0	1	0	1	無	無	
	平井 修成	"	0	4	0	6	無	有	
	瀬戸 宏太	助教授	0	1	0	0	無	無	
	小野田 貴夫	講 師	0	5	0	2	無	有	17年度新任
英語英文科	一言 哲也	教 授	3	0	0	6	有	有	
	鈴木 克義	"	1	3	3	4	無	有	
	小田 寛人	助教授	0	2	2	16	無	有	
	市川 真矢	"	0	1	0	1	無	無	
	D・ハント	"	1	1	0	0	無	無	
	永倉 由里	"	8	8	0	21	無	有	
保育科	山本 伸晴	教 授	1	0	0	6	無	有	
	稻葉 昌代	"	0	3	0	17	有	有	
	長崎 イク	"	2	2	3	3	無	有	
	本橋 寿世	"	0	1	0	11	無	有	
	加藤 光良	"	0	0	0	6	無	無	18年度新任
	鈴木 久美子	助教授	1	4	0	0	無	無	
	長橋 秀樹	"	0	0	7	2	無	有	
	加藤 明代	講 師	0	7	1	1	有	有	
	永倉 みゆき	"	0	1	3	7	無	有	
	加藤 弘通	"	6	17	0	14	無	有	
	河原田 潤	"	0	1	0	51	無	有	17年度新任

	竹石 聖子	"	2	3	0	1	無	無	17年度新任
	加藤 寿子	研究助手	0	1	1	1	無	無	
音楽科	桑原 啓郎	教 授	2	0	1	82	無	有	
	A・セメツキー	"	0	0	0	22	有	有	
	真田 光子	"	0	0	0	30	有	有	
	金子 建志	"	2	3	0	18	無	有	
	小林 秀子	助教授	0	0	0	10	有	有	
	高瀬 健一郎	"	0	2	0	8	無	有	
	仲戸川 智隆	"	0	2	0	10	無	有	
	塙本 一実	講 師	6	0	1	11	有	有	17年度新任
教養教育	戸藤 利明	教 授	0	0	0	0	無	無	
	竹中 堯	"	0	0	0	0	無	無	18年度新任
	片山 邦子	助教授	0	0	0	1	無	無	
	巻口 勇一郎	講 師	1	5	0	1	無	無	
	谷口 真嗣	"	0	1	0	10	無	有	17年度新任

〔注意〕 1 . 上表の根拠となる教員個人の研究業績書（設置認可等の際に文部省に提出する様式等を準用。過去3ヶ年分）を訪問調査の際に持見しますのでご準備下さい。

2 . 上表には助手以上の教員について記載して下さい。

<参考資料 - 1 > 「教員個人の研究業績書」

(2) 教員個人の研究活動の状況を公開していれば、その取組みの概要を記述し、公開している印刷物等を訪問調査の際にご準備下さい。

教員個人の研究活動については、平成8年に『研究と教育 個人別一覧』（自己評価委員会編）を刊行した。翌9年からは毎年「紀要」（第28号から開始）に掲載し、現在に至っている。

なお、平成12年刊行の『自己点検・評価報告書 現状と課題』にも当該年度の全教員の研究活動を掲載した。

(3) 過去3ヶ年（平成16年度～18年度）の科学研究費補助金（以下、「科研費」という）の申請・採択等、外部からの研究資金の調達状況を一覧表にして下さい。

外部研究資金の申請・採択状況 (平成16年度～18年度)

外部資金 調達先等	16年度		17年度		18年度	
	申請	採択	申請	採択	申請	採択
科学研究費補助金	2	0	4	1	4	1
その他の外部研究資金	0	0	0	0	0	0

(4) 学科等ごとのグループ研究や共同研究、短期大学もしくは学科等の教育に係る研究の状況について記述して下さい。

特になし。

【研究のための条件について】

(1) 研究費（研究旅費を含む）についての支給規程等（年間の支出限度額等が記載されているもの）を整備していれば訪問調査時に持見します。なお規程等を整備していない場合は、過去3ヶ年（平成16年度～18年度）の決算書から研究に係る経費を項目（研究費、研究旅費、研究に係る施設、機器・備品等の整備費、研究に係る図書費等）ごとに抽出し一覧

表にして参考資料として準備して下さい。

専任教員の研究活動助成のために「研究費」として年間30万円を支給している。内訳は学会等旅費10万円、所属している学会年会費、研究用書籍・消耗品・備品等20万円となっている。会計期間は当該年度の4月から翌年3月までとし、予算の超過・翌年の繰越しは認めていない。

<参考資料 - 4> 「研究費等の支給規程等」（研究費予算執行計画申請書）参照

(2) 教員の研究成果を発表する機会（学内発表、研究紀要・論文集の発行等）の確保について、その概要を説明して下さい。なお過去3ヶ年（平成16年度～18年度）の研究紀要・論文集を訪問調査の際に拝見いたしますのでご準備下さい。

教員の研究成果を発表する機会を確保するため、本学では、年一回、研究紀要を発行している。研究論文を掲載することはもちろん、紀要発行の前年における教員の研究活動などを、一覧として掲載するページを設けている。また、紀要の目次、執筆者の承諾を得た論文本文を、本学ホームページにおいて公開している。

独自に研究誌を発行している学科もある。日本語日本文学科の「常葉国文」「国文瀬名」、英語英文科の「常葉英文」は、そのような研究誌の代表的なものである。

<参考資料 - 5> 「過去3ヶ年研究紀要・論文集」（「紀要」「常葉国文」「常葉英文」等）参照

(3) 教員の研究に係る機器、備品、図書等の整備状況について、平成18年度の決算よりその支出状況を記述して下さい。また訪問調査の際の校舎等案内時に教員の研究に係る機器、備品、図書等の状況を説明して下さい。

消耗備品	916 千円
機器備品	615 千円
図書(視聴覚・雑誌)	2,371 千円

上記表は、研究活動助成のための「研究費」から支出されたものであるが、教育との区分は明確にはしていない。

(4) 教員の教員室、研究室または研修室、実験室等の状況を記述して下さい。なお訪問調査の際に研究室等をご案内願います。

専任教員（助手を含む）には研究室（個室）が与えられ、パソコンの配備及びインターネット対応も完了している。

名称	室数	面積(m ²)
教員室（講師室）	6	213.5
研究室（個人研究室）	47	897.9
実験室（調理実習室・ピアノレッスン室他）	40	639.2

(5) 教員の研修日等、研究時間の確保の状況について記述して下さい。

学内での業務に支障をきたさない範囲で、研修日として一週当たり2日の研究日を設定して研究活動に供している。現状では、役職教員の一部を除き、全員が2日間を研修日に充当している。なお、学外での講演及び兼任教員出講受託等は、研究日を充当するよう

している。

【特記事項について】

- (1) この《研究》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教員の研究について努力していることがあれば記述して下さい

本学教員の研究奨励支援を目的に平成8年「木宮乾峰学術文化振興賞」を設定した。第二代木宮乾峰学長からの寄附金を基金とし、本学教員で学術・教育・芸術の分野において、高い社会的評価を得た者に贈られる。

《社会的活動》の記述及び資料等について

【社会的活動（国際的活動は別項で記述）への取組みについて】

- (1) 社会的活動への取組みについて、その理念や方針等、教育・研究における位置づけについて、短期大学ではどのように考え、また今後どのように取り組む予定かを記述して下さい。

社会的活動に関する具体的な規定は設けていないが、昭和57年から地域社会にむけて公開講座を実施してきた実績を持っている。今後も引き続き内容の充実を図っていきたい。保育科では昭和53年から28年間、毎年現職の保育者を対象に「夏期ゼミナール」を開催し、その時期にあったテーマ設定から、参加者から好評を得ている。これについても継続していく予定である。また、学園の主催として3年に一度「日本国際青少年音楽祭」が開催されているが、短大では英語英文科が通訳として、音楽科がコンサートの企画・運営などで中心的な役割を果たしている。

- (2) 社会人受け入れの状況について、生涯学習の観点から短期大学では社会人の受け入れを今後どのように考えているかを記述して下さい。

社会人の受け入れに関しては、司書資格取得を目的とする科目等履修生が数名いる。保育科では幼稚園教諭免許状、保育士資格の取得をめざして正式に入学してくる社会人は毎年2、3人はいる。今後、退職する団塊の世代を対象に受け入れを検討したいと考えている。

<添付資料4> 「社会人受け入れについての印刷物等」参照

- (3) 過去3ヶ年（平成16年度～18年度）に短期大学が行った地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等の実施状況を記述して下さい。

過去3ヶ年の本学公開講座の概要は下表のとおりである。

本学の公開講座は、昭和57年「公開セミナー」として第一回が開催されている。開催の形態には変化があり、各科独自にその専門性を生かして行われていた時期、全学として企画・実行された時期が、交互に存在した。ここ数年は全学で取り組み開催している（『創立二十年誌』PP260～264 参照）。

全学として行う場合、4科が協同し、かつ予想される聴講者に興味を抱かせるテーマの設定が難しい。特定の科の専門性に依拠しつつ、他の学科は、その専門性を生かした補助的役割を担うのが一般的な傾向となっている（下表参照）。

本学は静岡市の郊外に位置するため、聴講者の来場の便宜を考え、一部の会場を中心

部に移したこともあった（平成 16・17 年度の教養講座）。その結果、聴講者の若干の増加は認められたが、地域社会との緊密な連携、大学施設の有効活用の面で問題を残した。平成 18 年度の教養講座は、学内で行い、託児サービスを設けることで、聴講者の層を広げることができた。

平成 17 年度以降の公開講座は、静岡県教育委員会、静岡新聞社・静岡放送の後援事業となっている。また、「しづおか県民カレッジ」の連携講座もある。

平成 16 年度公開講座		人数
教養講座	統一テーマ：心理学の交差点	
6月5日	「半世紀のこどもはいかに育てられたか？」	11
6月12日	「カウンセリングを考える」	18
6月19日	「大人のなかのこどもの心」	14
	「子供の心として描かれた作曲家の心理」	14
6月26日	「社会病理と司法福祉」	14
	「茶室と宇宙船」	14
実技講座		
パソコン教室		(延べ人数)
5月7日～5月21日	はじめてのパソコン（毎週 金曜日 計 4 回）	65
5月28日～6月29日	はじめてのワープロ＆表計算（毎週 火・金曜日 計 8 回）	115
土を楽しむ（5/6～1/13）	月1回 計 8 回	166
バスケットボール教室	5月から通年 毎週 木曜日	25名

平成 17 年度公開講座		人数
教養講座	統一テーマ：神話から問う混迷の現代	
5月14日	「聖書における若者：自己と他者」	17
5月21日	「神とスポーツ」	13
5月28日	「ワーグナーの<ニーベルングの指輪>にみる相続と部族対立」	18
6月4日	「古事記神話を読む」 - コモリの古代的意義 -	26
6月11日	「嫁姑と継母継子 - 小鳥前生譚を中心に -」	16
6月18日	「現代の渡来人たち」 - アジア系移住者の生き方と日本社会 -	11
6月25日	「心の問題を巡る神話を考える」 - いじめ・死刑・戦争から -	13
実技講座		
パソコン教室	使いこなし編	(延べ人数)
5月9日～6月16日	毎週 月・木曜日 計 12 回	281
バスケットボール教室	5月から通年 毎週 木曜日	25

平成 18 年度公開講座		人数
教養講座	統一テーマ：子育て - このとてつもない大事業！ -	
5月13日	「子育てに疲れたときの対応法は」～一人で悩まないで～	8
5月20日	「虐待としつけの間」	7
5月27日	「朝食、ちゃんと食べてますか」	4
6月3日	「イギリスの子育て」	9
6月10日	「英語が使える日本人を目差す」	16
6月17日	「幼児期のパソコンは、必要なの？」	4

実技講座		
パソコン教室	インターネット使いこなし編	(延べ人数)
5月10日～6月7日	前期日程 毎週 水曜日 計5回	82
10月4日～11月1日	後期日程 毎週 水曜日 計5回	35

(4) 過去3ヶ年(平成16年度～18年度)の短期大学と地域社会(自治体、商工業、教育機関、その他団体等)との交流、連携等の活動について記述して下さい。

平成5年9月から、静岡県図書館協会と「静岡県公共図書館等資料相互貸借に関する協定」が結ばれ相互貸借が開始された。市民利用者については、図書の貸出しあしないが図書館での閲覧のみ受け入れた。

毎年公開講座としてシトラスセミナーを開催し、教養講座やパソコン講習会を実施している。

保育科では県内幼稚園・保育園の教員・保育士を対象に、保育をめぐる今日的課題を取り上げ、公開講座「夏期ゼミナール」を実施している。幼保一元化・公設民営等の現状を紹介しながら、行政と現場の両面から今後の保育動向について討議した。

また、「子育て支援キャンペーン パパママ応援団」(静岡第一テレビ主催)に常葉学園が出展し、学園内の幼児教育にかかる学校が参加した。本学も保育科・日本語日本文学科の教員と学生ボランティアの協力により、レクリエーション・音遊び・絵本の読み聞かせ・子育て相談等を行い、訪れた親子連れに好評であった。

こども総合研究センターでは「子育て広場」を年6回開催し、地域の子育てを支援するとともに、学生にとっても大きな学びの場になっている。また、保育実習支援のため、県内の保育所から派遣依頼があり教員が保育指導に当たった。

音楽科の活動にも特筆すべきものがある。主な活動として、浜松学芸高校・清水南高校・静岡城北高校・沼津西高校など各高等学校への出張コンサート、市内小中学校音楽祭・青葉イルミネーション点灯式・瀬名町内会総会コンサートなど地域イベントへの参加、声楽・電子オルガン・ピアノ・サクソホン・クラリネット等、専攻別公開レッスンがあげられる。

【学生の社会的活動について】

(1) 過去3ヶ年(平成16年度～18年度)の学生による地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等社会的活動の状況を記述して下さい。

1) 地域清掃活動

平成16年度より、創立記念日(6月8日)に全学生による学校所在地の地域清掃活動を行っている。これは地域の環境を整備し、奉仕の精神を培うことを目的としたものである。

2) クラブ活動による社会的活動

以下のクラブがボランティアで地域へ出かけ、さまざまな活動を行っている。

《ボランティア部》ハム太郎の会(自閉症児者との会)、自閉症児者とのサッカースクールボランティアなど。

《児童文化研究部》自閉症児者とのキャンプ、てんかん病院・こども病院でのボランティア、託児施設でのボランティア、知的障害者との交流会、あしなが募金活動など。

《合唱部》愛ネット聖陵慰問コンサート、マインド慰問コンサート、駿府学園慰問コン

サークルなど。

- (2) 短期大学では学生の地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等についてどのように考え、どのように評価しているか記述して下さい。

学生のボランティア活動は積極的に推奨するが、原則として単位認定は行っていない。

【国際交流・協力への取組みについて】

- (1) 過去3ヶ年(平成16年度～18年度)の学生の海外教育機関等への派遣(留学・長期・短期を含む)の状況を記述して下さい。

英語英文科では、認定留学制度により2年次4月当初から8月下旬まで約5ヶ月の研修留学を実施している。滞在先はカナダのオタワ市にあるカールトン大学で、協定により大学付属の語学クラスに学生を派遣する。参加者は平成16年度10名、平成17年度5名、平成18年度11名で、学科での筆記試験・小論文・面接・授業成績などによる選考で決め、一部の者には授業料半額免除や奨学金授与もある。帰国後、協定校からの成績に基づき、15単位までの単位認定(本学科の専門教育科目単位として読み替え)が行われる。

また同科では、1年次夏休みに「海外語学実習」(約3週間)も実施している。参加者は英語圏の国でホームステイをしながら、語学学校や大学附属の語学コースで授業を受ける。平成16年度は英国(参加者20名)、平成17年度はニュージーランド(43名)、平成18年度は英国(26名)で、各回とも専任教員1名が引率し実施した。

- (2) 過去3ヶ年(平成16年度～18年度)の短期大学と海外教育機関等との交流の状況を記述して下さい。

英語英文科の上記認定留学に際しては、学生の受け入れ枠(15名まで)を設定する協定を平成12年度から結んでいる。また、音楽科では、毎年2月に実施している「モスクワ国立音楽院・常葉学園短期大学教授によるセミナー」において、モスクワ音楽院の学生が来学、本学学生とのコンサートで共演をしている。

- (3) 過去3ヶ年(平成16年度～18年度)の教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況を記述して下さい。

特になし。

【特記事項について】

- (1) この《社会的活動》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば高大連携等の他の教育機関との連携、外国人への日本語教育等、社会的活動について努力していることがあれば記述して下さい。

1) 高大連携など他の教育機関との連携

本学では、平成13年度より常葉学園高等学校と県内では初めて高大連携教育を開始した。3年生を対象に英語・国語・保育の3コースを開設し、初年度は104名の受講生があり、以後、14年度107名、15年度69名、16年度73名、17年度55名、18年度56名が受講し、各科の専門教育への入門的科目としての役割を果たしている。この間、平成14年度には高校側の位置づけが「総合的な学習の時間」の一環となった。また、同年には協定書が取り交わされ、受講生徒は学則上の科目等履修生に基づく「科目等履修生徒」という身分で受講し、本学の日本語日本文学科及び英語英文科に入学した場合には、専門教育の科目「総

合基礎講座」として1単位が認定されるようになった。例年6月～12月にかけ、3学科教員による授業が各コース8回シリーズ（各回50分×2）で行われる。なお、保育コースでは、平成17年度から高校1年生を対象とする授業も始まり、高校・短大を一貫した5ヶ年の連携となった。

《 管理運営》の記述及び資料等について

【法人組織の管理運営体制について】

- (1) 短期大学を設置する法人のトップである理事長は、短期大学の運営に対して適切にリーダーシップを発揮しているか、また短期大学に係る重要事項はどのような流れで決定し、その流れの中で理事長はどのように関与しているかを、できれば理事長自身が率直に現状を記述して下さい。

リーダーシップについては、「理事会」（5月・10月・3月）、「評議員会」（5月・10月・3月）、「所属上長会議」（5月・7月・11月・1月）、「大学・短大・専門学校打合せ会」（4月・6月・9月・12月・2月）、「学園連絡会」（4月・6月・9月・12月・2月）等を開催して、その都度学園の運営方針や経営計画等について説明を行うとともに、考え方を明確に提示し学園内の意思統一に努めている。

理事長として、機会あるごとに非定例・非公式の「理事長と短期大学学長等との打合せ会」等を持ち、短期大学学長をはじめ教職員との意見交換を図り、短期大学の意向も汲み取りつつ、理事長としての意見を明示しトップの考え方を明らかにしてリーダーシップを執っている。

予算編成時に予算ヒアリング（4月・10月・2月）を実施し、短期大学の意見・要望や事業計画を十分に聴取し、必要な計画については予算に反映させている。

入学式、卒業式、後援会総会、同窓会総会等の諸行事にも出席し、後援会や同窓会等幅広い意見の聴取に努め、当意見を学校運営や経営計画等に反映させている。

短期大学の重要な事項への関与については、予算ヒアリングや上記の公式・非公式の打合せを経て、事業の実現に努めており、事務段階でも原議書による起案、法人本部への提案を通じ事業の実現を図っている。また、「評議員会」及び「理事会」に学長をはじめ副学長が理事・評議員として出席し、説明を行う等により承認を得る方式を探っている。

- (2) 過去3ヶ年（平成16年度～18年度）の理事会の開催状況（主な議案、理事の出席状況等を含む）を開催日順に記述して下さい。加えて理事会についての寄附行為上の規定を記述して下さい。平成19年5月1日現在の理事・監事・評議員名簿等を準備し、理事の構成に著しい偏りがないことをお示し下さい。また理事会議録は必要に応じて閲覧いたします。

<参考資料 - 1> 「現在の理事・監事・評議員名簿」参照

1) 理事会開催状況

(平成 16 年度～18 年度)

年	月	日	主な議案	出席者数	定数
平成 16	5	22	平成 16 年度事業計画変更・補正予算。平成 15 年度事業報告・決算。 寄附行為変更。	9	12
平成 16	10	16	平成 16 年度事業計画変更・補正予算。浜松大学学則変更。	9	12
平成 16	12	18	評議員選任。富士常葉大学新学部設置認可申請。	10	12
平成 17	3	20	寄附行為変更。役員選任。平成 16 年度事業実施状況報告・補正予算。 平成 17 年度事業計画・収支予算。	10	12
平成 17	5	21	寄附行為変更。平成 16 年度事業報告・決算。平成 17 年度事業計画変更・補正予算。	11	12
平成 17	10	15	平成 17 年度事業計画変更・補正予算。常葉学園短期大学等の学則変更。	10	12
平成 18	2	18	浜松大学改組転換計画等。専門学校学則変更。	11	12
平成 18	3	21	役員選任。平成 17 年度事業実施状況報告・補正予算。平成 18 年度事業計画・収支予算。	10	12
平成 18	5	20	寄附行為変更。平成 17 年度事業報告・決算。平成 18 年度事業計画変更・補正予算。	10	12
平成 18	8	21	用地等の取得。平成 18 年度事業計画変更・補正予算。	9	12
平成 18	10	21	平成 18 年度事業計画変更・補正予算。浜松大学学則変更。	10	12
平成 18	12	16	常葉学園短期大学等の学則変更。	12	12
平成 19	3	21	役員等の選任、規則等の改正。平成 18 年度収支補正予算。平成 19 年度事業計画・収支予算・学則変更。	11	12

<参考資料 - 2 > (「平成 18 年度分の理事会議事録」) 参照

2) 理事会についての寄附行為上の規定

第 3 章 役員及び理事会

(役員)

第 5 条 この法人に次の役員を置く。

(1) 理 事 10 人以上 13 人以内

(2) 監 事 2 人以上 5 人以内

2 理事のうち 1 人を理事長とし、理事総数の過半数の議決により選任する。理事長の職を解任するときも、同様とする。

(理事会)

第 6 条 この法人に、理事をもって組織する理事会を置く。

2 理事会は、学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。

3 理事会は理事長が招集する。

4 理事長は、理事総数の 3 分の 2 以上から、会議に付議すべき事項を示して理事会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から 7 日以内にこれを招集しなければならない。

5 理事会を招集するには、各理事に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を書面により通知しなければならない。

6 前項の通知は、会議の 7 日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合はこの限りではない。

7 理事会に議長を置き、理事長をもって充てる。

8 理事長が第4項の規定による招集をしない場合には、招集を請求した理事全員が連名で理事会を招集することができる。この場合における理事会の議長は、出席理事の互選によって定める。

9 理事会は、この寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、理事総数の過半数の理事が出席しなければ会議を開き、議決することができない。ただし、第12項の規定による除斥のため過半数に達しないときは、この限りではない。

10 前項の場合において、理事会に付議される事項につき書面をもって、あらかじめ意思を表示した者は、出席者とみなす。

11 理事会の議事は、法令及びこの寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、出席した理事の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

12 理事会の決議について、直接の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることのできない。

(業務の決定の委任)

第7条 法令及びこの寄附行為の規定により評議員会に付議しなければならない事項その他この法人の業務に関する重要事項以外の決定であって、あらかじめ理事会において定めたものについては、理事会において指名した理事に委任することができる。

(理事の選任)

第14条 理事は次の各号に掲げる者とする。

(1) この法人の設置する大学・短期大学の学長

(2) この法人の設置する専門学校・高等学校の校長のうちから互選によって選任された者1人以上2人以内

(3) 評議員のうちから評議員会において選任された者2人以上3人以内

(4) 前各号に規定する理事の過半数以上を以って選任された者3人以上4人以内

2 前項第1号、第2号及び第3号に規定する理事は、学長、校長、又は評議員の職を退いたときは、理事の職を失うものとする。

(役員の任期)

第16条 役員の任期は2年とする。ただし、補欠役員の任期は前任者の残任期間とし、増員役員の任期は現任者の残任期間とする。

2 役員は、再任されることができる。

3 役員は、その任期満了の後でも、後任の役員が選任されるまでは、なおその職務を行ふ。

(役員の解任及び退任)

第17条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、理事総数の4分の3以上出席した理事会において、理事総数の4分の3以上の議決及び評議員会の議決により、これを解任することができる。

(1) 法令の規定又はこの寄附行為にいちじるしく違反したとき。

(2) 心身の故障のため職務の執行に堪えないとき。

(3) 職務上の義務にいちじるしく違反したとき。

(4) 役員たるにふさわしくない重大な非行があったとき。

2 役員は次の事由によって退任する。

- (1) 任期の満了
- (2) 辞任
- (3) 学校教育法第9条各号に掲げる事由に該当するに至ったとき。
- (役員の補充)

第18条 理事又は監事のうち、その定数の5分の1をこえる者が欠けたときは、1月以内に補充しなければならない。

(議事録)

第19条 議長は、理事会の開催の場所及び日時並びに議決事項及びその他の事項について、議事録を作成しなければならない。

2 議事録には、法令その他別に定めのある場合を除き、議長及び出席した理事のうちから議長が指名する理事2人が署名押印し、常にこれを事務所に備えておかなければならぬ。

(3) 理事会の下に理事会の業務を一部委任する常任理事会、幹部会等を置いている場合は、その名称と根拠規定、理事会との関係、構成メンバー等を記述して下さい。

理事会の円滑化を図るために、下記の組織を設置している。ただし、理事会の業務の一部を委任することはない。

名称	根拠規定	理事会との関係	構成員	開催状況
所属上長会議	組織規程第5条	理事会前に議案等打合せにより審議の円滑化を図る。	理事長、学内理事、所属上長、本部事務局長	5・7・11・1月
本部・大学・短期大学・専門学校打合会	組織規程第38条	高等教育における学則等共通課題を具体的に打合せて、理事会前に共通認識を図る。	理事長、大学・短期大学・専門学校の所属上長及補佐役等、本部事務局長等	4・6・9・12・2月
学園連絡会	組織規程第36条	全ての所属上長及び補佐役等が相互に教育・募集・行事等の重要事項を伝達し、連絡調整し、理事会前に共通認識を図る。	理事長、学内理事、全所属上長及び補佐役等、本部事務局長等	4・6・9・12・2月

(4) 監事の業務についての寄附行為上の規定、平成18年度における監事の業務執行状況について、できれば監事自身が率直に現状を記述して下さい。

1) 監事の業務についての寄附行為上の規定

(監事の選任及び職務)

第15条 監事はこの法人の理事、職員又は評議員以外の者であつて理事会において選出された候補者のうちから、評議員会の同意を得て、理事長が選任する。

2 監事は次に掲げる職務を行う。

- (1) この法人の業務を監査すること。
- (2) この法人の財産の状況を監査すること。

(3) この法人の業務又は財産の状況について、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後2月以内に理事会及び評議員会に提出すること。

(4) 第1号又は第2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実があることを発見したときは、これを文部科学大臣に報告し、又は理事会及び評議員会に報告すること。

(5) 前号の報告をするために必要があるときは、理事長に対して評議員会の招集を請

求すること。

(6) この法人の業務又は財産の状況について理事会に出席して意見を述べること。

2) 平成18年度における監事の業務執行状況

年	月	日	業務執行状況	出席者
平成18	5	9	平成17年度決算に係る財務諸表及び会計計算書類について監査を実施。公認会計士(監査法人)の監査に同席し監査状況の説明を聞く。監査報告書を作成。	磯谷、高木、加藤、石橋
平成18	5	20	理事会・評議員会に出席。監査報告を行う。	磯谷、高木、加藤、石橋
平成18	8	21	理事会・評議員会に出席。	磯谷、高木、加藤、石橋
平成18	9	30	理事長と監査関係者との意見交換会に出席。理事長から学園の事業計画の進捗状況等について説明を聞くとともに、今後の監査のあり方等について要望・意見(監事研修会への出席。私立学校法に沿った監査体制の整備。常葉中・高校隣地の積極的活用)を述べる。	磯谷、高木、加藤、石橋
平成18	10	21	理事会・評議員会に出席。	磯谷、高木、石橋
平成18	11	21	文部科学省主催の「学校法人の監事研修会」に出席。	磯谷、高木、石橋
平成18	12	16	「学校法人の監事研修会」報告会に出席。理事長から主要事業の進捗状況等について説明聴取。監事から理事長に対して出張報告(国立大学法人では内部監査が充実していること等を報告。監事と学園がよりコミュニケーションをとる必要があること、将来的に内部監査組織及び常任監事を置くこと等を進言)	磯谷、高木、石橋
平成19	3	16	業務監査(理事長から事業計画の進捗状況を聴取)・会計監査(公認会計士から納付金未収状況の説明を受け意見交換)	高木、加藤、石橋
平成19	3	21	理事会・評議員会に出席。	高木、石橋

主な学園行事への出席

- ・平成18年 6月 8日 学園創立60周年式典
- ・平成18年 10月 24日 常葉学園短期大学40周年式典
- ・平成18年 10月 30日 之山忌式典・墓参、常葉学園医療専門学校10周年式典
- ・入学式及び卒業式

(5) 平成18年度の評議員会の開催状況(主な議案、評議員の出席状況等を含む)を開催日

順に記述し、評議員会についての寄附行為上の規定を記述して下さい。

1) 平成18年度の評議員会開催状況

年	月	日	主な議案	出席者数	定数
平成18	5	20	寄附行為変更。平成17年度事業報告・決算。平成18年度事業計画変更・補正予算。	36	45
平成18	8	21	用地等の取得。平成18年度事業計画変更・収支予算。	36	45
平成18	10	21	平成18年度事業計画変更・補正予算。浜松大学学則変更。	36	45
平成18	12	16	常葉学園短期大学等の学則変更。	45	45
平成19	3	21	役員等の選任、規則等の改正。平成18年度収支補正予算、平成19年度事業計画・収支予算・学則変更。	39	45

2) 評議員会についての寄附行為上の規定

第4章 評議員会及び評議員

(評議員会)

第20条 この法人に評議員会を置く。

2 評議員会は、39人以上51人以内の評議員をもって組織する。

3 評議員会は理事長が招集する。

4 理事長は評議員総数の3分の1以上の評議員から会議に付議すべき事項を示して評議員会の招集を請求された場合には、その請求があった日から20日以内にこれを招集しなければならない。

5 評議員会を招集するには、各評議員に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を書面により通知しなければならない。

6 前項の通知は、会議の7日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合はこの限りではない。

7 評議員会に議長を置き、議長は、会議のつど評議員のうちから評議員会において選任する。

8 評議員会は、評議員総数の過半数の出席がなければ、その会議を開き、議決をすることができない。ただし、評議員会に付議される事項につき書面をもってあらかじめ意思を表示した者は出席者とみなす。

9 評議員会の議事は出席した評議員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

10 議長は、評議員として議決に加わることはできない。

(議事録)

第21条 第19条の規定は、評議員会の議事録について準用する。この場合において同条第2項中「出席した理事のうちから議長が指名する理事 2人」とあるは「出席した評議員のうちから議長が指名する評議員 2人」と読み替えるものとする。

(諮問事項)

第22条 次の各号に掲げる事項については、理事長において、あらかじめ評議員会の意見を聞かなければならない。

(1) 予算、借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く）及び基本財産の処分並びに運用財産中の不動産及び積立金の処分

(2) 事業計画

(3) 予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄

(4) 寄附行為の変更

(5) 合併

(6) 目的たる事業の成功不能に因る解散

(7) 寄附金品の募集に関する事項

(8) その他この法人の業務に関する重要事項で、理事会において必要と認めるもの

（評議員会の意見具申等）

第23条 評議員会は、この法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務の執行状況について、役員に対して意見を述べ、若しくはその諮問に答え、又は役員から報告を徴することができる。

(評議員の選任)

第24条 評議員は次の各号に掲げる者とする。

- (1) 第4条に規定するこの法人の設置する学校の学長、校長及び園長
- (2) この法人の職員（この法人の設置する学校の教員その他の職員を含む。以下この条において同じ）のうちから、理事会で選任された者5人以上9人以内
- (3) この法人の設置する学校を卒業した者で、年齢25才以上の者のうちから、理事会において選任された者7人以上10人以内
- (4) この法人の設置する学校の在学者及び卒業者の保護者のうちから、理事会において選任された者6人以上9人以内
- (5) この法人に關係ある学識経験者で、理事会において選任された者6人以上8人以内

2 前項第1号及び第2号に規定する評議員は学長、校長及び園長又はこの法人の職員がその職又は地位を退いたときは、評議員の職を失うものとする。

3 第1項第1号において第4条に規定する学校の学長等を併任する場合には、評議員の定数から併任者数を減ずる。

(任期)

第25条 評議員の任期は2年とする。ただし、補欠評議員の任期は前任者の残任期間とし、増員評議員の任期は現任者の残任期間とする。

- 2 評議員は、再任ができる。
- 3 評議員はその任期満了の後でも、後任の評議員が選任されるまではなおその職務を行う。

(評議員の解任及び退任)

第26条 評議員が次の各号の一に該当するに至ったときは、評議員総数の三分の二以上の議決により、これを解任することができる。

- (1) 心身の故障のため職務の執行に堪えないとき。
 - (2) 評議員たるにふさわしくない重大な非行があったとき。
- 2 評議員は次の事由によって退任する。
- (1) 任期の満了。
 - (2) 辞任。

(6) 法人の管理運営について今後改善や変更をしたいと考えている事項があれば記述して下さい。また法人が抱えている問題あるいは課題について差し支えのない範囲で記述して下さい。

学長選任等規程の整備：学長、学科長等の選任規程を整備すること。

決裁権限に関する規程等の整備：理事会・理事長・学長等の権限・役割分担を規程、学則等に明記して、第三者評価に十分に堪えうる教育・事務体制を目指すこと。

常任監事の設置：監事機能の強化を図るため、常任監事の設置に向け規程整備を行うこと。

事務機能の強化：理事及び監事機能を強化し学校法人の運営を充実させるため、事務組織の改善及び役員等を適切にサポートする事務職員の養成を図ること。

財務情報等の公開：在学生、卒業生、志願者、就職先及び保護者等に財務状況、教育環境、研究活動、教育実績、入学実績及び卒業生の進路等をインターネットのホームページ上で提供しているが、さらに内容の充実を図り情報公開を進めていくこと。

【教授会等の運営体制について】

(1) 短期大学の教育・研究上のトップである学長は、短期大学の教育活動全般について適切にリーダーシップを発揮しているか、また短期大学に係る教育・研究上の事項はどのような流れで決定し、その流れのなかで学長はどのように関与しているかを、できれば学長自身が率直に現状を記述して下さい。なお学長選考規程等があれば訪問調査の際に拝見することができますのでご準備下さい。

学長は教授会の議長を務め、最高決定機関の責任を負っている。各種委員会は委員長の責任で実施しているが、会議の内容については報告を受け、さらに内容の確認を行い、課題や問題がある場合は月一回の科長会の議題として取り上げ、必要な場合は教授会の議題としている。本学には性格の違う4学科があるため、各科の会議については科長が責任を持って運営している。全学にかかる件については学長に報告し、委員会と同様の手続きをとっている。

(2) 教授会についての学則上の規定（教授会で議すべき事項等を含む）、平成18年度における開催状況（主な議案、構成メンバー、出席状況等を含む）を年月日の順に記述して下さい。なお、学則を添付して下さい。

本学は、学則第10章に「教授会」に関する規定を設けており、同第55条において、本学の重要な事項を審議するための機関として機能している。また、その構成員は教授のみならず、必要に応じて専任教員のすべてが出席するように規定され、事務局側もオブザーバーとして主任以上の出席を許可している。

なお、教授会の運営に関しては、同55条に基づき教授会規程を制定している。これらの諸規程のもとに、原則として毎月一回教授会が開催されており、教育研究上の審議機関・意思決定機関として適切に運営されている。

教授会開催状況

（平成18年度）

年	月	日	主な議案	出席者数	定数
平成18	4	4	1. 学生異動 2. 平成18年度一般入試・後期日程・専攻科一般入試の選抜（案） 3. 平成18年度入学予定者 4. 平成18年度第一期教育実習選定	37 (委1)	38
平成18	5	2	1. 学生異動 2. 常葉学園短期大学こども総合研究センター規則(案) 3. 科目等履修生・単位互換履修生の入学許可 4. 平成19年度本科学生・専攻科学生募集要項(案) 5. 平成18年度第一期幼稚園教育実習選定（案） 6. 平成18年度創立記念式典実施要項(案) 7. 平成19年度フレッシュマン・キャンプ日程及び会場（案）	37	38
平成18	6	6	1. 平成18年度高大連携における科目等履修生徒の入学許可 2. 第1回学生部長連絡会（仮称）における「実態調査」	37	38
平成18	7	4	1. 平成18年度地区別入試説明会・相談会実施要領(案) 2. 平成18年度保護者&就職大作戦実施計画(案) 3. 平成18年度後期科目等履修生募集	37	38

平成 18	9	6	1 . 学生異動 2 . 学則の一部変更(案) 専攻科国語国文専攻のカリキュラム変更 3 . 平成 19 年度学園内統一試験担当者(案) 4 . 平成 19 年度体験入試 A 日程実施要項(案) 5 . 短大 PR 用ビデオ作成(案)	37 (委1)	38
平成 18	10	3	1 . 学生異動 2 . 学則の一部変更(案) 学校教育法の一部改正による教職員組織の変更 3 . 平成 18 年度後期科目等履修生の入学許可 4 . 平成 18 年度後期単位互換履修生の入学許可 5 . 平成 19 年度学園内入学試験実施要項(案) 6 . 平成 19 年度専攻科学内推薦入学試験実施要項(案) 7 . 平成 19 年度体験入学試験 B 日程・奨学生入学試験・学校推薦入学試験・指定校推薦入学試験・後継者入学試験実施要項(案) 8 . 常葉学園短期大学 40 周年記念式典・講演会・パーティ実施要項(案) 9 . 之山忌式典・地域ボランティア (10/30) 実施要項(案)	37	38
平成 18	11	7	1 . 学生異動 2 . 平成 18 年度英語英文科認定留学生の単位認定(案) 3 . 第 40 回橘香祭日程及び役割分担(案) 4 . 平成 18 年度総合防災避難訓練 (11/14) 実施要項(案) 5 . 平成 19 年度研究生募集要項(案)	37	38
平成 18	12	5	1 . 学生異動 2 . 平成 19 年度体験入試 C 日程・自己推薦入試・準学士入試・転学科試験・転入学試験実施要項(案)	37	38
平成 19	1	9	1 . 学則の一部変更(案) 日本語日本文学科・英語英文科のカリキュラム変更 2 . 学内規程の制定 ・入学前の既修得単位の単位認定に関する規程(案) ・他の短期大学または大学以外の教育施設等において修得した単位の認定に関する規程(案) ・短期大学または大学以外の教育施設等において修得した単位の認定に関する規程(案) 3 . 平成 19 年度英語英文科認定留学生の認定(案) 4 . 平成 18 年度研修センターゼミ実施要項(案)	36 (委2)	38
平成 19	2	7	1 . 学生異動 2 . 平成 19 年度前期科目等履修生募集要項(案) 3 . 平成 19 年度一般前期・センター利用・社会人・外国人留学生・帰国子女入試実施要項(案) 4 . 学生生活アンケートの内容	37	38
平成 19	3	8	1 . 平成 18 年度卒業及び修了判定並びに資格認定	38	38
平成 19	3	9	1 . 学生異動 2 . 平成 18 年度科目等履修生の司書資格及び保育士資格の認定 3 . 平成 18 年度卒業式・修了式代表者並びに卒業式・修了式実施要項(案) 4 . 平成 19 年度一般入試後期日程・専攻科一般入試実施要項(案) 5 . 平成 19 年度各種委員会等の委員構成 6 . 平成 19 年度合同入学式実施要項(案) 7 . 平成 19 年度フレッシュマン・キャンプ実施要項(案) 8 . 平成 20 年度入学試験及び日程(案)	38	38

(3) 学長もしくは教授会の下に教育・研究上の各種の委員会等を設置している場合は、その名称と根拠規程、主な業務、構成メンバー、平成 18 年度の開催状況等を記述して下さい。

1) 科長会

(平成 18 年度)

名称	科長会
根拠規程	常葉学園短期大学科長会規程
主な業務	教育、研究及び人事に関する基本方針等運営等における全学的事項

構成メンバー	学長、副学長、各科長、教養教育主任、学生部長、図書館長、 L C長、事務部長その他必要と認められた教職員
開催状況	13回

2) 各種委員会

・常設委員会

名称	教務委員会
根拠規程	常葉学園短期大学各種委員会等運営規程
主な業務	教育課程、時間割編成、履修及び成績等に関する事項
構成メンバー	別表で定める員数及び担当部署で学長が指名する者
開催状況	14回
名称	学生委員会
根拠規程	常葉学園短期大学各種委員会等運営規程
主な業務	学生の生活指導、福利厚生、課外活動等に関する事項
構成メンバー	別表で定める員数及び担当部署で学長が指名する者
開催状況	11回
名称	図書委員会
根拠規程	常葉学園短期大学各種委員会等運営規程
主な業務	図書館資料の収集図書館の管理・運営等・公開講座・紀要編集に関する事項
構成メンバー	別表で定める員数及び担当部署で学長が指名する者
開催状況	11回
名称	L C運営委員会
根拠規程	常葉学園短期大学各種委員会等運営規程
主な業務	学生のライフデザイン力向上に対する支援、就職・進学にかかる事項
構成メンバー	別表で定める員数及び担当部署で学長が指名する者
開催状況	11回
名称	総合セミナー委員会
根拠規程	常葉学園短期大学各種委員会等運営規程
主な業務	総合セミナーの企画・運営、実施等に関する事項
構成メンバー	別表で定める員数及び担当部署で学長が指名する者
開催状況	10回

・特別委員会

名称	入試委員会
根拠規程	常葉学園短期大学各種委員会等運営規程
主な業務	学生募集、入学者の選抜等に関する事項
構成メンバー	学長が指名し、委嘱する者
開催状況	11回
名称	自己評価委員会
根拠規程	常葉学園短期大学各種委員会等運営規程
主な業務	自己点検・評価の基本方針及び総括等に関する事項
構成メンバー	学長が指名し、委嘱する者
開催状況	10回
名称	防火防災委員会
根拠規程	常葉学園短期大学各種委員会等運営規程
主な業務	消防計画の作成、地震防災応急計画の作成等に関する事項
構成メンバー	学長が指名し、委嘱する者
開催状況	2回
名称	セクハラ防止委員会

根拠規程	常葉学園短期大学各種委員会等運営規程
主な業務	セクハラ防止に関する啓発活動の企画等に関する事項
構成メンバー	学長が指名し、委嘱する者
開催状況	2回
名称	環境管理委員会
根拠規程	常葉学園短期大学各種委員会等運営規程
主な業務	環境管理の基本方針及び推進等に関する事項
構成メンバー	学長が指名し、委嘱する者
開催状況	11回

・プロジェクト

名称	大学祭支援プロジェクト
根拠規程	常葉学園短期大学各種委員会等運営規程
主な業務	大学祭の企画、実施、評価等に関する事項
構成メンバー	学長が指名し、委嘱する者
開催状況	7回
名称	大学案内編集プロジェクト
根拠規程	常葉学園短期大学各種委員会等運営規程
主な業務	大学案内の企画立案、編集等に関する事項
構成メンバー	学長が指名し、委嘱する者
開催状況	5回 他にネット会議
名称	短大教員研修会プロジェクト
根拠規程	常葉学園短期大学各種委員会等運営規程
主な業務	短大教員研修会の企画運営等に関する事項
構成メンバー	学長が指名し、委嘱する者
開催状況	7回

・臨時プロジェクト

名称	40周年記念事業準備プロジェクト
根拠規程	常葉学園短期大学各種委員会等運営規程
主な業務	学長が定める。
構成メンバー	学長が指名し、委嘱する者
開催状況	2回 他に小委員会4回
名称	ホームページプロジェクト
根拠規程	常葉学園短期大学各種委員会等運営規程
主な業務	学長が定める。
構成メンバー	学長が指名し、委嘱する者
開催状況	1回
名称	第三者評価運営プロジェクト
根拠規程	常葉学園短期大学各種委員会等運営規程
主な業務	学長が定める。
構成メンバー	学長が指名し、委嘱する者
開催状況	10回
名称	授業評価等作業部会
根拠規程	常葉学園短期大学各種委員会等運営規程
主な業務	学長が定める。
構成メンバー	学長が指名し、委嘱する者
開催状況	3回

各種委員会等の構成表

(1) 常設委員会									
委員会	委員長	副委員長	教養教育	日本語日本文學科	英語英文学科	保育科	音楽科	その他	担当部署
教務委員会	1	1	2	2	2	2	2	学生部長、専攻科長、教務課長	教務課
学生委員会	1	-	1	1	1	1	1	学生部長、学生課長	学生課
図書委員会	1	-	1	1	1	1	1	図書館長	図書館
総合セミナー委員会	1	-	1	1	1	1	1	学生部長、教務課長、学生課長 事務部長	学生課 教務課
LC運営委員会	1	-	-	1	1	1	1	学生部長、専攻科長、教務課長 学生課長、入試課長、LC長 LC次長	LC
(2) 特別委員会									
入試委員会	1		1	1	1	1	1	副学長、学生部長、専攻科長 事務部長、入試課長、LC長	入試課
自己評価委員会	1		1	1	1	1	1	副学長、学生部長、図書館長 専攻科長、事務部長、事務主任	事務部
防火防災委員会	1		1	1	1	1	1	副学長、学生部長、事務部長 学生課長	学生課 事務部
セクハラ防止委員会	1	-	4				副学長、学生部長		
環境管理委員会	1	-	4				事務部長、学生課長、事務主任		
(3) プロジェクト									
プロジェクト	キヤップ	副キヤップ	メンバー				その他		
大学祭支援	1	1	8				学生部長、学生課長		
大学案内編集	1	-	4				専攻科長、学生部長、入試課長 LC、事務職員・教務員		
短大教員研修会	1	1	3				学生部長、事務部長		
(4) 臨時プロジェクト									
プロジェクト	キヤップ	副キヤップ	教養教育	日本語日本文學科	英語英文学科	保育科	音楽科	その他	担当部署
40周年記念事業準備	1	-	1	1	1	1	1	学生部長、図書館長、専攻科長 事務部長、教務課長、学生課長 LC次長	事務部
ホームページ	1	-	1	1	1	1	1	学生課長、LC	学生部
第三者評価運営	1	1	各種委員会委員長、各科長				学生部長、図書館長、事務部長 教務課長、学生課長、入試課長 LC長、LC次長、CC長 事務主任		
授業評価等作業部会	1	1	4				学生部長、教務課長、学生課長		

<参考資料 - 4 > 「委員会の諸規定」(「常葉学園短期大学学内規程集」)参照

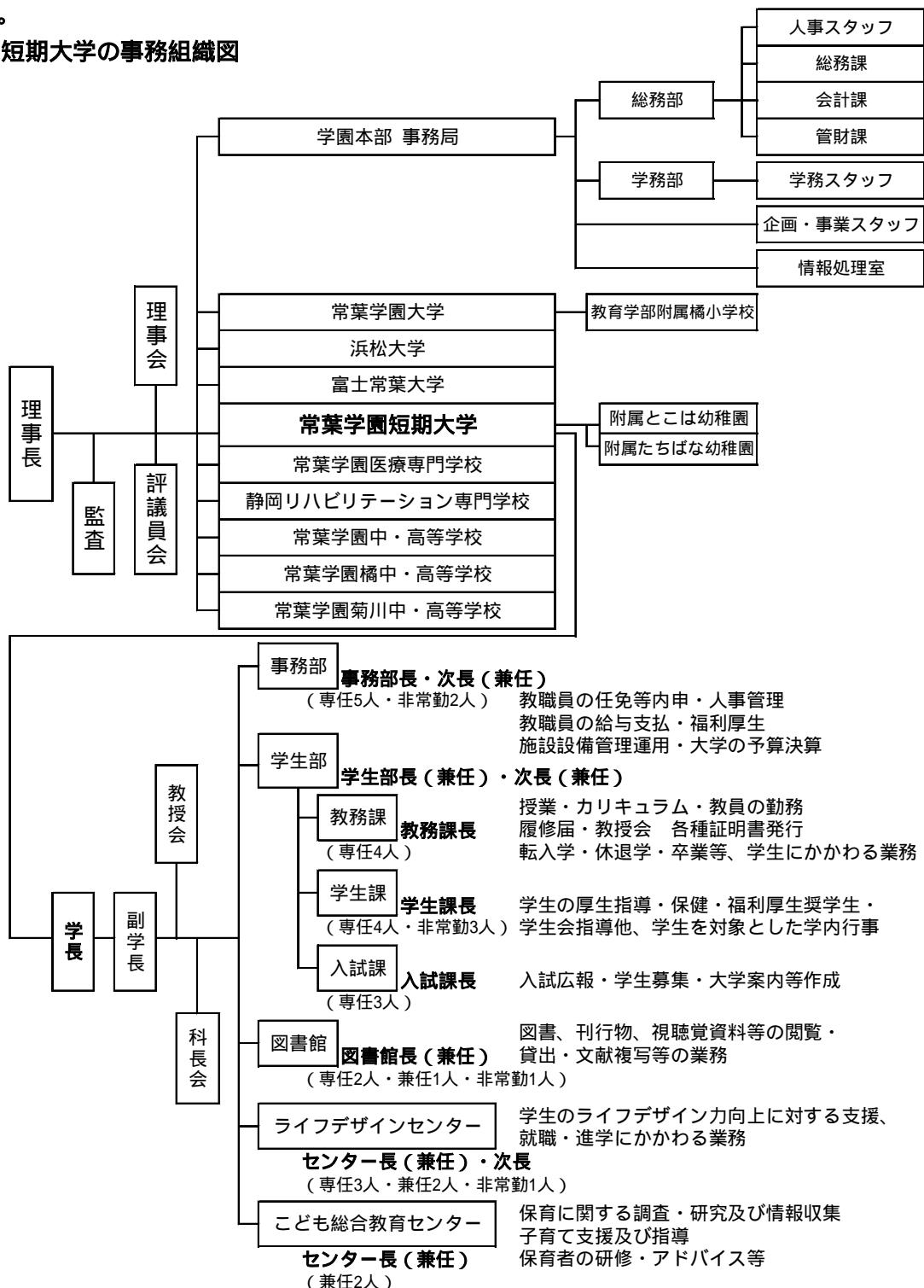
(4) 短期大学の運営全般について抱えている問題あるいは課題について差し支えがない範囲で記述して下さい。

特に大きな問題はないが、全般的に会議が多くもう少し効率的な方法を考えたい。

【事務組織について】

- (1)現在の法人全体の事務組織図を記載し、その中に短期大学の事務部門を記入して下さい。
 また組織図には短期大学の事務部門の役職名(課長、室長相当者以上。兼職の有無を含む)各部門の人員(専任・兼任の別を含む)、各部門の主な業務を含めて記入して下さい。また事務組織が使用している部屋等は、機器・備品を含めて訪問調査の際に案内いただきます。

短期大学の事務組織図



(2) 事務職員の任用(役職者の任免を含む)について現状を訪問調査時にご説明下さい。
事務職員の任用については、毎年10月と1月に教職員の需要調書を学園本部に提出している。

学長は、採用に当たって常葉学園管理規則第5条第2項により、理事長から参考意見を求められた場合意見を上申することとなっている。

事務職員の任用は、学園本部による選考手続き後、理事長決裁により行われ、事前に内示、公示を経て本学を含め学園内大学、高校等に配属されている。

平成19年度の事務職員役職者は、事務部長、教務課長(学生部次長兼務)、入試課長、学生課長(事務部次長兼務)、ライフデザインセンター次長、事務部主任、学生部主任以上7人であり、任免は理事長の決裁をもって行われている。

(3) 事務組織について整備している諸規程名を列記して下さい。なお諸規程等は訪問調査の際に拝見することができますのでご準備下さい。

事務組織にかかる主な諸規程は次のとおりである。

項目	諸規程
1 組織関係	管理規則、組織規程、事務分掌規程、文書・表簿取扱規程、公印取扱規程、各種委員会等運営規程、自己評価委員会規程、宿日直規程、防火・防災管理規程等
2 人事・給与関係	就業規則、定年制規程、職員給与規程、退職金給与規程、職員旅費規程、育児・介護休業等に関する規程、職員勤務評定実施要領、新任研修要項等
3 財務・経理関係	経理規則、経理規則施行規程、補助活動経理規程、学生生徒等納付金徴収規程、大学・学生納付金の納入規程、修学(研修)旅行費等預り金取扱規程、研究奨励制度規約、研究奨励制度研究助成費使用規程等
4 教学関係	学則、教授会運営規程、科長会規程、学位規程、奨学生規程等
5 その他	施設設備使用規程、研修要項、校務委託車取扱基準、校用車使用並びに運転服務規程、学生会会則、同窓会会則、後援会会則、後援会OB会規約等

(4) 決裁処理の概要と流れ、また公印や重要書類(学籍簿等)の管理、防災の状況、情報システムの安全対策等の現状を記述して下さい。

1) 決裁処理の概要と流れ

常葉学園文書・表簿取扱規程に基づくとともに、常葉学園経理規則、同施行規程等により決裁処理を行っている。

起案文書は「原議書」により、各部署で作成する。起案部署の長から事務部に提出し、事務部長、副学長の審査を経て学長の決裁を得る。

本学の場合、多くは学長決裁(短期大学名、学長名を用いるもの)によるが、契約行為や官公署への公文書など規程に定められたこと等(法人名、理事長名を用いるもの)については、学長決裁の後、常葉学園本部へ回付し、理事長決裁を得ている。

決裁結果は、学園本部で所定手続き後、承認案件には決裁番号を付けて起案部署に回付される。

2) 公印や重要書類（学籍簿等）の管理

公印の取り扱いについては、常葉学園公印取扱規程に基づき行っている。公印取り扱い責任者は第3条により定めている。公印の使用に当たっては第5条の規定の事務分掌により定め、的確な管理及び使用を行っている。公印を使用した都度公印使用簿に記載することとしている。

重要書類については、常葉学園文書・表簿取扱規程に基づいた管理、保管を行っている。

学籍簿や成績証明書さらには卒業証書交付簿、修了証書交付簿など重要書類については本館2階の耐火金庫に保管している。その他の重要書類は各部署の保管庫や専用の倉庫に保管し、常時施錠している。

3) 防災の状況

学内に、「常葉学園 大学防火・防災管理規程」第3条に基づいた防火防災委員会を組織し、毎年度防火防災計画を作成して、所轄消防署へ届出を行っている。

校舎には、火災報知器、非常警報設備、消火栓、防火扉を備え、校舎内各所に消火器を常備している。消防法に基づく消防用設備等の点検については、専門業者に委託し定期的に点検を行っている。また、年一回所轄消防署の指導協力のもと、本学教職員・学生を対象とした地震対策を含めた防災訓練を実施している。

4) 情報システムの安全対策等の現状

事務職員全員について、一人1台のパソコンがある。これらは、すべてセキュリティシステムにより管理している。

なお、平成18年秋から新たに教務システムを導入することとしたが、これまで成績処理、住所変更など個人情報にかかるデータ処理については、担当者及び変更日時等が管理されていなかったが、新システム導入にあたり、処理ができる権限者及び作業履歴が記録されることとなり、個人情報の管理体制が整いつつあるところである。

(5) 事務職員は教員や学生から支持され信頼されているか、できれば事務組織の責任者（事務局長等）が現状を率直に記述して下さい。

事務職員と教員の関係については、人事管理のところで後述する。事務職員が学生に対して行っている支援活動は多岐にわたっているが、親切丁寧な対応を心がけている。

毎年、学生生活アンケートで、教員と相談できる体制が整っていると思いますか、職員の対応（窓口）は親切だと思いますか。の2つの設問項目においてアンケートを実施している。

アンケート結果では の設問については「そう思う」「ややそう思う」と回答した学生は全体で60%を超えている。全科ともに1年生より2年生の方が満足度が高い。

の設問については「そう思う」「ややそう思う」と回答した学生は全体ではほぼ50%である。学科により格差が大きい。

(6) 事務組織のスタッフデベロップメント(S D)活動（業務の見直しや事務処理の改善等、事務職員の能力開発、内部研修、外部への研修等）の現状を記述して下さい。

事務部門においては、現在SD活動への取り組みを行うための組織は設けていないが、事務職員の能力開発、事務処理能力の向上を図るため、内外の研修会等に積極的に参加し、知識の習得に努めている。

事務職員が参加した最近の主な研修会等は、次のとおりである。

1) 学内研修

事務局各部署別職員打合せ会： 4月はじめ、年度当初にあたっての各部署における業務の概要等新任の職員を交えて、所管課長等から年間計画の適切な業務の執行方針等説明する。

短大教員研修会： 本学では、毎年9月に2日間教員全体を対象として研修会を開催している。これに課長以上の事務職員も出席し、意見交換等に参画している(115P【自己点検・評価について】(2)参照)。

短大運営協議会： 年度当初各科・課等それぞれ当該年度の目標と課題を提出し、年度末の協議会において、各学科長並びに事務局サイドの課長等から達成度や問題点、あるいは改善点等を報告している。その結果、次年度に向けての検証等を行っている(117P《改革・改善》【特記事項について】(1)参照)。

2) 学園内研修

新任教職員研修会： 新任教職員を対象として、「常葉学園新任教職員研修実施要項」に基づき実施するもので、年間をとおして行うものである。

常葉学園教職員夏期研修会： 当研修会は学園内各校の持ちまわり制で、学園全教職員を対象として、毎年8月初め2日間の研修を行っている。短大は平成16年度に当番校として「常葉教育の発展をめざして より良い連携教育を求めて」をテーマに実施した。各校により教育に関する現状と取り組みの報告を受け、それを討議した。

18年度は、富士常葉大学において、学園創立60周年「新しい歴史の創造に向けて 教育における安全と安心」のテーマのもと、分科会として、教育現場の安全対策等大学内での研修のほか、富士地域の自然環境や地震対策など広範にわたる屋外研修等を行った。

常葉学園管理職研修会： 学園の管理職(教職員)を対象として、毎年8月初旬3日間の研修を行っている。18年度は「将来を見据えて、相互連携と協働を高める」をそれぞれテーマとして実施した。短大からは事務職員7名がこれに参加した。

3) 対外的研修等

事務職員の外部研修は、主に各部署の業務に直結した研修が多い。時代の変化が激しい中で、日常業務も大きく変化している状況にある。このため、できる限り各種の研修に職員が積極的に参加するよう指導している。

事務職員が最近において参加した主な研修会は次のとおりである。

事務部

私学共済事務担当者連絡会、互助組合事務連絡会、新人事給与システム講習会、私立大学等経常費補助金事務研修会、科学研究費補助金説明会、大学等における省エネルギー対策に関する研修会等

学生部

私立短大教務担当者研修会、新教務システム導入会議、学生獲得セミナー、私立短大入試広報担当者研修会、学生厚生補導研究会、厚生補導研究協議会、私立短大学生生活指導担当者研修会等

ライフデザインセンター

私立短大就職担当者研修会、全国就職指導ガイダンス、金城学園短大、「女子学生のキャリア教育」就活支援者セミナー

図書館

私立短大図書館協議会全国研修会、職員専門研修（大学・専門図書館）、図書館情報担当者研修会、相互貸借担当者会議、静岡県図書館大会

- (7)短期大学の事務組織が抱えている問題あるいは課題について差し支えがなければ記述して下さい。

事務組織の活動に当たって、学生募集とライフデザインを教育の根幹としてとらえた学生の進路指導等に的確に対応するためには、学生募集のための組織体制の強化と、ライフデザインの戦略的な機能の充実等支援体制を再構築していくことが必要である。

また、事務職員は、全体で 21 人（うち労務職員 1 人）いるが、人事交流が少ない。事務全体を幅広く習得するためにも人事交流は必要である。さらに、事務職員の意識改革も重要な課題と考えている。

【人事管理について】

- (1)教職員の就業について、現在、短期大学が抱えている問題あるいは課題について差し支えがない範囲で記述して下さい。なお教職員の就業についての規程（就業規則、給与規程等）を訪問調査の際にご準備下さい。

事務職員の就業における問題点としては、部署や個人により時期的に業務が集中することがあり、労働時間に差が生じている。個人格差の解消等を含め、業務の計画的かつ適正配分による効率的な執行と人事配置が必要である。

教育職員の勤務に関しては、事務職員とは異なり、就業時間の任意性が極めて強いことから、授業担当時間や学務での出講日数、学内での滞留時間に個人差がある。

<参考資料 - 5 > 「事務組織についての諸規程」（「常葉学園規程集」）参照

<参考資料 - 6 > 「教職員の就業についての規程」（「常葉学園規程集」）参照

- (2)法人（理事長及び理事会等）と短期大学教職員の関係について、できれば理事長及び学長がそれぞれ記述して下さい。

A) 理事長の認識

教員の人事管理：専任教員の採用・昇格は原則として教授会の議案とする前に理事長の内諾を得ることになっている。これまでの 5 年間では特に問題はなく、すべての事案について内諾後教授会にかけ、最終的に理事長が承認した。実質的には短大側に大幅な裁量権があるが、短大特有の事情（例えば、教員が綿密に事務局と打合せをし、行事や学生の面倒をみていくこと等）も汲んで採用されており、大きな問題はない。

ただし、兼任講師の採用は理事長にまで回って来ない。兼任講師の定員が管理されているわけではなく、適切な教育内容かどうか、人数の多さが受講生数を考慮した適切なものとなっているか、カリキュラム間の重複等の点で疑問である。なお、兼任講師の時間当たりの報酬体系の複雑さ等により、事務コストの増大を招くなど、問題があると認識している。

夏冬の賞与は勤勉手当分（平成 18 年冬 0.725 ヶ月分）については A ~ E の 5 段階に査定している。A は教員で標準の 1.5 倍（事務職員は 1.3 倍）、E は教員で 0.5 倍（事務職員は 0.7 倍）と評価支給している。

職員の人事管理：学園内の人事異動は学園本部の権限のもと実施されているが、短大に在任 10 年を越える職員もあり、もう少し異動期間を短縮化すべきと考える（これは学園全体に言えることだが）。

短大内の職員の部署の人事異動については、現在、学長にその権限があり、この点でも将来は本部一括の配置を探りたい。また、それに伴い部局（課）の配置、名称、分掌についても、学園内で統一性を図りたい。

事務職員一人当たりの学生数は学園内他大学に比べ明らかに少なく、事務職員が多過ぎる。4 学科 3 専攻を持つという特殊性・学生規模の少なさなどを考慮してもそうである。職員は大変丁寧で細かな事務処理をしているとかがえるが、構造的な省力化も検討すべきと考えている。

B) 学長の認識

教員の人事管理：専任教員の採用及び昇任については、学長が各科に次年度の予定を聞く。該当人事がある場合は学長に内申があり、学長は本学内規程に基づき理事長に内諾を得る。その後、教授会を得て理事長に最終承認を得る方式をとっている。短大の教員は教育の部分に割く時間が非常に多く、担当持ちコマを超える分については、兼任教員を採用している。

科目によっては複数の兼任教員を採用しなければならないこともある。人件費の増大につながり、経営的にはスリム化しなければならないものの、特に保育科はカリキュラム上規制が多く、やむを得ないと考えている。一方こういった配慮が、全学的に退学者を減少させることにもつながっている。

職員の人事管理：短大内の職員の人事配置については、学長権限で実施している。学園内大学に比較すると、事務職員一人当たりの担当学生数は少ない。しかし、これは短大が現在おかれている状況ではやむを得ないと考えている。新入生（1年生）と卒業生（2年生）で構成されているため、業務が両極に分かれる。また手をかけないといけない学生も多く、今後の課題である。一つの部署だけでなく、事務職員としてすべての業務に精通できる体制も整えたいと思っている。

（3）教員と事務職員との関係について、できれば学科長等及び事務局長がそれぞれ記述して下さい。

A) 各学科長の認識

1) 日本語日本文学科

学生部・事務部・図書館、いずれの職員とも協調して業務に当たっている。特に、学生部とは資格や成績、学生生活に関して相談する場面が多いが、学生の把握が的確にできることもある、スムーズに運ぶことができる。また、事務手続きなどの遅刻やミスには厳しい指導がなされ、学生には良い薬になっていると思う。

2) 英語英文科

各種委員会などを通じて教員と学生部事務職員の連携を図り、学科業務を円滑に進めている。学科教員の中から委員会やプロジェクトの長を 4 名出していて、日常的に協働する体制にある。また事務部とは、学納金や奨学金、学科予算の執行、学内行事等にかかる経費、兼任教員の雇用などに関し、常に連絡や協議を密にするよう心掛けている。また、学科の共同研究室に配置される非常勤事務職員についても、英語力など学科の特殊性を考慮

した上で人選を行っている。

3) 保育科

本学科は、特に実習にかかる課程費の取り扱いや実習園への依頼状の発送等、事務職員とのかかわりは大きい。事務職員の確実な対応に、保育科教員との信頼関係はしっかりと築かれている。またＬＣとは学生一人一人の進路をサポートしていく協力体制ができていて、事務職員とは一体化した活動をしている。

4) 音楽科

事務職員とは仕事上の関係や交流もあり、学生に対する指導上にも問題ない。特に音楽実技科目では「鍵の管理」「音に対する配慮」「楽器の管理」など事務職員と協力しながら行っているが、良い関係である。

5) 専攻科

特に問題はなく、さまざまな機会に協力を得ており、良好な関係である。

B) 事務部長の認識

本学の教員と職員の関係は、学校運営の両輪でなければならないことから、お互いの責任と立場をよく理解、尊重したうえでの協力体制を維持していくことが基本であると考えている。

事務職員は、教員の教育活動や研究活動、さらには学生の支援活動に対し、これらの職務が円滑に推進できるような環境作りに果たす役割が大きい。本学の場合そのための日常的な事務処理業務を各課長を中心となり円滑に行っており、教員からの理解・信頼を得ていると認識している。

教授会や運営委員会等会議にも事務職員が出席するなど、教員と事務職員の意思の疎通を図っている。

また、本学あげての各種イベントが毎年数多く実施されている。これらのイベントについて、その中心となって行う一部の教員にとっては、若干負担となつてはいるものの、基本的には、教員と事務職員との良好な協力関係により実施しているところである。

この他、入試説明会や高校訪問など、学生確保に向けて、あるいは、ライフデザインセンターを中心とした就職支援に対し、教員と事務職員が一丸となって相互に協力し、全学で取り組んでいる。

(4) 教職員の健康管理、就業環境の改善、就業時間の順守等の現状を率直に記述して下さい。

教職員に対し、年一回の定期健康診断を実施している。平成19年度の専任教職員の受診率は81%であった。今後、受診率を100%にするための施策の整備と有所見者のフォローアップ体制が課題である。また、健康・環境・教育面に配慮して学内共用部分を禁煙としている。

教職員の出退勤管理はＩＣカードによるものである。

【特記事項について】

(1) この《 管理運営》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、管理運営について努力していることがあれば記述して下さい。

特になし。

《 財務》の記述及び資料等について

【財務運営について】

(1) 学校法人もしくは短期大学において「中・長期の財務計画」を策定している場合は、計画の名称、策定した経緯等を簡潔に記述して下さい。なお中・長期の財務計画は訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

特に「中・長期の財務計画」の策定はしていない。

(2) 学校法人及び短期大学の毎年度の事業計画及び予算決定に至る過程、手続を簡潔に記述して下さい。

A) 法人における毎年度の事業計画と予算決定に至る過程と手続

当該年度事業計画案の提出：当該年度の前年度 12 月に法人本部より短期大学事務部に 1 月上旬までに事業計画書案の提出を求める通知を送付する。

当該年度事業計画案の検討：前年度 1 月の所属上長会議において学長より短期大学の事業計画案の説明を行い、理事長から役員及び所属上長の意見を求めて検討を行う。

当該年度予算案の検討：前年度 2 月中旬に当該年度予算収入案及び当該年度事業計画支出予算案との収支の均衡を考慮して財政面からの事業計画の適否を検討する。

当該年度事業計画案の調整：前年度 2 月下旬に当該年度事業計画案の所属上長会議における検討及び法人本部事務局における財政面からの検討を基に法人本部事務局と短期大学事務部との間で調整を行う。

当該年度事業計画書案及び予算案の策定：前年度 3 月上旬に 2 月までの検討・調整を基に、理事長が 3 月定例理事会・評議員会に提案する学園全体の当該年度事業計画書案及び予算案（主要事業計画書含む。）を策定する。

当該年度事業計画案及び予算案の承認・決定：前年度 3 月の定例評議員会において理事長は、事業計画書案及び予算案（主要事業計画書含む。）を提案して意見を聞いた上で、理事会に諮り承認を得て決定する。

B) 短期大学における過程と手続

本部から総予算枠が通達され、それに基づき、短大内で各課(科)から予算申請を提出後、ヒアリングを行う。学長・副学長・事務部長の検討により、承認（削減等）され、全体の科目調整後、短大予算として本部に提出する。

(3) 決定した予算の短期大学各部門への伝達方法、予算執行に係る経理、出納の業務の流れを必要な承認手続きを含めて簡潔に記述して下さい。なお経理規程等の財務諸規程について、整備している規程名を列記して下さい。財務諸規程は訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

学内の予算については、ヒアリング終了後に検討結果を事務部長から各部署に通達する。予算の執行については、「学校法人 常葉学園規程集」第 4 編「経理 学校法人常葉学園経理規則（経理規則・補助経理規定）」に基づき、各課担当より支出伺いにより学長承認をとり執行可能としている。20 万円以上の執行については「原議書」にて理事長承認を経て決裁後、執行可能となる。

経理、出納業務については執行後、業者からの納品・請求書を取りまとめ学長決裁後、本部（会計課）へ送付し、処理が行われる。

(4) 過去3ヶ年(平成16年度～18年度)の公認会計士監査状況の概要を開催日順に記述して下さい。公認会計士の監査と監事がどのように連携しているか、また公認会計士から指摘を受けた事項があれば、その対応について記述して下さい。

A) 過去3ヶ年の監事の監査内容

平成16年度

財産状況の監査

平成15年度収支決算につき関係帳票との突合・精査により収支の状況を聴取確認。平成16年度予算の執行状況、予算の補正及び財産管理状況につき事情聴取。適正に処理されていることを確認(平成16年5月19日、10月7日、平成17年3月8日)。

監査法人の監査に同席し情報交換(平成16年5月7日)。

理事の業務執行状況の監査

平成16年度主要事業実施状況の概要等につき関係書類等により理事長等から事情聴取を行い、不正の行為、法令及び寄附行為に違反する事実のないことを確認(平成16年7月15日、12月1日)。

平成17年度

財産状況の監査

平成16年度収支決算につき関係帳票との突合・精査により収支の状況を聴取確認。平成17年度予算の執行状況、予算の補正及び財産管理状況につき事情聴取。適正に処理されていることを確認(平成17年5月7日、10月5日、平成18年3月8日)。

監査法人の監査に同席し情報交換(平成17年5月7日)。

業務状況の監査

平成17年度主要事業実施状況の概要等につき関係書類等により理事長等から事情聴取を行い、不正の行為、法令及び寄附行為に違反する事実のないことを確認(平成17年7月15日、12月1日)。

平成18年度

財産状況の監査

平成17年度収支決算につき関係帳票との突合・精査により収支の状況を聴取確認。平成18年度予算の執行状況、予算の補正及び財産管理状況につき事情聴取。適正に処理されていることを確認(平成18年5月9日、平成19年3月16日)。

監査法人の監査に同席し情報交換(平成18年5月9日、平成19年3月16日)。

業務状況の監査

平成18年度主要事業の実施状況の概要等につき関係書類等により理事長等から事情聴取を行い、不正の行為、法令及び寄附行為に違反する事実のないことを確認(平成18年9月30日、平成18年12月16日、平成19年3月16日)。

B) 公認会計士の監査状況の概要

(平成16年度～18年度)

	年	月	日	概要
平成 十六 年度	16	4	26	財務諸表項目確認(固定資産の増減・減価償却計算他)
	16	4	30	財務諸表項目確認(経費月次比較分析、消費税他)
	16	5	7	財務諸表項目確認(基本金他) 監事と情報交換
	16	5	27	消費税
	16	6	3	静岡県提出計算書類

平成 十七 年度	16	6	11	財産目録確認（浜松大学「健康プロデュース学部」増設認可申請のため）
	16	6	18	財産目録及び平成 15 年度財務計算書類確認
	16	6	25	平成 15 年度財務計算書類確認及び監査報告書綴り込み
	16	9	22	事業計画・人件費・学納金他確認
	16	12	1	資金収支計算確認（有価証券の動き、経費支出他）
	17	1	27	人件費他確認（12 月賞与、年末調整、法定調書他）
	17	2	28	財産の動き及び経費他確認（有価証券の動き、経費支出他）
	17	3	29	財産の動き及び経費他確認（残高確認準備、固定資産増減他）
	17	4	27	財務諸表項目確認（固定資産の増加、奨学生支出他）
	17	5	2	財務諸表項目確認（寮会計等の本会計上の取り込み他）
	17	5	7	財務諸表項目確認（減価償却計算他）・監事と情報交換
	17	5	13	財務諸表項目確認（基本金、消費税他）
	17	6	1	県提出財務計算書類確認
	17	6	17	財産目録確認
平成 十八 年度	17	6	18	財産目録及び平成 16 年度財務計算書類確認
	17	6	22	平成 16 年度財務計算書類確認
	17	7	12	学校訪問現地調査（静岡リハビリ専門学校、菊川中・高、医療専門学校）
	17	9	22	平成 17 年度事業計画・人件費・納付金他確認
	17	12	1	資金収支計算確認（有価証券・引当資産の増減他）
	18	1	26	税務調査及び人件費他確認
	18	2	28	支払資金・固定資産・経費・退職金確認
	18	3	29	財産の動き及び経費他確認（残高確認準備他）
	18	5	1	財務諸表項目確認（有価証券の増減・残高の確認他）
	18	5	2	財務諸表項目確認（別途会計決算と本会計への組込他）
	18	5	9	財務諸表項目確認（固定資産の増減他）及び監事と情報交換
	18	5	12	財務諸表項目確認（納付金未収入金、消費税計算他）
	18	5	29	収益事業税金計算
	18	6	9	平成 17 年度財務計算書類確認
	18	6	22	平成 17 年度財務計算書類確認
	18	6	26	監査報告書綴り込み
	18	7	11	富士常葉大学現地調査（小口現金管理状況他）
	18	9	4	理事会・評議員会議事録及び平成 18 年度 5 月補正予算他確認
	18	12	4	リース料・土地取得・証憑突合他確認
	19	1	25	人件費他確認（12 月賞与、年末調整、法定調書他）
	19	2	28	リース料・経費・固定資産他確認
	19	3	16	財産の動き他確認及び納付金未収状況等を監事に説明・意見交換

* 監事との連携は、決算を中心に公認会計士から監査内容を説明し、監事と意見交換を行っている。

* 監査の内容については、公認会計士から特に指摘を受けた事項はない。

（5）財務情報の公開は今までどのようにしてきたか。また私立学校法第47条第2項に基づき、財務情報の公開をどのように実施しているか。それぞれの概要を記述して下さい。

1) 財務の公開状況

本学の財政は、法人本部において学園全体の中で公開されている状況にある。具体的な事例は次のとおりである。

学園内広報誌「常葉学園だより」上に資金収支報告書、消費収支報告書及び貸借対照表を掲載している。この学園内広報誌は学生・保護者・教職員に配布している。

平成 18 年 9 月から「常葉学園だより」と同内容で学園ホームページに掲載している。

法人本部事務局内に、財産目録・貸借対照表・収支計算書・事業報告書・監査報告書を備え付けて、在学学生及びその保護者、学園と雇用関係にある者、学園との間で法律上

の権利義務関係を有する者からの閲覧請求を求められた場合には財産目録等の書類を閲覧させる体制になっている（「常葉学園だより」参照）。

2) 今後の財務の公開に対する考え方

「常葉学園だより」及びホームページへの掲載内容について、各年度における財務の状況を概説して分かりやすい情報公開とするべく検討していく。

- (6) 寄附行為に基づき、どのような基本方針で資金等の保有と運用を考えているか簡潔に記述して下さい。なお資金等の保有と運用に関する規程等が整備されていれば、訪問調査の際に参考資料として持見いたしますのでご準備下さい。

年度内の必要経費（人件費・教育経費等）を除いた資金は、翌年度以降の修繕等に備えて保有しておくため、安全性を優先に考えて運用している。

- (7) 寄附金・学校債の募集を行っていればその概要を記述して下さい。なお寄附金・学校債の募集についての印刷物等を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

特になし。

【財務体質の健全性と教育研究経費について】

- (1) 過去3ヶ年（平成16年度～18年度）の資金収支計算書・消費収支計算書の概要を、別紙様式1にしたがって作成し、添付して下さい。

<添付資料6> 「資金収支計算書・消費収支計算書（過去3ヶ年）」参照

- (2) 平成19年3月31日現在の貸借対照表の概要を、別紙様式2にしたがって作成し、添付して下さい。

<添付資料7> 「貸借対照表の概要」参照

- (3) 財産目録及び計算書類（資金収支計算書、資金収支内訳表・人件費支出内訳表・消費収支計算書・消費収支内訳表・貸借対照表・固定資産明細票・借入金明細表・基本金明細表）について、過去3ヶ年（平成16年度～18年度）分を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

<参考資料-2> 「財産目録及び計算書類（過去3ヶ年）」参照

- (4) 過去3ヶ年（平成16年度～18年度）の短期大学における教育研究経費比率（消費収支計算書の教育研究経費を帰属収入で除した比率）を、小数点以下2位を四捨五入し1位まで求め記述して下さい。

教育研究経費比率表

（平成16年度～18年度）

	平成16年度	平成17年度	平成18年度
教育研究費支出 (a)	238,195千円	262,137千円	227,331千円
帰属収入 (b)	1,242,003千円	1,179,896千円	1,132,964千円
教育研究費比率 (a)/(b)	19.2%	22.2%	20.1%

【施設設備の管理について】

- (1) 固定資産管理規程、図書管理規程、消耗品及び貯蔵品管理規程等、施設設備等の管理に関する諸規程を、財務諸規程を含めて一覧表として示して下さい。なお整備した諸規程を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

項目	諸規程
1 事務関係	<ul style="list-style-type: none"> ・常葉学園管理規則 ・常葉学園経理規則 ・常葉学園経理規則施行規程
2 図書館関係	<ul style="list-style-type: none"> ・大学附属図書館規程 ・大学附属図書館閲覧規程 ・大学附属図書館特別貸出規程
3 管理関係	<ul style="list-style-type: none"> ・施設設備使用規程 ・大学防火・防災管理規程
4 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・常葉学園校務委託車取扱基準 ・常葉学園校用車使用並びに運転服務規程 ・常葉寮・グリーンハウス規則

(2) 火災等の災害対策等、以下の危機管理対策について現状を簡潔に記述して下さい。

火災等災害対策：本学の防災体制は、毎年度定める防火防災計画に基づいている。

防火防災委員会を組織し、防火管理者、防火担当責任者、火元責任者等定めるとともに、学長を隊長とした自衛消防隊を組織している。

災害時における防災用品は、6号館及び7号館にそれぞれ発電機を保管し、また、非常食としては、乾パン、飲料水、アルファ米など常備している。

防犯対策：防犯体制については、常葉学園就業規則第18条により、日直または宿直勤務について定められており、具体的には常葉学園宿日直規程により、その職務が定められている。

本学としては、1年間とおして職員による日直制度を取り入れている。こうしたことから、職員が毎日交代で日直に当たることとし、午後5時前後に研究室を除く校舎内全室の戸締り確認、電気の消灯等を行っている。

このほか、委託労務員が常駐し、各門扉の朝晩の開閉や夜間の巡回(午後8時～9時ごろ)についても行っている。

防犯対策としては、17年度に校内各所に防犯灯を設置し夜間の安全性に配慮したほか、18年度は、体育館北側の門扉をはじめ学校周辺のフェンスや扉等取り替えるなど実施したところである。校舎周辺がどこからでも入りやすい環境にあるので、部外者に侵入されないような、また、そうした非常事態に臨機応変に対応できる防犯対策について、一層強化する必要があると考えている。

学生、教職員の避難訓練等の対策：年度当初「常葉学園短期大学防火防災計画(案)」を事務局で作成、それを防火防災委員会で検討、年間の防災計画が決定する。それをもとに年一回、全学あげて地震を想定した教職員の誘導による避難訓練を実施している。また、起震車・煙体験・消火器体験・斜降式救助袋体験等をとおして訓練の実が上がるようになっている。

コンピュータシステムのセキュリティ対策：本学では、全教室に情報コンセントを設置し、すべての教室から学内LANに参加できる環境にある。またシトラスホール、図書館、専攻科室、中庭においては無線LANを構築している。これらはすべて登録制とし、接続している機器をすべて把握できる体制を取っており、無線LANは部外者が利用できないように対策をしている。またネットワーク利用者はウィルス対策ソフトのインストールを必須とし、ウィルス等の被害を最小にするための対策を行っている。

省エネ及び地球環境保全対策：常葉学園は、平成13年ISO14001の認証を取得し、

環境保全並びに環境教育の推進に取り組んできた。平成 17 年 7 月にこの認証を解消し、同 8 月から新たに、常葉学園独自の環境方針を定め、これまでと同様、今後も引き続き各学校それぞれ環境問題に取り組んでいくこととなった。

本学においては、これを受けて電力の使用料削減をはじめ、リサイクルの推進など省資源・省エネルギーに向けた取り組みや環境教育の推進について、引き続き全学的に実施している。

取り組みの体制は、環境管理委員会を組織し、毎月定例的に環境項目の実績を把握するとともに、各種の対策さらには教職員に対する省エネにかかる協力について種々検討している。平成 19 年度の委員は教員 5 人、職員 2 人である。

目標の設定は毎年目標を掲げ取り組んでいる。平成 19 年度の環境対策にかかわる取り組み方針は次のとおりである。

取組項目	具体策
省資源・省エネルギー対策の推進	電気使用料の伸び率低下 廃棄物発生量（燃えるゴミ等）の減量化 紙・コピー紙購入量の伸び率低下 ペットボトル・缶の減量化 分別収集の徹底化推進 リサイクルの推進（再生紙の利用促進等）
環境教育の推進	環境教育に関する授業科目内容の充実 特別活動における地域清掃等周辺環境美化 学内の環境緑化

平成 18 年度環境項目の対前年実績は電気使用料をはじめ各種項目について全学で省資源・省エネルギー対策に取り組んだ結果、防犯灯の増設など施設設備の充実により、一部は改善の余地が残されているものの、全体的には改善されてきている。

主な項目については、次のとおりである。

- ・ 電力使用量 前年度比 0.80% 増
- ・ 廃棄物量 前年度比 6.05% 減
- ・ リサイクルの促進 前年度比 29.34% 増

その他

特になし

《 改革・改善》の記述及び資料等について

【自己点検・評価について】

(1) 短期大学では自己点検・評価を、短期大学の運営のなかでどのように位置づけているか。

また自己点検・評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、自己点検・評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

本学に「自己評価委員会」が設置されたのは、平成 5 年 4 月である。委員会での活動実績として「学生による授業評価の実施」（平成 6 年）、『研究と教育 - 個人別一覧 - 』の刊行（平成 8 年）、「学内規程集」の整備・刊行（平成 10 年）、『自己点検・評価報告書 現状と課題』（平成 12 年）の刊行がある。

その後、学校教育法の改正による認証評価の義務化に伴って「常葉学園短期大学 自己

評価委員会規程」を制定（平成 17 年）。委員会の構成メンバーは、委員長・副委員長・学生部長・各学科長・教養教育主任・事務部長・事務主任の 9 名（兼務者含む）から成る。また、自己点検・評価をより的確に推進するために委員会の下に「第三者評価運営プロジェクト」「授業評価等作業部会」を設置している。

自己点検・評価の位置づけに関しては、全教員に関心をもってもらうべく、委員会での協議内容を毎回委員長が、教授会で報告することにしている。

今後の取り組みについては、4 学科・専攻科及び事務部署の各課と連携を密にし、問題の所在を明らかにし、改善に向けての議論を重ねていく必要がある。

(2) 過去 3 ヶ年（平成 16 年度～18 年度）の自己点検・評価報告書の発行状況を記述して下さい。またその報告書の配付先の概要を記述して下さい。なお過去 3 ヶ年（平成 16 年度～18 年度）にまとめられた自己点検・評価報告書を訪問調査の際にご準備下さい。

自己点検・評価報告書は、平成 12 年度以降発行していない。ただし、本学では昭和 57 年から年に一度「短大教員研修会」を行っている。毎年テーマを設定し、テーマに即した基調講演・基調報告を行い、これを踏まえつつさらに分科会で議論を深める。講演・報告・討議の内容は、報告書にまとめられ、全教員に配布している。外部には配布しないが、図書館及び学園本部に配して閲覧を可能にしている。

過去 3 ヶ年の研修内容は、「これからの中大教育のあり方 具体的な戦略に向けて」（平成 16 年）、「ライフデザインの中で各科は何を目指すか」（平成 17 年）、「短大の発展に C C <こども総合研究センター>をどう活かすか」（平成 18 年）といった内容で、短大の置かれている現状を認識し、どのように改善、生き延び策を講じていくかをテーマに討議を重ねてきている。そうした意味で、本学ではこの「短大教員研修会」も自己点検・評価活動の一環として重要な位置づけをしている。

【自己点検・評価の教職員の関与と活用について】

(1) 平成 18 年度までに行った自己点検・評価に関わった教職員の範囲を記述して下さい。また今後、どのような教職員の関わり方が望ましいと考えているかを記述して下さい。

自己点検・評価にもっとも深いかかりをもつのは「自己評価委員会」のメンバーである。この下部組織としての「第三者評価運営プロジェクト」は、各種委員会の委員長、及び事務部署の各課課長で構成されている。さらに「授業評価等作業部会」も加えると、ほぼ全教職員が自己点検・評価にかかわっていると言える。

本学がこれまでにとってきた自己点検の方法 - 学科・専攻科の科内会議及び各委員会でそれぞれに問題点を検証、それを「自己評価委員会」でさらに討議をするといった方法 - では、全教職員に問題意識をもたせるという点ではよい方法かと思われるが、全体的にやや散漫になったことも否めない。今後はもう少しスリム化した方が細かい議論が可能か。検討を要するところである。

(2) 平成 18 年度までに行った自己点検・評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。また今後、自己点検・評価の結果をどのように活用しようと考えているかについても記述して下さい。

前述したように毎年行っている「短大教員研修会」の討議の結果、ライフデザインセンター（LC）、こども総合研究センター（CC）を立ち上げた。LC は、従来の就職指導

に留まらず、もっと広く、学生のキャンパスライフ、将来の人生設計までも見据えた指導を目標とし、CCは社会に向けて「こども教育」に関する支援、情報発信の拠点となることを目標として、それぞれに活動を開始した。

平成16年度から本格的に始めた「授業評価」は、学生の評価に対する教員の改善も含めた答えをWeb及び「紀要」で公表するようにした。授業内容をより明確にするためにシラバスも大幅に改変した。

【相互評価や外部評価について】

(1) 平成18年度までに行った相互評価及び外部評価の概要を示し、評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。

平成13年以降、相互評価は行っていない。ここには平成13年4月に東京成徳短期大学と行った相互評価の概要を記すことにする。東京成徳短大は言語文化コミュニケーション科・幼児教育科・ビジネス心理科の3学科を有しており、本学と共通する学科を有していること、また、本学とほぼ同規模の短大であること等により、相互評価をお願いした。

「教育の理念・目標」「教育活動」「研究活動」「教育組織」等10項目にわる質問を提示。相互に短大を訪問し、10項目の質問に関して協議、その結果を報告書としてまとめた。委員会組織の改変等は、相互評価を機に実現したものである。

(2) 相互評価や外部評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、相互評価や外部評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

相互評価や外部評価実施のための組織、規程等については、現在、整備されていない。平成13年に行われた相互評価のメンバーは、学長・副学長・学生部長・図書館長・日本語日本文学科長・英語英文科長・保育科長・事務部長であった。

今後は「自己評価委員会」のメンバーが中心となって推進していきたいと考えている。相互評価や外部評価の実施については、「第三者評価」の中間、3年に一度程度の割合で行いたいと考えている。

【第三者評価（認証評価）について】

(1) 第三者評価を実施するための学内組織の概要を記述して下さい。

第三者評価実施に当たっての中心的役割を果たすのは「自己評価委員会」である。その下部組織として「第三者評価運営プロジェクト」と「授業評価等作業部会」の二つのプロジェクトを設けている(101P「平成18年度各種委員会等の構成」表参照)。「第三者評価運営プロジェクト」には、自己評価委員の他に、各委員会の委員長、及び各事務職の課長が加わっている。これら全体の取りまとめ役をALOが果たす。副ALOはALOを補佐する。

平成17年度から18年度にかけて、10領域32項目の評価項目に即して、各科・課における現状と問題点の整理、その報告を受けて、定例(毎月一回)の自己評価委員会で協議を繰り返した。委員会での協議事項、及びその結果については、毎月の教授会においてALOが口頭で報告をした。平成17年度末に各項目の執筆者を決定。すべての原稿が出揃った時点でALO・副ALO他若干名で原稿の読み合わせ、表現・表記の統一をはかり、最

終的に自己評価委員会で検討する、といった方法で作業を進めている。

(2) 第三者評価にあたって短期大学の決意を述べて下さい。理事長、学長、各部門の長及び A L O (第三者評価連絡調整責任者) がそれぞれ記述されても結構です。

1) 学長

第三者評価は普段見落としがちな、あるいは独善的になりがちな短大の運営全般について見直し、改革をする絶好の機会ととらえている。

昭和 57 年からの短大教員研修会で、その年ごとに共通課題を設定し、討議を重ねてきた。自己評価は、その点を一つの線と面に集大成する作業であった。第三者評価は、それをさらに客観的なスケールで再確認するものと理解している。

40 周年を迎えて、見落としていた点、改善すべきところを見直し、県内唯一の短期大学としての責任を果たしていきたいと考えている。

2) A L O

本学では自己点検・評価に見合う活動として、前述の「短大教員研修会」や【特記事項】に記した「短大運営協議会」などを、相当早い時期から行なっている。そうした努力が、今日の厳しい状況下にあっても総定員を充足するという結果に結びついているのではないかと思う。しかし、規程の整備、相互評価、外部評価といった外に向けての取り組みにおいてかなりの後れをとっていることは否めない。

本学は静岡の地において唯一の短期大学となった(他はいずれも短期大学部)。今後はさらに地域密着型 - 地域に支えられながら、一方で地域に貢献する - 短大を目指していく必要がある。緒に就いたばかりであるが、「こども総合教育センタ - 」(C C) は、地域社会に向けて「こども教育」に関する支援、情報発信の拠点となることを目標としている。

短大のおかれている状況がますます厳しいものとなることは必至。第三者評価の評価結果を真摯に受け止め、改善すべきはすみやかに改善し、学生のニーズ、地域社会のニーズに応じた短大にすべく、より一層の努力をしていかなければならないと考える。

【特記事項について】

(1) この《 改革・改善》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば評価に関する教職員への研修の実施等、当該短期大学が改革・改善について努力していることがあれば記述して下さい。

自己点検・評価に見合う活動として「短大運営協議会」がある。メンバーは「第三者評価運営プロジェクト」のメンバーとほぼ同じ。年度当初に各科及び各部署で、当該年度の努力目標を掲げ、科長会に提示する。年度末に当初目標がどの程度達成されたかを発表、その結果を報告書としてまとめる。当該年度に達成できなかった課題については、反省事項として、次年度に再検討する。

《将来計画の策定（自由記述）》の記述について

県内の4短期大学は本学を除いてすべて四年制大学の短期大学部になった。全国的に短期大学は入学者の減少から厳しい状態に置かれているが、現在本学はどうにか入学総定員を確保している。また全国的に見ても短期大学で4学科（日本語日本語文学科、英語英文科、保育科、音楽科）を設置している短大はほとんどなくなってきた。しかし二年制の高等教育機関である短期大学そのものがなくなるとは考えていない。だが一方で、同じ二年制の各種専門学校が台頭してきてることも事実である。

四年制大学に比べれば卒業までの教育に時間的余裕がないのは確かだが、現在の日本の経済状況からしても短期大学に期待している層は十分あると考えられる。問題は2年間でどういう資質を持った学生を育てるかにある。本学の学生は他の短大とここが違うといった特化したものを作らなければならない。

その特化したものが、本学全体で推進している“ライフデザイン”的考え方による教育である。それぞれの科の特徴を生かした社会人の養成である。コミュニケーション力、応用力等をもてる資質を育てることが重要と考えている。専門的な資格は仕事のベースであり、それだけあれば事足りるわけではない。それを使った人間力が必要である。当面はこの方法を前面に推し出していきたい。

不確定ではあるが、保育所保育指針が改訂され、さらに保育士資格が一種・二種（仮称）に分かれるようになると、その時は2年間での養成部分をさらに特化する必要がある。

先の話になるが、現在の3歳人口の極端な減少は15年後の短大の一層の厳しさを予想させ、また世代交代にともなう短大進学の縮小も予測される。その場合には各科の定員削減による質の重視や、常葉学園大学との一体化も考えることが必要になろう。

平成 18 年度 英語英文科教育課程

科目的種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			当該年度の履修人員(クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
教養教育科目	総合セミナー				2						87 (3)	
	哲学と人生					2					39 (2)	
	文学と人間					2					4 (1)	
	行動と心理					2					38 (2)	
	現代社会と教育					2					30 (1)	
	芸術と人間					2					13 (1)	
	歴史と人間					2					8 (2)	
	社会環境と人間					2					13 (2)	
	社会参加と活動					2					3 (1)	
	職業と人生					2					50 (1)	
	現代社会と経済					2					20 (2)	
	日本の憲法					2					24 (1)	
	数学の世界					2					4 (2)	
	科学と文明					2					5 (1)	
	地球と環境					2					13 (1)	
	情報リテラシー					2					35 (2)	
	情報とコンピュータ					1					58 (2)	
	情報とコンピュータ					1					42 (2)	
	運動と健康					2					41 (1)	
	スポーツA					1					64 (2)	
	スポーツB					1					25 (1)	
	英語圏の文化と言葉A					2					70 (2)	
	英語圏の文化と言葉B					2					12 (1)	
	フランスの文化と言葉					2					9 (1)	
	フランスの文化と言葉					2					6 (1)	
	ドイツの文化と言葉					2					14 (2)	
	ドイツの文化と言葉					2					11 (1)	
	イタリアの文化と言葉					2					1 (1)	
	イタリアの文化と言葉					2						
	中国の文化と言葉					2						
	ブラジルの文化と言葉					2					0 (2)	
専門教育科目	アクティブ・コミュニケーションA					2					74 (5)	
	アクティブ・コミュニケーションB					2					74 (5)	
	カレッジ英語A					1					73 (3)	
	カレッジ英語B					1					74 (3)	
	コミュニケーション・スキル					2					73 (3)	
	接遇マナー						2				68 (2)	
	研究セミナー						1				73 (5)	
	早期英語教育						2				29 (1)	
	幼児英語指導法A						2				28 (1)	
	幼児英語指導法B						2				19 (1)	
	幼児英語教材研究						2					
	キッズ・コミュニケーション						2				25 (1)	
	英語音声リズム						2				73 (4)	
	童話とナレーション						2					
	ピアノと歌						2				21 (4)	
	英語あそび						2				33 (1)	
	音楽あそび						2				12 (2)	
	絵あそび						2				8 (3)	
	体育あそび						2				9 (3)	
	生活あそび						2					
	早期英語教育事情						2				14 (1)	
	早期英語教育実践						1				6 (1)	
	観光英語						2				40 (1)	
	観光英語						2				37 (1)	
	接遇サービス						2				41 (1)	
	旅行産業研究						2				37 (1)	
	旅行実務概説						2				20 (1)	
	観光学総論						2				21 (1)	
	ホテル実務研究						2				36 (1)	
	ビジネス・イングリッシュ						1					

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			当該年度の履修人員(クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
	ビジネス・イングリッシュ					1					21 (1)	
	キャリア・イングリッシュ					1					35 (1)	
	キャリア・イングリッシュ					1					34 (1)	
	空港サービス研修					2					35 (1)	
	ホテル・ビジネス事情					1					34 (1)	
	企業インターンシップ					1					34 (1)	
	ホテル・インターンシップ					1					30 (1)	
	オーラルA					2					65 (4)	
	オーラルB					2					76 (4)	
	オーラルC					2					14 (1)	
	オーラルD					2					74 (2)	
	ライティングA					2					70 (1)	
	ライティングB					2					14 (1)	
	ライティングC					2					67 (1)	
	発音クリニック					1					35 (2)	
	E・スタディ					2					49 (1)	
	留学英語					2					35 (2)	
	ポランティア通訳入門					2					24 (1)	
	トーキング・タイムA					1					43 (3)	
	トーキング・タイムB					1					16 (3)	
	トーキング・タイムC					1					8 (2)	
	Eメール・ダイアリーA					1					49 (1)	
	Eメール・ダイアリーB					1					82 (1)	
	イングリッシュ・ドット・コム					1					10 (1)	
	トラベル・イングリッシュ					1					38 (2)	
	スクリーン・イングリッシュ					2						
	クッキング・イングリッシュ					1					26 (1)	
	キッズ・イングリッシュ					1					28 (1)	
	英語圏事情					2					37 (1)	
	海外語学実習					2					27 (1)	
	海外長期研修					6					11 (1)	
	検定英語A					1					33 (1)	
	検定英語B					1					28 (2)	
	検定英語C					1						
	TOEIC・イングリッシュA					1					62 (2)	
	TOEIC・イングリッシュB					1					28 (1)	
	TOEFL・イングリッシュ					1					11 (1)	
	異文化コミュニケーション					2					54 (2)	
	英語科教育法					2					3 (1)	
	日本語教育					2						
	日本語教育実践					2						
	アナウンス入門					2					22 (1)	
	ことばの科学					2					15 (1)	
	幼児と言語修得					2					0 (1)	
	英米文学の世界					2					36 (1)	
	比較文化					2					48 (1)	
	卒業研究					2					55 (5)	
	日本語表現法					2					18 (2)	
	プレゼンテーション論					2					5 (1)	
	コンピュータ・スキル					2					21 (2)	
	コンピュータ・スキル					2					8 (1)	
	コミュニケーション論					2					18 (1)	
	ビジネス文書実務					2					36 (1)	
	英語資格A					2					79 (1)	
	英語資格B					2					82 (1)	
	実務英語資格					1					69 (1)	
	一般実務資格					1					70 (1)	
	総合基礎講座					1					0 (1)	

(注) 1. 実習には実験、実技を含みます。

2. 履修人員欄の括弧書き数字は、履修人員を幾つのクラスに分けているかを示します。

3. 履修人員には、他学科生及び専攻科学生を含みます。

4. は平成 18 年度開講しなかったことを示します。

英語英文科は平成 19 年度に大幅な科目変更を行った。「前年度の履修人員」欄に実数を記入することができず、参考までに平成 18 年度の「教育課程表」を添付することとした。(「報告書」13P 注参照)

なお、「前年度の履修人員(クラス数)」は「当該年度の履修人員(クラス数)」とし、平成 18 年度の実数をあげた。

平成 18 年度 専攻科 国語国文専攻 教育課程

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			当該年度の履修人員(クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門科目	日本文学論				4						7 (1)	
	伝承文学研究				4						7 (1)	
	国語学特論				4						7 (1)	
	国文学作家作品研究					2					7 (1)	
	国文学作家作品研究					2					6 (1)	
	国文学作家作品研究					2						
	国文学作家作品研究					2					9 (1)	
	国文学作家作品研究					2						
	国文学作家作品研究					2					12 (1)	
	言語学研究					2					16 (1)	
	言語情報研究					2					12 (1)	
	日本文学特殊研究					4						
	日本文学特殊研究					4					3 (1)	
	日本文学特殊研究					4					5 (1)	
	国語学特殊研究					4					5 (1)	
	漢文学特殊研究					4					7 (1)	
	日本古典芸能特殊研究					4					7 (1)	
	情報文化特殊研究					4					7 (1)	
	郷土文学研究					2					6 (1)	
	言語文化論					4					5 (1)	
	日本文化論					4					22 (1)	
	日本民俗文化論					4					5 (1)	
	日中比較文学論					4					5 (1)	
	文化人類学					4						
	ことば					2					0 (1)	
	国語教育研究					2					2 (1)	
	修了論文					4					5 (3)	

(注) 1. 実習には実験、実技を含みます。

2. 履修人員欄の括弧書き数字は、履修人員を幾つのクラスに分けているかを示します。

3. 履修人員には、他学科生及び専攻科学生を含みます。

4. は平成 18 年度開講しなかったことを示します。

専攻科 国語国文専攻は平成 19 年度に大幅な科目変更を行った。「前年度の履修人員」欄に実数を記入することができず、参考までに平成 18 年度の「教育課程表」を添付することとした。(「報告書」18P 注参照)

なお、「前年度の履修人員(クラス数)」は「当該年度の履修人員(クラス数)」とし、平成 18 年度の実数をあげた。

参考資料一覧表

	備考	報告書頁
教育の内容		
1 シラバスあるいは講義要項	「授業内容ガイドブック」「専攻科授業内容ガイドブック」	22・23
2 選択科目の履修について記載している印刷物	「授業内容ガイドブック」	24
3 学生による授業評価票	「授業評価票」「学生による授業評価結果一覧」「紀要」第37号	28・55
教育の実施体制		
1 教員の個人調書	教員の個人調書	32
2 教員選考基準を示した規程等	「常葉学園規程集」	33
3 校地、校舎に関する図面（全体図、校舎等配置図、用途<室名>）	「学生生活ハンドブック」	38
4 図書館等の規程	「常葉学園規程集」	42
教育目標の達成度と教育の効果		
1 「学生の満足度」の調査票の様式	「学生による授業評価結果一覧」「紀要」第37号	55
3 卒業生アンケート調査票	「常葉学園短期大学卒業生に関する調査資料」	65
学生支援		
1 募集要項 入学願書等	「平成20年度学生募集要項」「入学願書」	68
2 入学手続き者に事前に配布する印刷物等		68
3 学習や科目選択のための印刷物	「学生生活ハンドブック」 各科のファイル	68
4 学生生活の満足度について	「平成18年度学生生活アンケート報告書」	72
5 学生支援のための学生の個人情報を記録する様式	「学生生活実態調査」	75
6 進路一覧表等の実績（過去3ヶ年）についての印刷物	「進路一覧表」	80
研究		
1 教員個人の研究業績書（過去3ヶ年）		84
2 教員の研究活動について公開している印刷物（過去3ヶ年）	「紀要」第35・36・37号	84
3 科研費の採択等、外部からの研究資金の調達状況（過去3ヶ年）		84
4 研究費（研究旅費を含む）等の支給規程等	研究費予算執行計画申請書	85
5 過去3ヶ年の研究紀要・論文集	「紀要」「常葉国文」「常葉英文」等	85
管理運営		
1 現在の理事・漢字・評議員名簿		90
2 平成18年度分の理事会議事録		91
4 委員会規程	「常葉学園短期大学学内規程集」	101
5 事務組織についての諸規程	「常葉学園規程集」	106
6 教職員の就業についての規程	「常葉学園規程集」	106
財務		
1 財務情報の公開	「常葉学園だより」	112
2 財産目録及び計算書類（過去3ヶ年）		112
5 固定資産管理規程、図書管理規程、消耗品及び貯蔵管理規程、施設設備等管理諸規程、財務諸規程	「常葉学園規程集」	112
改革・改善		
3 第三者評価の実施についての規程等	「常葉学園短期大学学内規程集」	116

おわりに

平成 17 年、ALO の任を拝命した。東京での数度にわたる ALO 説明会に出席、任務の概要を聞きながら、まず思ったことは、これは大変なことだ、果たして自分みたいな者に務まるであろうか、ということであった。同様の思いは他の ALO の方々にもあったらしく、そうした不安を訴える質問が次々に発せられた。ともあれこの業務は誰かがしなければならないのだと腹をくくった。

平成 19 年に短大基準協会による評価を受けることに決定してからは、基準協会の示す「自己点検・評価報告書作成マニュアル」に従って、10 領域、32 項目ごとに、それぞれの科、部署がまず現状と問題点を整理、その報告を受けて、委員会で議論を重ねてきた。3 年間は、この業務に忙殺されたが、もとよりひとりで出来る仕事ではない。各科長・部、課長・委員会メンバーの多大な協力あってのことである。

原稿は、学長・副学長（ALO）をはじめ、各科長・部、課長・委員会メンバーが分担、執筆した。

平成 18 年 10 月に第 1 次原稿が出揃ってからは、この原稿の読み合わせを中心に、さらに点検、加筆修正を行った。データに基づいた客観的記述は当然のこと、常日ごろのデータ整理がいかに大切であるかを痛感した。

訪問調査は平成 19 年 10 月 4 日、5 日に受けた。評価員の先生方は、実に真摯でさまざまご助言をくださった。今思うと快い緊張であった。また、この間には基準協会事務局からも懇切丁寧な応対と助言をいただいた。合わせて謝意を表したいと思う。

報告書作成の作業をとおして、今まで見過ごしてきた問題点も見えてきた。短大のおかれている状況はますます厳しいものとなる。第三者評価の評価結果を真摯に受け止め、改善すべきことに怠惰であってはならない。本学では平成 20 年 4 月に、L C (ライフデザイン) 推進・運営協議会を立ち上げた。月例の会議で本学の将来構想を検討している。次には相互評価も控えている。さらなる向上と充実のために教職員一同、意識を改め、一層の努力を期したいと思う。

この 3 年間第三者評価の業務にかかわっていただいた関係諸氏に心から感謝申し上げたいと思う。

平成 20 年 6 月

自己評価委員会委員長・ALO
尾崎富義

平成 19 年度 自己評価委員会

委員長：尾崎 富義（副学長・ALO）

委員：山本 伸晴（学長・CC長）、戸藤 利明（学生部長・教養教育主任）

上野 力（日本語日本文学科長）、一言 哲也（英語英文科長）

加藤 光良（保育科長）、桑原 啓郎（音楽科長）、繁原 央（専攻科長）

白鳥 弘（事務部長）、森田 恵美（事務主任）

平成 19 年度 第三者評価運営プロジェクト

キャップ：尾崎 富義

副キャップ：一言 哲也

メンバー：上記自己評価委員の他、

稻葉 昌代（LC長）、平井 修成（図書委員会）

瀬戸 宏太（総合セミナー委員会）、小田 寛人（LC運営委員会）

鈴木 久美子（セクハラ防止委員会）、永倉 由里（環境管理委員会）

土屋 啓明（事務部次長・学生課長）、石原 純（学生部次長・教務課長）

石和田 博保（入試課長）

平成 19 年度 自己点検・評価報告書

発行日：平成 20 年 6 月 8 日

編集：常葉学園短期大学 自己評価委員会

発行：常葉学園短期大学

〒420-0911 静岡県静岡市葵区瀬名二丁目 2 番 1 号

TEL 054-261-1313 / FAX 054-263-4818

印刷：株式会社 篠原印刷所

TEL 054-286-5141 / FAX 054-285-6261
